新潟大学附属図書館
郷土資料室

(財)米子市教育文化事業団
文化財発掘調査報告書 35

青木稲場遺跡
福市遺跡(大成地区)

2000年3月

財団法人　米子市教育文化事業団

序

当事業団ではこの度特研工業宅地開発工事に伴い、青木稲場遺跡・福市遺跡（大成地区）の発掘調査を行ってまいりました。調査地は米子を代表する遺跡である青木遺跡・福市遺跡に隣接する位置にあり、調査の結果、青木稲場遺跡では古墳時代の住居跡２棟、福市遺跡（大成地区）では弥生時代から古墳時代の住居跡12棟が確認されました。その他土器等多量の遺物も出土し、福市遺跡・青木遺跡の広がりを知るうえで貴重な資料を提供するものと考えられます。

本発掘調査の成果が、今後の調査研究および教育のために広く活用され、一般の方々に埋蔵文化財に対する理解、関心を高めていただくうえでの一助となれば幸いに存じます。最後になりましたが、調査に際し多大なご理解とご協力をいただきました地元の方々をはじめ、ご指導、ご支援を賜りました方々、関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成12年３月

財団法人　米子市教育文化事業団

理事長　　森　田　隆　朝

例　　言

1．本書は財団法人米子市教育文化事業団が平成11年度に実施した鳥取県米子市青木稲場遺跡・福市遺跡（大成地区）にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．出土遺物は米子市教育委員会で保管している。

3．本書の編集及び執筆、図面の浄書等は米子市教育文化事業団がこれを行った。

4．調査の組織は下記のとおりである。

調　査　委　託　株式会社特研工業
調　査　主　体　財団法人米子市教育文化事業団
調　査　担　当　平木裕子（財団法人米子市教育文化事業団調査員）
調 査 補 助 員　福嶋昌子（財団法人米子市教育文化事業団臨時職員）
調査指導・協力　本田光子（別府大学文学部教授）
高橋徹（大分県立歴史博物館主幹研究員）
福岡市埋蔵文化財センター・別府大学
米子市教育委員会

（敬称略）

作業関係者

入沢未来	岩指　澄	梅林明子	大下醇子
加藤カホル	加藤晴己	金山勢津子	西古江美子
高木正之	田中恵子	虎尾一明	前田光江
宮野裕介	矢野早苗	渡部安子	入沢美智子
大江由美子	加藤正子	近藤智子	濵田博美
細田恵美	村脇あゆみ	森田久美子	安江満つ美

目　　次

序
例　　言
目　　次

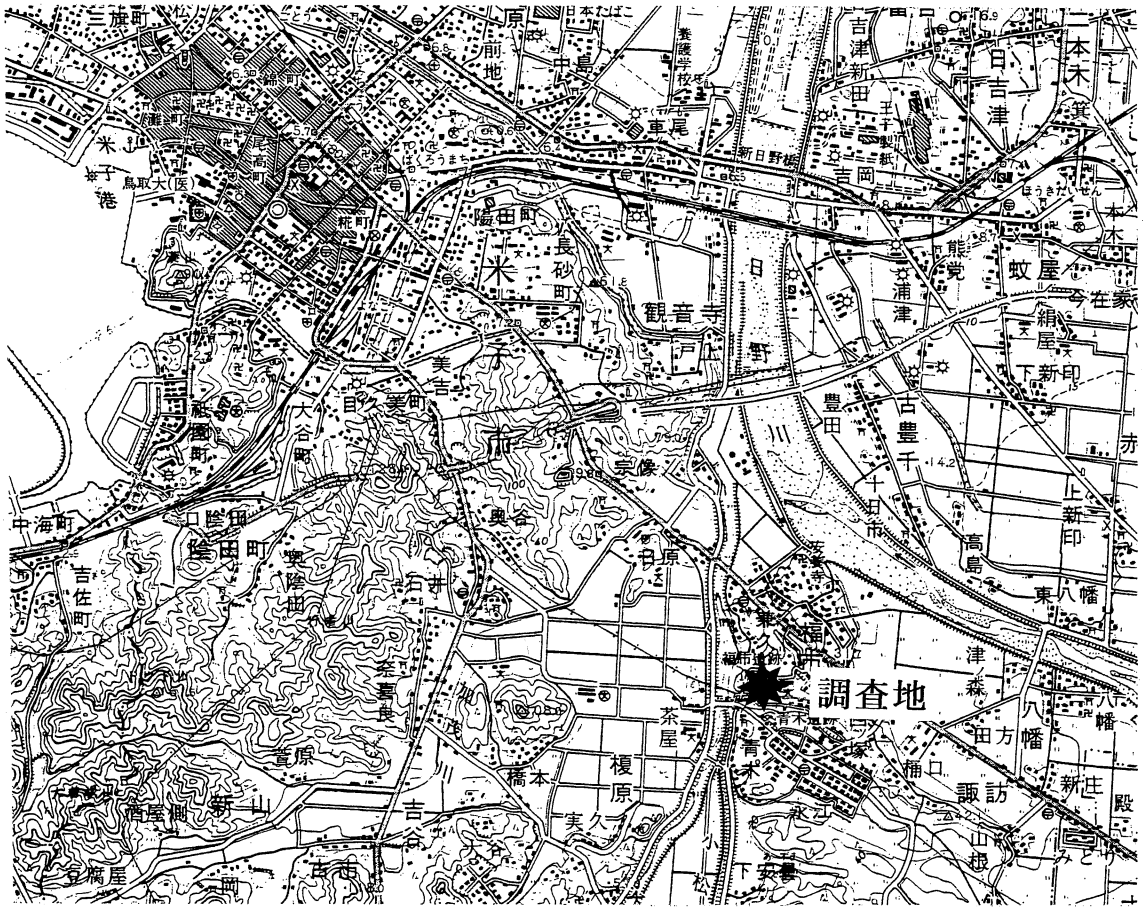
Ⅰ　はじめに …… 2
　1　調査の概要 …… 2
　2　位置と環境について …… 2

Ⅱ　青木稲場遺跡の調査について …… 5
　1　概要 …… 5
　2　竪穴住居跡 …… 6
　3　遺構外遺物について …… 11
　　縄文土器 …… 11
　　弥生土器 …… 11
　　土師器 …… 11
　　韓式土器・須恵器 …… 13
　　その他 …… 13

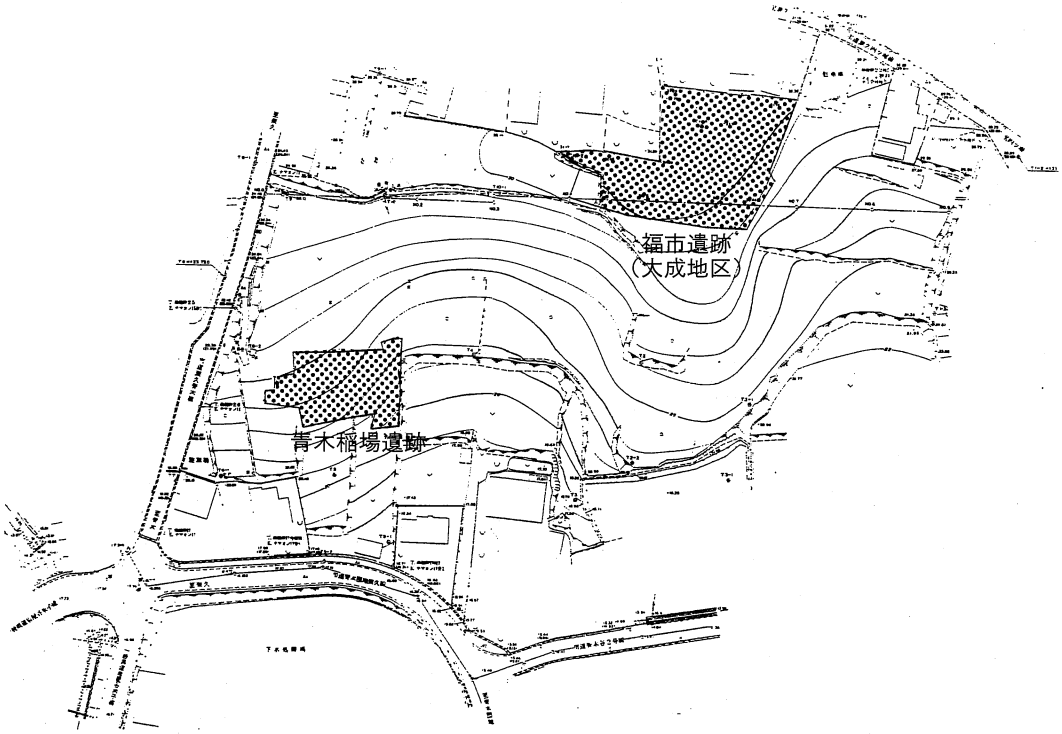
Ⅲ　福市遺跡（大成地区）の調査について …… 47
　1　概要 …… 47
　2　竪穴住居跡 …… 47
　3　その他の遺構 …… 70
　4　遺構外遺物について …… 70

Ⅳ　小　　結 …… 71

Ⅴ　附　　篇 …… 80



第１図　調査位置図（Ｓ＝１：50,000）



第２図　調査位置図（Ｓ＝１：2,000）

Ⅰ　はじめに

1　調査の概要

本調査は株式会社特研工業の宅地造成工事に伴う事前調査で、平成１１年６月１日から平成１１年９月２日まで現地調査を行った。

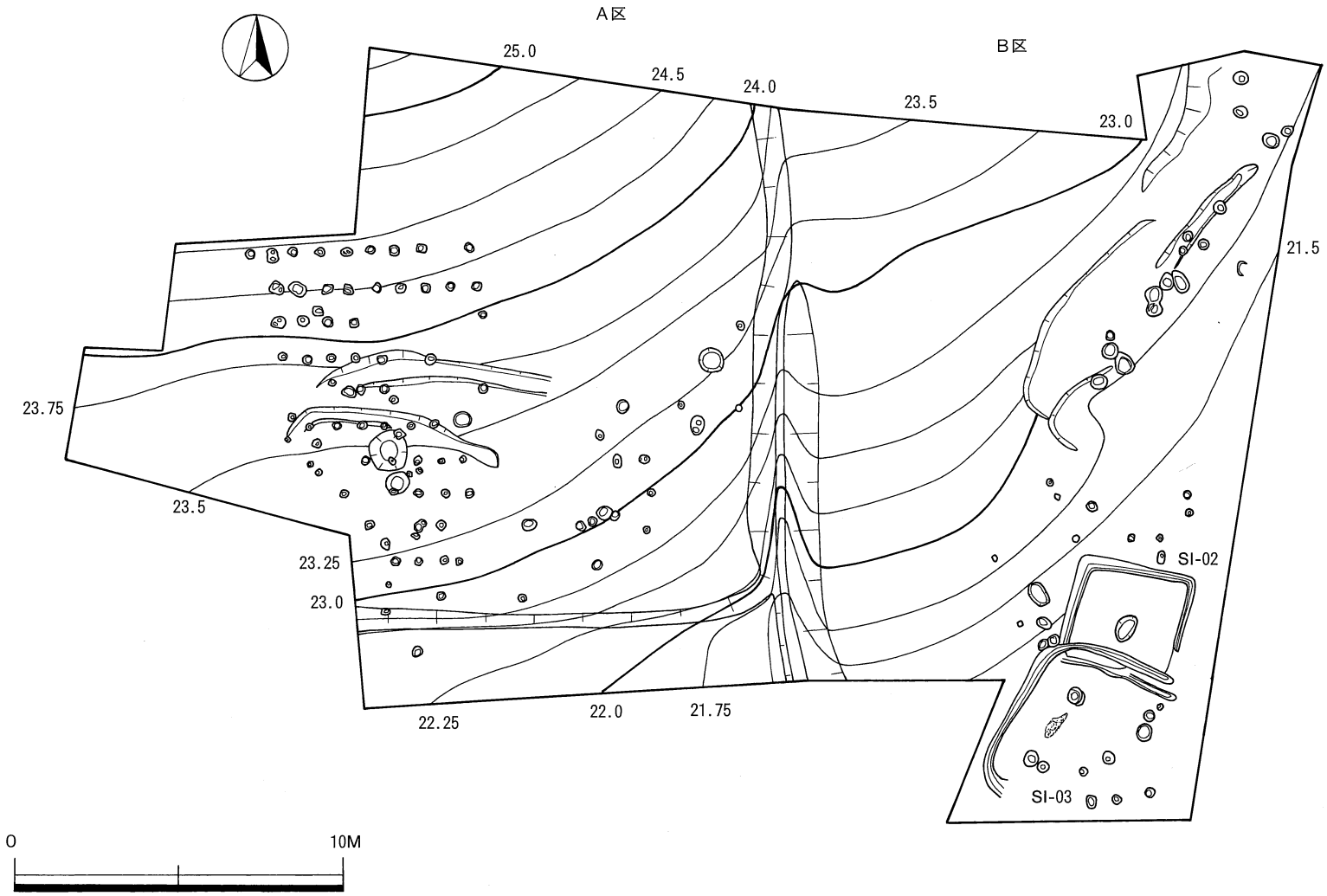
調査地は米子駅の南東方向４kmの長者原台地の標高31mの丘陵に位置する。周囲には米子を代表する弥生時代～古墳時代の集落跡のある福市遺跡（1967年調査）・青木遺跡（1971～1977年調査）に囲まれ、東側には大山を望む緩やかな斜面に位置する。現状は果樹畑でかなりの攪乱を受けていたため、工事範囲は10,000㎡以上であったが、事前の試掘調査によって、調査対象範囲を青木稲場遺跡400㎡、福市遺跡1,600㎡に絞った。対象範囲外については工事の際、遺構・遺物等が確認された時点で調査を行うこととした。なお、調査は工事の関係で青木稲場遺跡から行った。

2　位置と環境について

今回の調査地が位置する長者原台地は、標高227mの越敷山から北にのびる丘陵が東の日野川、西の小松谷川・法勝寺川によって削られ形成された台地である。台地上で生活の痕跡がみられる最も古いものとしては、隣接する青木遺跡において多数検出されている陥穴群で、縄文時代後・晩期であろう。陥穴はその他台地上で数多く認められる。稲作が開始された弥生時代前期には、台地周辺において人の生活の痕跡はほとんど見られない。唯一弥生時代前期後半の遺物が出土している遺跡として諸木遺跡（９）があげられる。ここではＶ字遺構が検出され、詳細は不明であるが環濠集落の可能性もある。他に台地と水田部の接点付近で少量の縄文晩期・弥生前期の遺物が出土するが遺構は不明である。弥生時代中期になると各地で少量の遺物は認められるが、生活の痕跡として明確になるのは中期後葉になってからで、青木遺跡（３）においてまとまって集落が営まれるようになる。弥生時代後期になると青木遺跡をはじめとして、福市遺跡（２）、下安曇遺跡（６）で集落が密集するようになる。古墳時代前期になると弥生時代から継続して福市・青木・下安曇・諸木遺跡で集落がみられる他、海ケ森遺跡（10）でも集落が作られるようになる。集落以外の遺構としては、福市・青木・下安曇遺跡で墳墓、上安曇遺跡（８）で土器棺墓がでている。古墳時代中期には前期集落が継続して作られるが、墳墓は福市・青木遺跡の他諸木遺跡周辺に中期大型前方後円墳群が築造される。古墳時代後期に入ると集落が減少し、墳墓も法勝寺川左岸、日野川右岸地帯と比べるとはるかに減少する。横穴式石室墳としては青木Ｄ１号墳が認められる以外はすべて越敷山の東側日野川沿いか西側の朝金地域に集中している。横穴は福市遺跡内で10数基ほど認められるが、大きな群をなさない。古墳時代以降になると青木遺跡内の傾斜面近くに小規模な村落がみられる。これに対して、南側の古代山陰道推定ルート周辺では大寺廃寺・坂中廃寺が存在する。礎石だけでは普門院、長者原、岩屋谷で認められており、平安時代以後の小堂のあった可能性がある。しかし台地が開拓され水田化するのは幕末以後であり、それ以前は周辺谷水田及び河川周辺部に拠っていたがゆえに、飛躍的生産拡大が行えず、台地開発が止まっていたと思われる。

1　青木稲場・福市遺跡	7　別所遺跡群	13　境古墳群	19　日原古墳群
2　福市遺跡群	8　上安曇古墳群	14　榎原遺跡群	20　宗像古墳群
3　青木遺跡群	9　諸木遺跡	15　実久山古墳群	21　東宗像古墳群
4　諏訪古墳群	10　海ケ森遺跡	16　吉谷遺跡	22　観音寺古墳群
5　放レ山遺跡	11　三崎遺跡	17　橋本遺跡	
6　下安曇遺跡群	12　三崎古墳	18　奈喜良遺跡	

第３図　周辺遺跡分布図（Ｓ＝１：25,000）



第４図　青木稲場遺跡調査全体図（Ｓ＝１：200）

Ⅱ　青木稲場遺跡について

１　概要

調査地は米子市兼久393-1 の標高は高いところで25m、低いところで20mの緩斜面に位置する。調査は平成11年６月１日に開始し、平成11年７月９日まで行った。調査面積は557.994 ㎡であった。

調査はまず調査地を東西に二分割し、西側をＡ区、東側をＢ区、さらにそれぞれを三分割し、北側から１区、２区、３区とし、Ａ－１区から順に掘り下げていった。試掘調査の段階で堆積が余りないことが分かっていたため、重機等は一切使用せず最初から手掘りによる作業を行った。

Ａ－１区　　遺構は全く確認されず、須恵器甕（第28図No.395）・須恵器高台付坏（第29図No.407）等小片を数点検出したのみである。

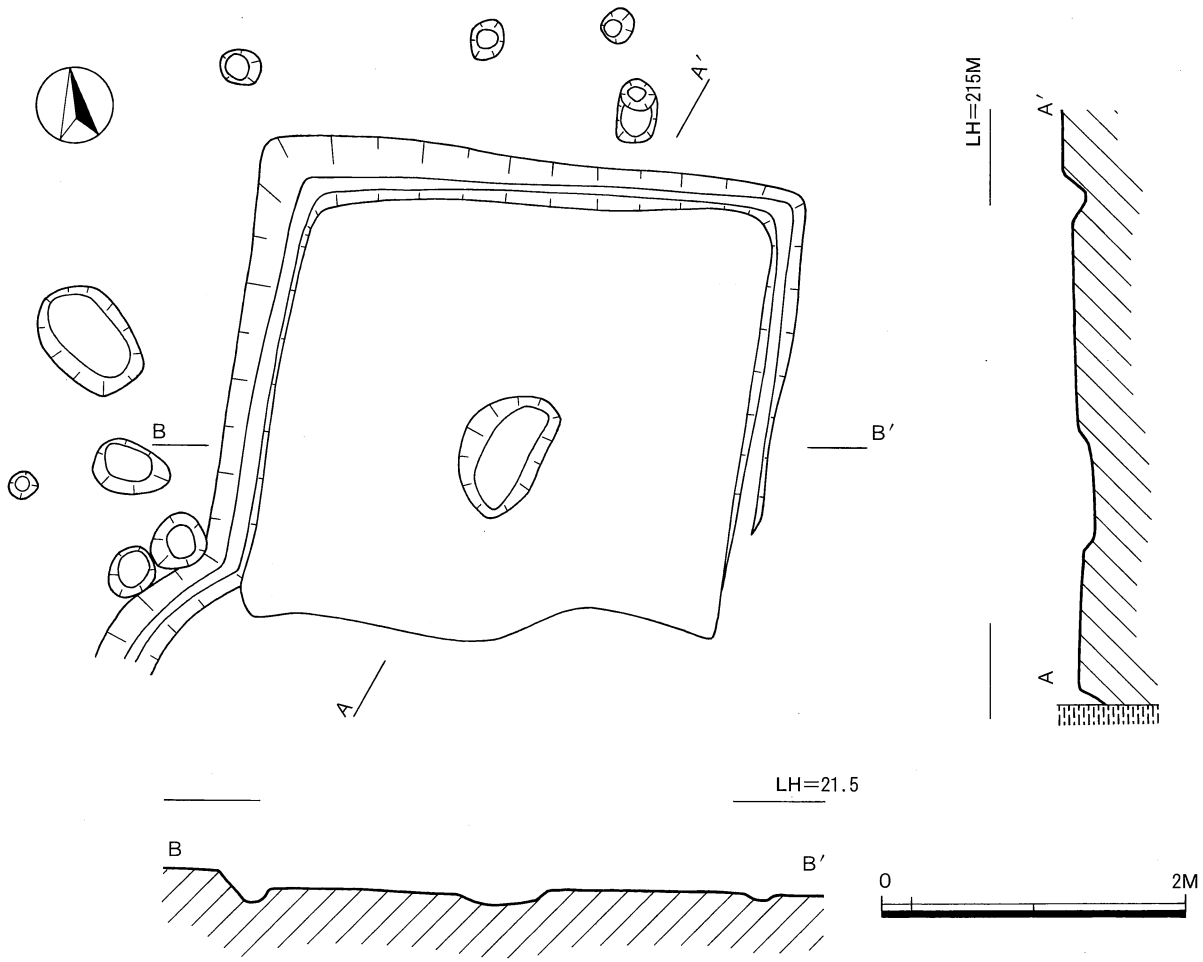
Ａ－２区　　黒色土の溜りを検出し、この黒色土中及び周辺より小型のピット状の穴を多数検出したが、おそらくは植栽によるものと考えられる。黒色土溜りをほりさげたところ、僅かな溝と柱穴痕を検出し、また中からは遺物（第27～30図）として弥生土器甕（No.376）・てづくね（No.392）・土製支脚（No.393 ）・須恵器壷(No.397)・須恵器甕(No.394・396・398)・須恵器鉢(No.399)・須恵器高坏(No.400・401)・須恵器坏蓋(No.403～405)・須恵器坏身（No.406）・須恵器把手（No.410）・瓦質土器高台付坏（No.408）・砥石（Ｓ２）・石皿（Ｓ５）・土錘（Ｐ１）等多数出土しているが、住居としては考え難く比較的広い範囲に黒色土が溜まっていることからみて、自然溜りと考えられる。

Ａ－３区　　段状に落ち込んでいたが、これは後世の掘削によるもので、柱穴状のものを幾つか検出したほかは、流れ込みと思われる遺物を何点か出土したのみであった。

Ｂ－１区　　Ｂ－２区にかけて黒色土溜りを検出した。ここは試掘の段階で住居跡と思われていた箇所であったため、住居跡SI-01として掘り進めていったが、落込みは深いところで約１ｍで北東に続くため拡張を行った（第９図)。しかし落込みは更に続くと見られたが、工事の影響を受けないということで拡張は途中断念した。落込みは斜面を意図的にカットしたものと思われるが、また柱穴状の穴も検出したが並ぶものもなく、住居を思わせるような平坦面も検出されなかったこと、遺物は多量に出土したが時期が混在しているため、この落込みは後世の影響によるものと思われる（遺物については後述する)。その他表土面で土師器甕（第27図No.380・382・384)・土師器高坏(第27図No.385)・土師器低脚坏(第27図No.388)・土師器器台(第27図No.389・390)・須恵器（第29図No.402）が出土している。

Ｂ－２区　　Ｂ－１区からの土器溜り黒色土層のほか、表土面において弥生土器壷（第27図No.378)・弥生土器甕（第27図No.377)・土師器甕（第27図No.381)・土師器高坏（第27図No.386)・土師器坏（第27図No.391）が出土している。

Ｂ－３区　　南東隅において住居跡を確認した（SI-02)。掘り進めたところ、この住居の南側にもう１棟住居を確認した（SI-03)。表土面では土師器壷（第27図No.379)・土師器甕（第27図No.383)・土師器高坏（第27図No.387）が出土している。

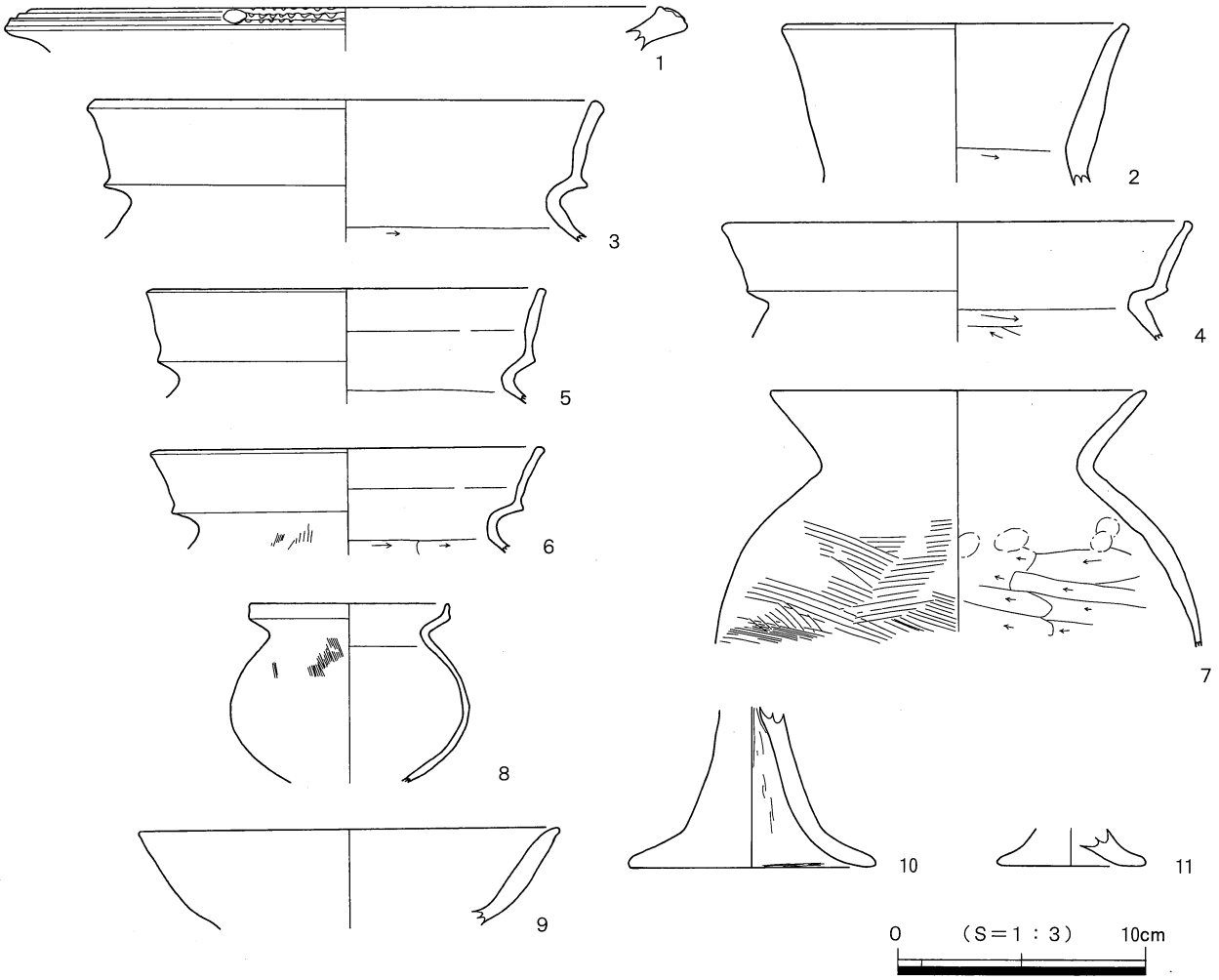


第５図　青木稲場遺跡SI-02平面図および断面図（Ｓ＝１：50）

２　竪穴住居跡

ＳＩ－０２（第５図）　南側の壁を欠くが、床幅3.1m・奥行2.5m・最大壁高45cm・床面標高20.9m・残存床面積8.63m²で、N20°Ｅ方向を向く。床面には柱穴はなく、壁際に幅20cm・深さ８cmの溝を巡らしただけであった。また中央には焼土を検出している。本住居の周辺に幾つかの柱穴痕を検出し、本住居とのかかわりが考えられたが、東部及び南部を欠いているうえ、検出した柱穴にも規則性がなく正確なことは不明である。切り合いからSI-03より新しいと思われる。

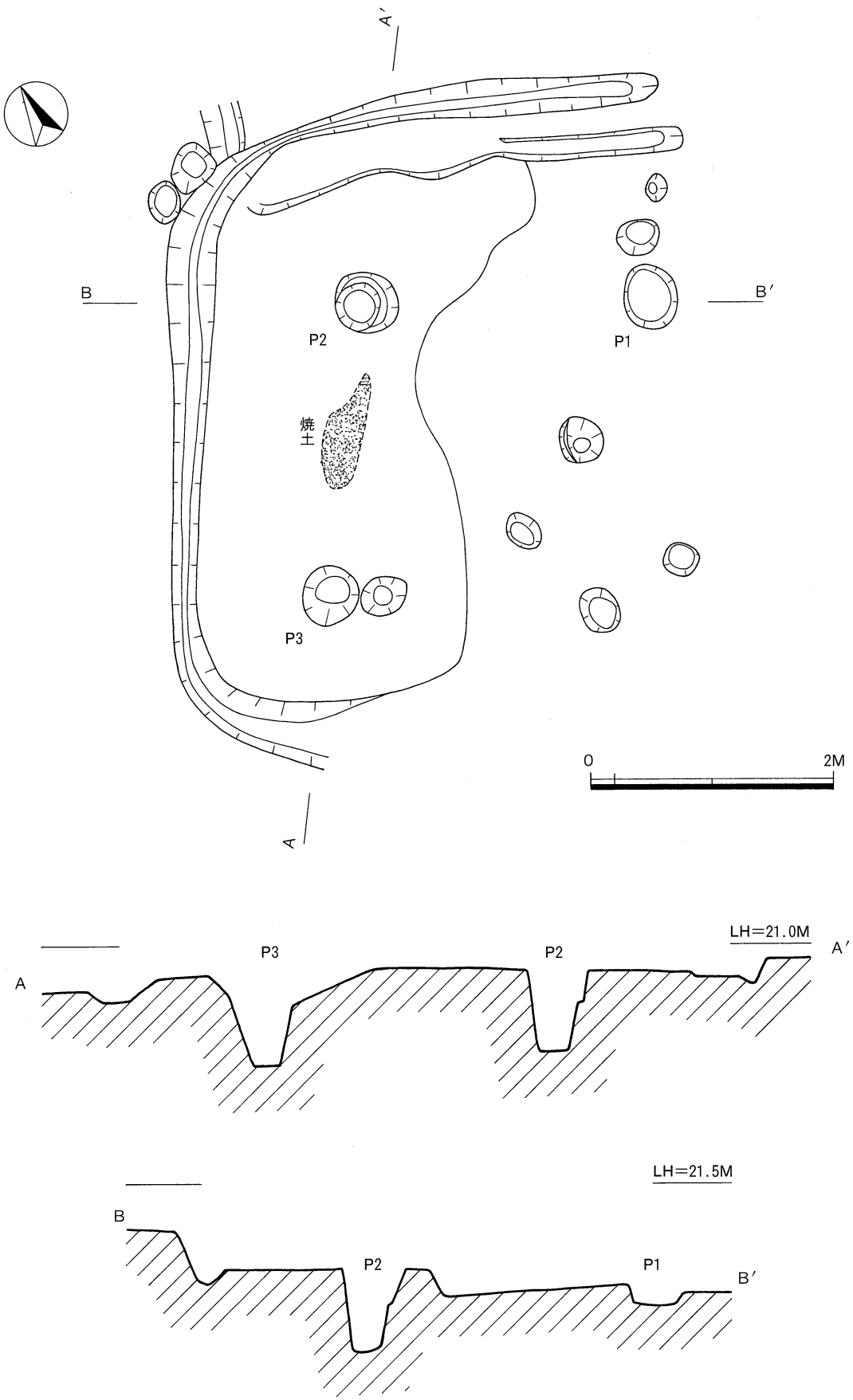
出土遺物（第６図）　床面等本住居に伴うと思われるものはなく、いずれも上層部からの出土である。壷（No.２）、土師器甕（No.３～７）、土師器小型壷（No.８）、高坏（No.９・10）、低脚坏脚部（No.11）、弥生土器壷（No.１）、石斧（Ｓ１）である。No.２の壷は直口壷と思われる。甕はNo.７の「くの字」口縁以外は複合口縁で、No.３・５は口縁端部に面取りを施し、No.４・６は口縁端部が丸く膨らむタイプで、前者は内側に膨らむ。



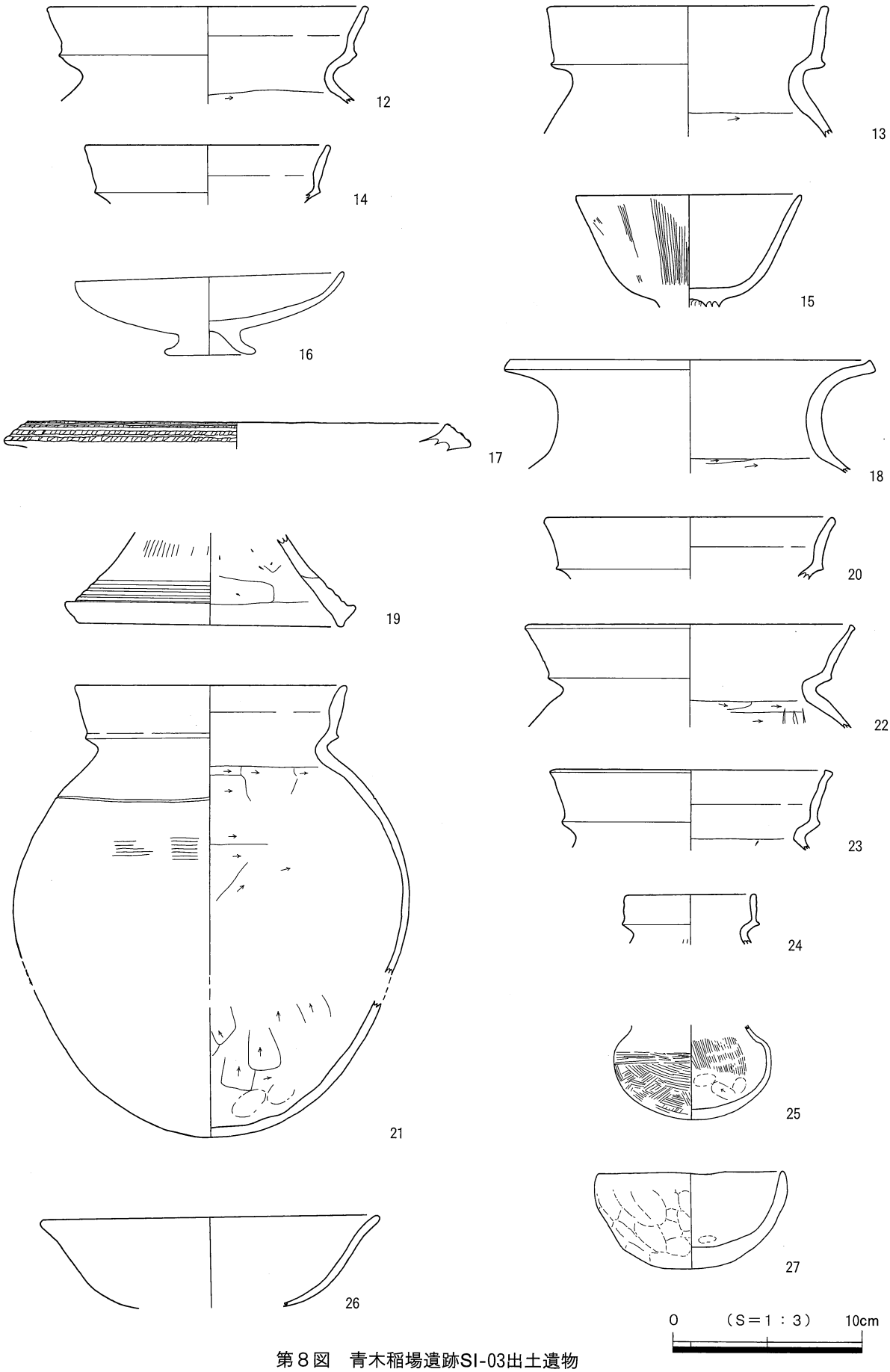
第６図　青木稲場遺跡SI-02出土遺物

ＳＩ－０３（第７図）　南東隅は消滅していたが、床幅 3.7m・残存奥行 3.7m・最大壁高30cm・床面標高20.7m・残存床面積10.5m²で、N25°Ｅ方向を向く。床面には大小合わせて10穴の柱穴を検出した。うち本住居に伴うものはＰ１（55cm×45cm－15cm）・Ｐ２（40cm×35cm－68cm）・Ｐ３（40cm×36cm－76cm）の３穴と思われ、各柱穴間はＰ１－Ｐ２（2.4m）・Ｐ２－Ｐ３（2.35m）である。また床面壁際には幅23cm・深さ10cmの溝が巡る。青木Ⅶ古からⅦ新の時期と思われる。

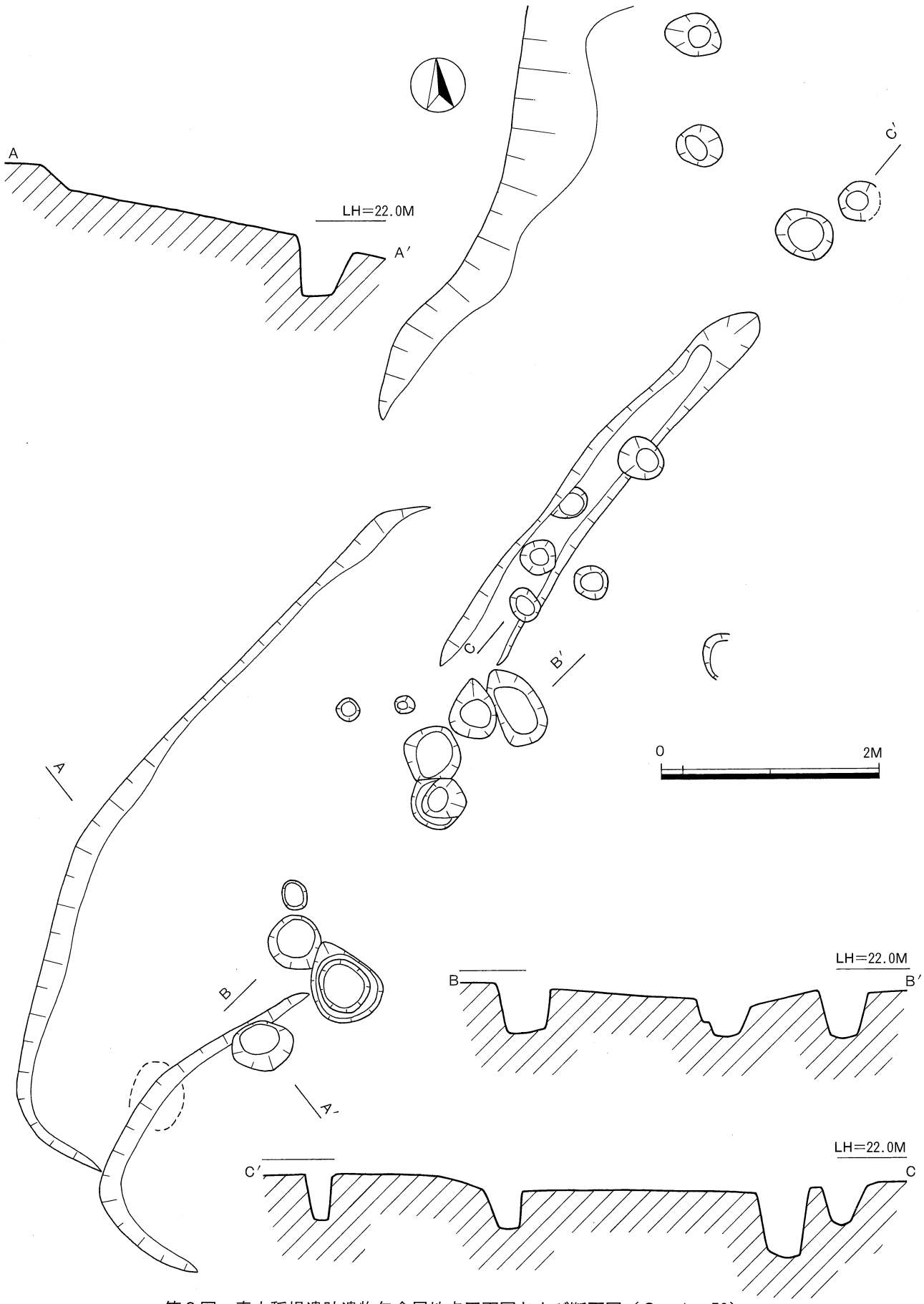
出土遺物（第８図）　土師器甕（No.12～14）・土師器高坏（No.15）・低脚坏（No.16）の５点のみである。その他上層部からの出土として弥生土器壷（No.17・18）・弥生土器高坏（No.19）・土師器甕（No.20～24）・土師器小壷（No.25）・高坏（No.26）・坏（No.27）が出土している。土師器甕はすべて複合口縁で、No.22・23は口縁端部を面取り、No.13・14・20・21は端部を丸く仕上げる。No.24は小型のものである。弥生土器はいずれも流れ込みのものと思われる。



第７図　青木稲場遺跡SI-03平面図および断面図（Ｓ＝１：50）



第８図　青木稲場遺跡SI-03出土遺物



第９図　青木稲場遺跡遺物包含層地点平面図および断面図（Ｓ＝１：50）

3　遺構外遺物について

青木稲場遺跡の出土遺物は、その大半が遺物包含層からの出土であった。その検出状況は一括遺物であり、層位ごとに時期を決定付けることは不可能であった。遺物包含層遺物を第10図～第26図、その他の遺物として第27図～第30図に記載する。

縄文土器（第10図）No.28は断面三角形の無刻目突帯文の甕形土器の口縁部である。

弥生土器（第10・11・27図）

壷　(No.30～40・378)No.36・37以外は朝顔形に口縁の開くもので、No.30・32は段上に突帯を巡らす。No.34・36～38は箆で刻む圧痕文帯を巡らす。

甕　No.376は前期の土器で口縁部は「くの字」に屈曲し、端部は僅かに肥厚する。No.41～46・377は中期の土器で頸部は「くの字」に屈曲し、口縁端部は肥厚しNo.43・44は沈線を施す。頸部には突帯が巡る。No.47～51は後期の土器で頸部は「くの字」に屈曲し、口縁部は上部に伸び沈線を施す。No.52～55は恐らく甕の底部である。

高坏　No.56は高坏の脚部で、外面には沈線を施す。

土師器

壷　（第11・12・27図No.57～70・379・380）

No.60～64は複合口縁を呈するもので、立上がりは外反あるいは外方に広がる。No.65～67・70は複合口縁を呈するもので、立上がりは太く短く内傾する。No.68は複合口縁で立上がりが短く内傾する。No.69は頸部が緩やかに外反する単純口縁を呈する。

甕　（第12～23・27図）

大型複合口縁の甕、複合口縁を呈する甕、退化口縁を呈する甕、「くの字」口縁を呈する甕に分けられる。No.71～76は大型複合口縁の甕で立上がりは長く、直線的に開き、稜も明瞭である。No.285～290は退化口縁を呈する甕の口縁部でNo.285～288はまだ顕著な複合口縁の名残が見られるが、No.289・290はほとんど「くの字」に近い口縁部である。No.291～295・383・384は「くの字」口縁を呈し、No.291・293～295は外反気味に屈曲し、他は内弯気味に屈曲するタイプである。No.77～284は複合口縁を呈するものであるが、今回もっとも多く出土しているため、これらについて口縁端部の形状・立上がりの形状・稜の形状によって次のように分類を行ってみた。

・口縁端部の形状

A　面取り

B　丸く収まる

C　丸みを持たせて外（内）につまみ出す

D　やや細くなる

E　先細り（シャープ）

・複合口縁立上がりの形状

a　外反

b　直線的に開く

c　直立

d　外反気味に直立

・複合口縁稜の形状

1　横方向に突き出す

2　斜め下方に突き出す

3　不明瞭

A類　口縁端部を面取りしてあるもの

No.77～98は外反気味に立上がり、稜が横方向に突き出す（Ａａ１）。No.99～119は外反気味に立上がり、稜は斜め下方に突き出す（Ａａ２）。No.120～126は外反気味に立ち上がるが、稜はあまり明瞭ではない（Ａａ３）。No.127～139は立上がりは直線的に開き、稜が横方向に突き出す（Ａｂ１）。No.140～147は立上がりは直線的に開き、稜は斜め下方に突き出す（Ａｂ２）。No.148は立上がりは直線的に開き、稜はあまり明瞭ではない（Ａｂ３）。No.149は直立して立上がり、稜はあまり明瞭ではない（Ａｃ３）。

B類　口縁端部を丸く収まる

No.150～162は外反気味に立上がり、稜が横方向に突き出す（Ｂａ１）。No.163～175は外反気味に立上がり、稜は斜め下方に突き出す（Ｂａ２）。No.176～197は外反気味に立ち上がるが、稜はあまり明瞭ではない（Ｂａ３）。No.199～201は立上がりは直線的に開き、稜が横方向に突き出す（Ｂｂ１）。No.202・203は立上がりは直線的に開き、稜は斜め下方に突き出す（Ｂｂ２）。No.204～208は立上がりは直線的に開き、稜はあまり明瞭ではない（Ｂｂ３）。No.209～211は直立して立上がり、稜が横方向に突き出す（Ｂｃ１）。No.198は立上がりは外反気味に直立し、稜は横方向に突き出す（Ｂｄ１）。

C類　口縁端部を丸みを持たせて外（内）につまみ出す

No.212～225は外反気味に立上がり、稜が横方向に突き出す（Ｃａ１）。No.226～232は外反気味に立上がり、稜は斜め下方に突き出す（Ｃａ２）。No.233～240は立上がりは直線的に開き、稜が横方向に突き出す（Ｃｂ１）。No.241～245は立上がりは直線的に開き、稜は斜め下方に突き出す（Ｃｂ２）。

D類　口縁端部がやや細くなる

No.246～252は外反気味に立上がり、稜が横方向に突き出す（Ｄａ１）。No.253～254は外反気味に立上がり、稜は斜め下方に突き出す（Ｄａ２）。No.255～265は外反気味に立ち上がるが、稜はあまり明瞭ではない（Ｄａ３）。No.266～268は立上がりは直線的に開き、稜が横方向に突き出す（Ｄｂ１）。No.269～271は立上がりは直線的に開き、稜は斜め下方に突き出す（Ｄｂ２）。No.272～274は立上がりは直線的に開き、稜はあまり明瞭ではない（Ｄｂ３）。No.275は直立して立上がり、稜が横方向に突き出す（Ｄｃ１）。

E類　口縁端部が先細り（シャープ）

No.277～281は外反気味に立ち上がるが、稜はあまり明瞭ではない（Ｅａ３）。Ｅｂ１No.276は立上がりは直線的に開き、稜が横方向に突き出す（Ｅｂ１）。

その他

No.282は壷か甕であるが、立上がりは大きく外反し、稜も斜め下方に突き出す複合口縁を呈する口縁部である。No.283は甕の肩部から胴部、No.284は甕の底部である。

小型壷（第23図No.296～303）

全体的な形状が分かるものは少ないが、胴部は丸底を呈し、口縁部のNo.296～298 は複合口縁、No.299～302は単純口縁を呈する。

高坏（第24・27図No.304～323）

No.304は大型のものである。坏部の形状はNo.305～309・385・386が口縁部が大きく外方に開くタイプ、No.310～312・387が碗形を呈するタイプである。

低脚坏（第24・25・27図No.324～341・388）

いづれも坏部の形状は口縁部が大きく開く浅いもので、脚部は「ハの字」に開く短脚をもつ。

器台（第25～27図No.342～357・389・390）

いわゆる鼓形器台といわれるもので、No.344～350・No.354～356についてはそれぞれ器受部、脚部として記載しているが、調整等が不明のため逆転してることも考えられる。

坏（第26・27図No.358～369・391・392）

いずれも坏身でNo.358～361は碗形のもので、No.361・391以外は口縁の端部が外方に屈曲する。No.362～367は小型の坏で、No.365・392はてづくねである。No.368・379は高台の付くものである。

甑（第26図No.370～372）

No.370の口縁端部は外反し、No.371の口縁部はほぼ直立する。

紡錘車（第26図No.373）

土器からの転用品で、穴が貫通していないことから未完成品か。

土製支脚（第27図No.393）

底部は平底である。

韓式土器（第26図No.374）

肩部に把手の付くもので、中には水銀朱が付着していた。４世紀初めのもので、一見陶質であるが、瓦質の新タイプと思われる。

須恵器（第26・28・29図No.375・394～411）

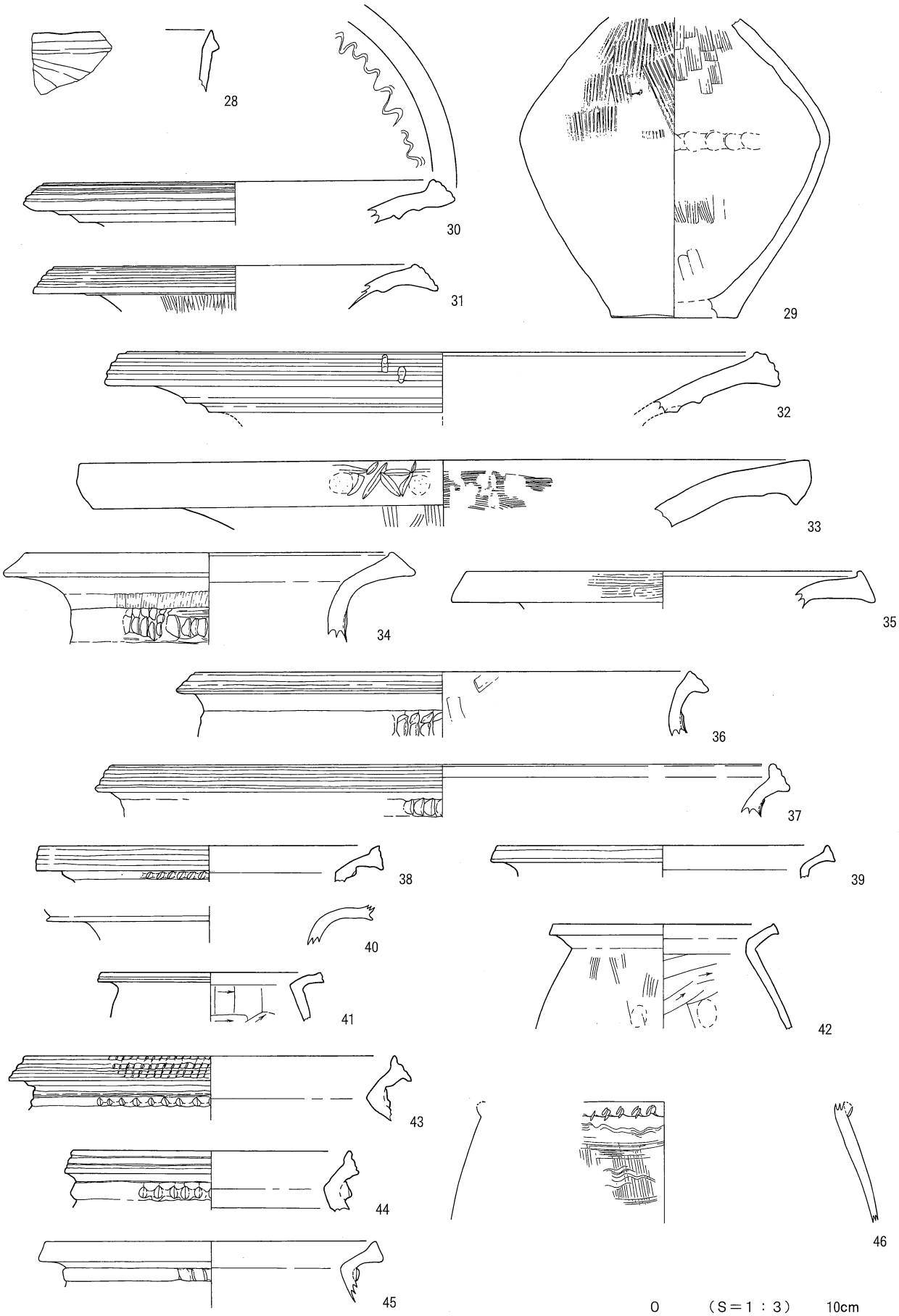
No.394～396は大型甕、No.397・398は壷で前者はやや外反気味に開く頸部を呈し、後者は直立した短頸をもつものである。No.399は鉢形土器で、No.400・401は高坏の脚部である。No.375・402～405は坏蓋、No.406は坏身、No.407・408は高台の付くものである。No.409は底部に糸きり痕の残る皿である。No.410は把手、No.411不明遺物である。

その他（第30図）

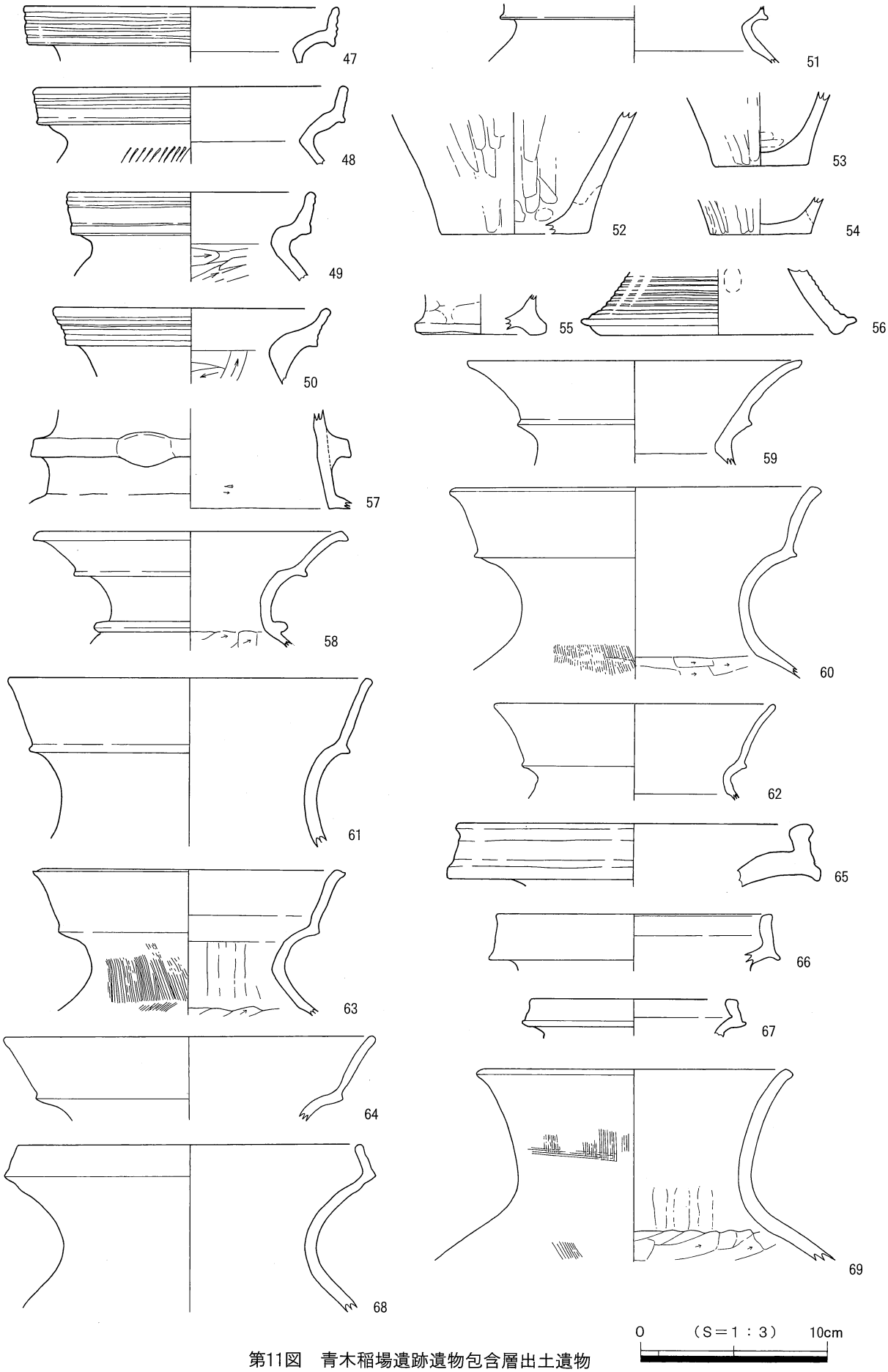
石製品　Ｓ１は蛤刃形の石斧、Ｓ２・３は砥石、Ｓ４は擦り石、Ｓ５は台石である。

玉類　Ｐ３・４は管玉、Ｐ５は小玉である。

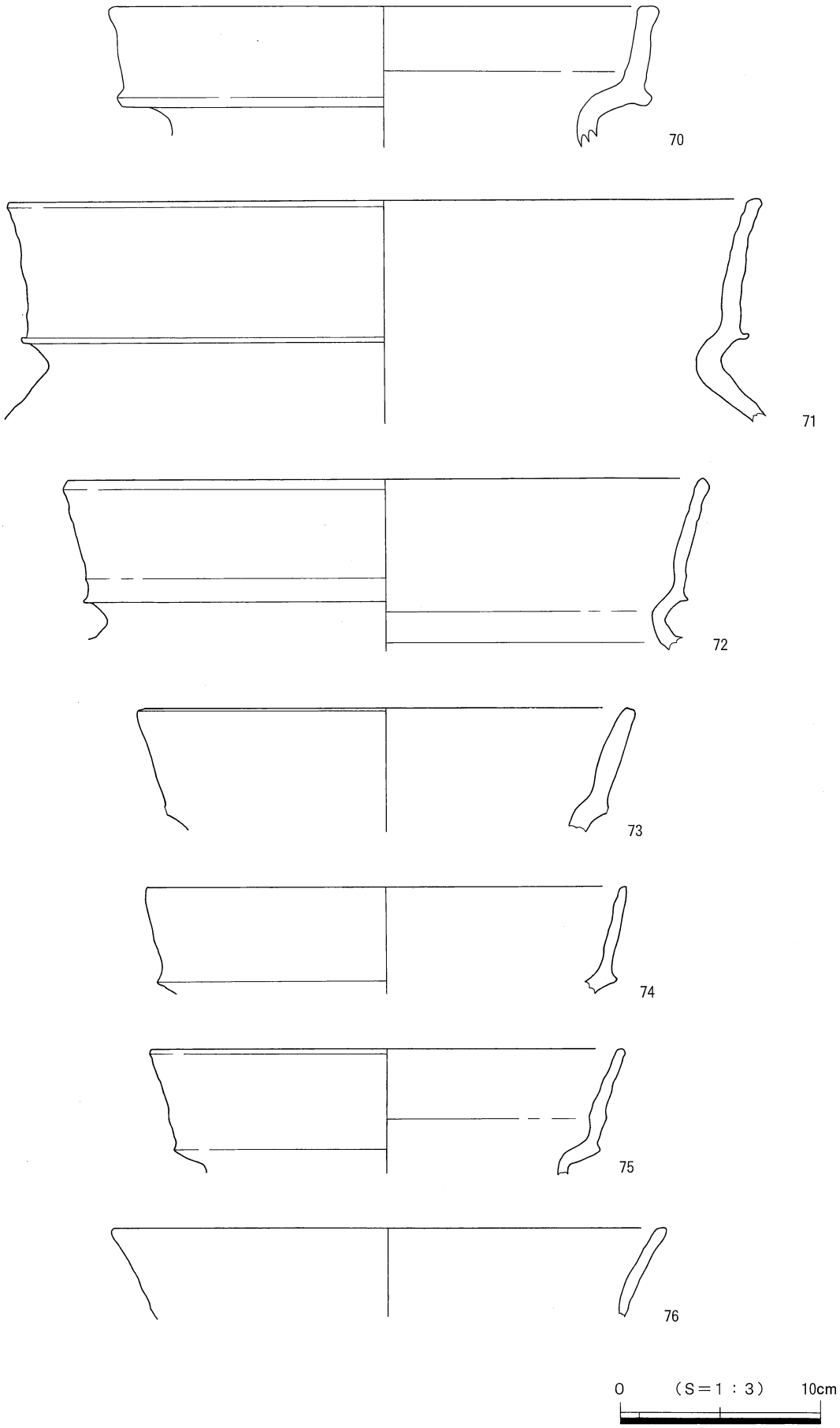
その他　Ｐ１は土錘、Ｐ２は中央に円孔が施されているが器種は不明である。



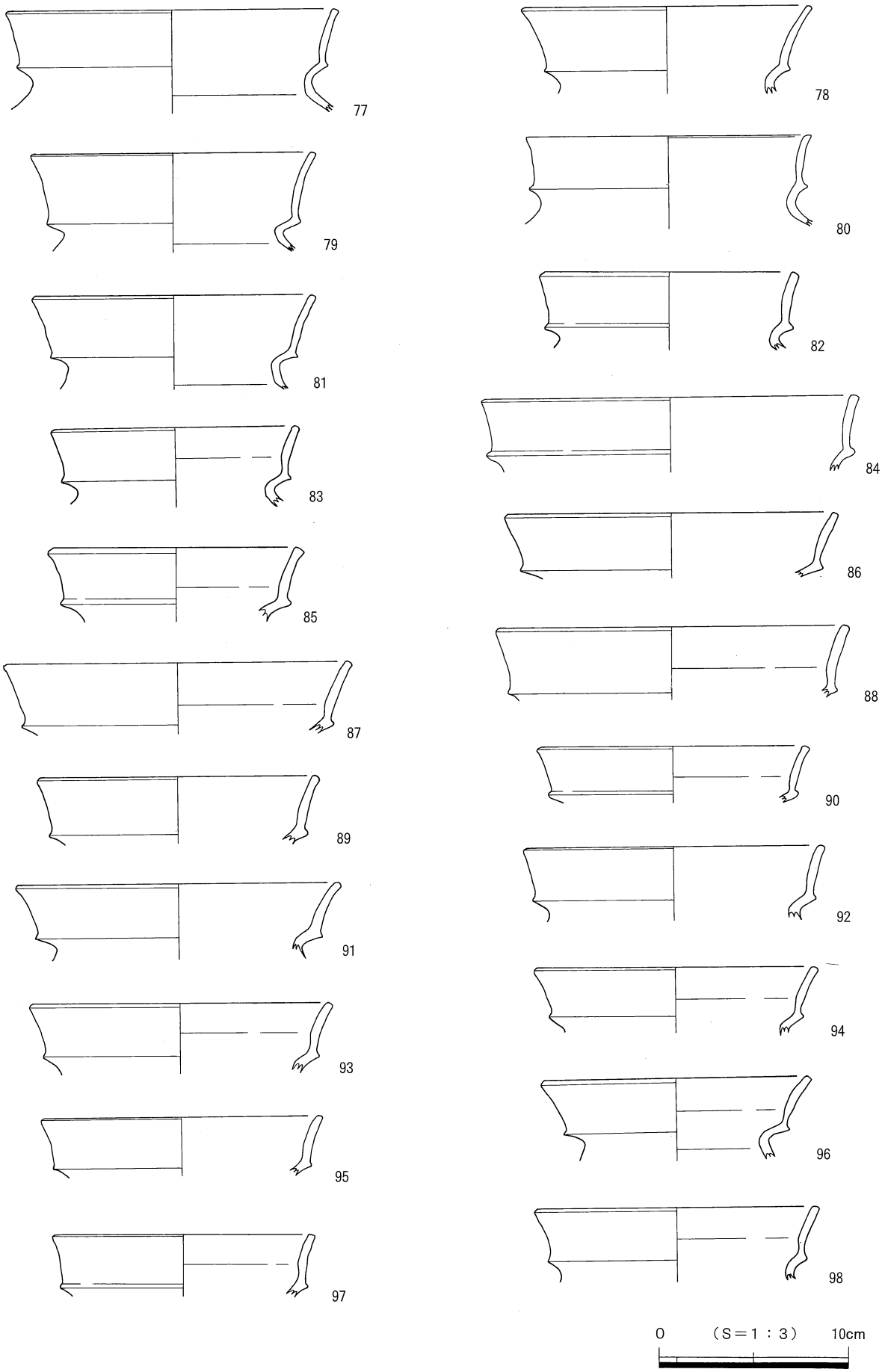
第10図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物



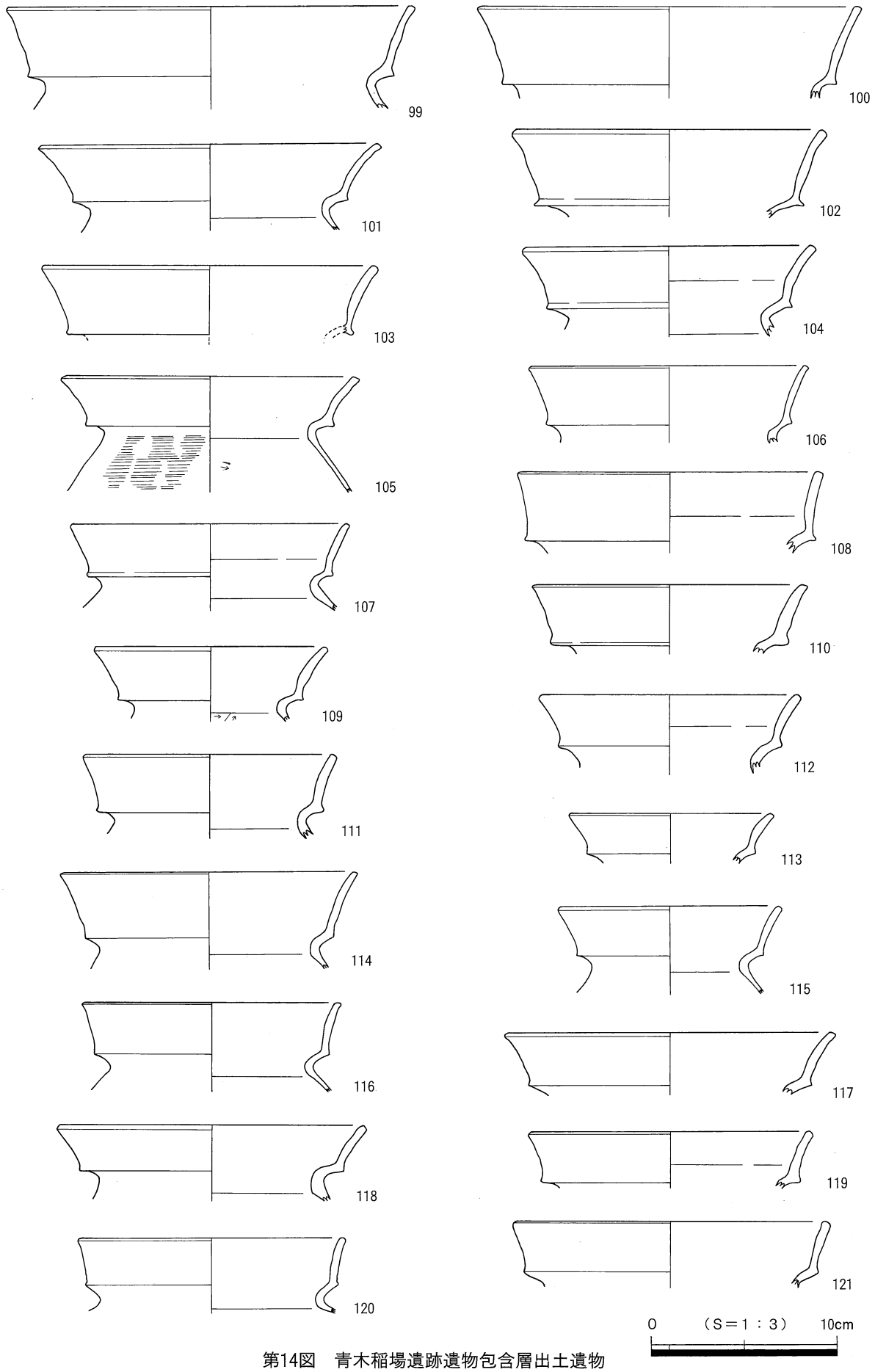
第11図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物



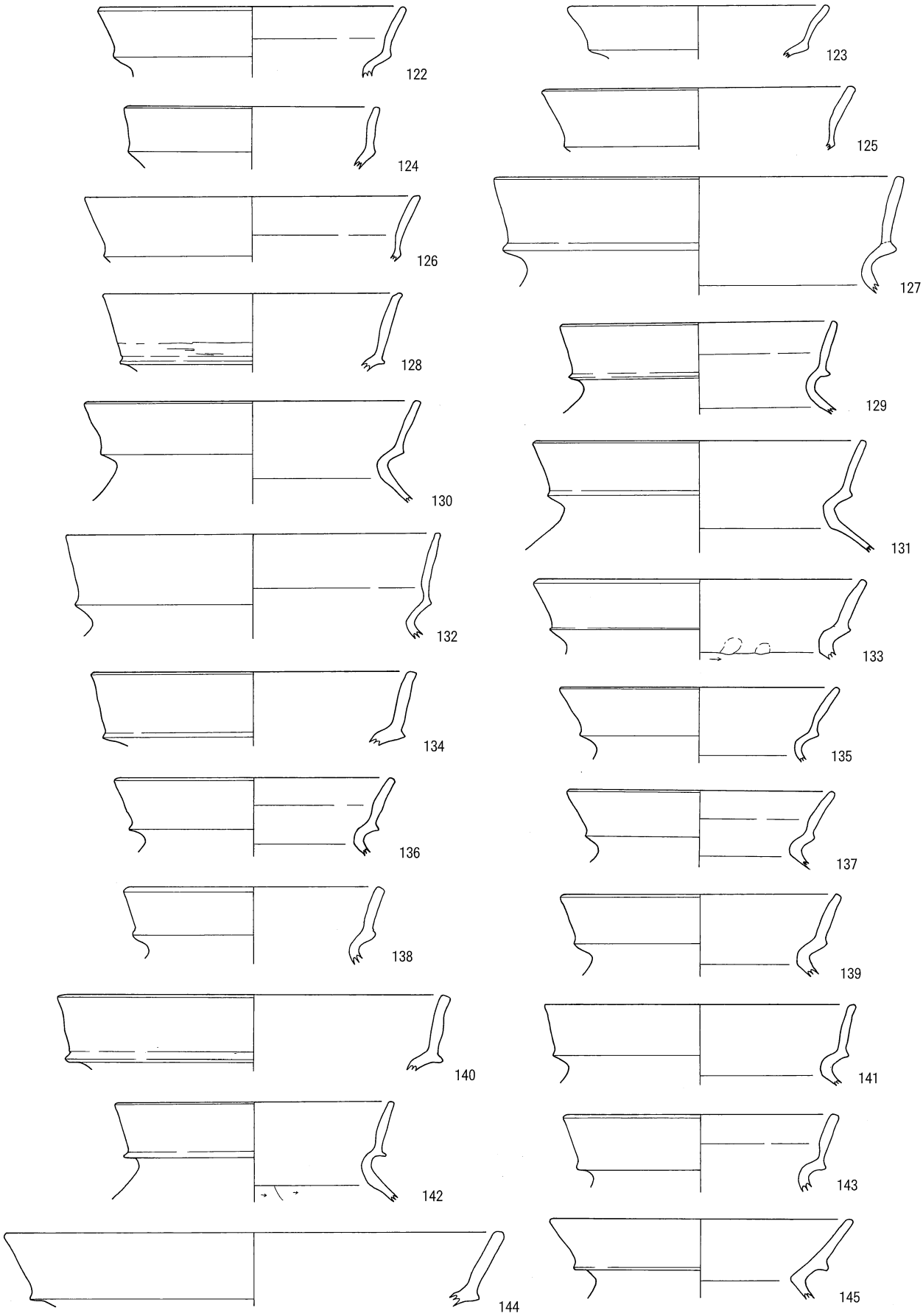
第12図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物



第13図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物

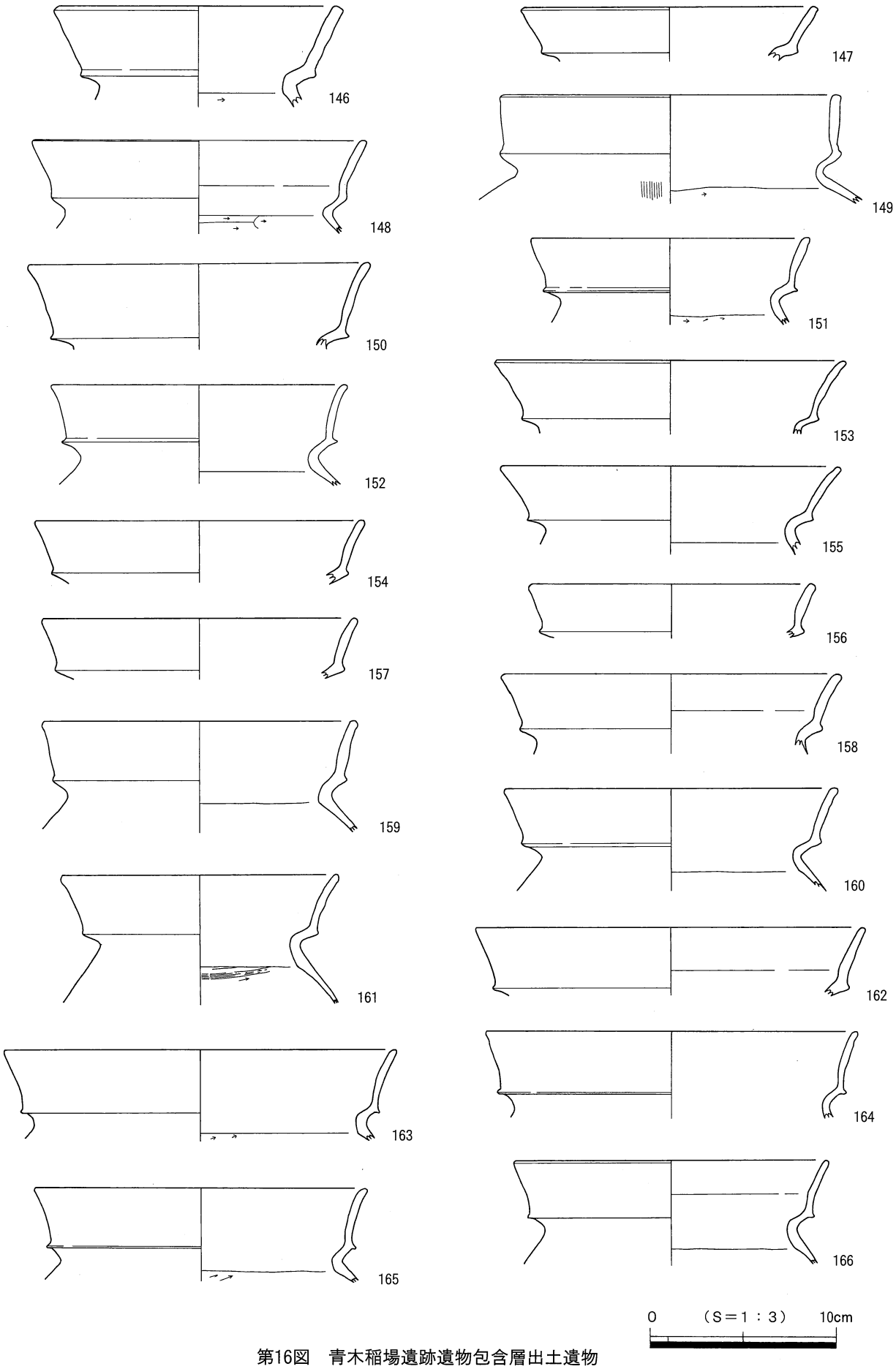


第14図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物

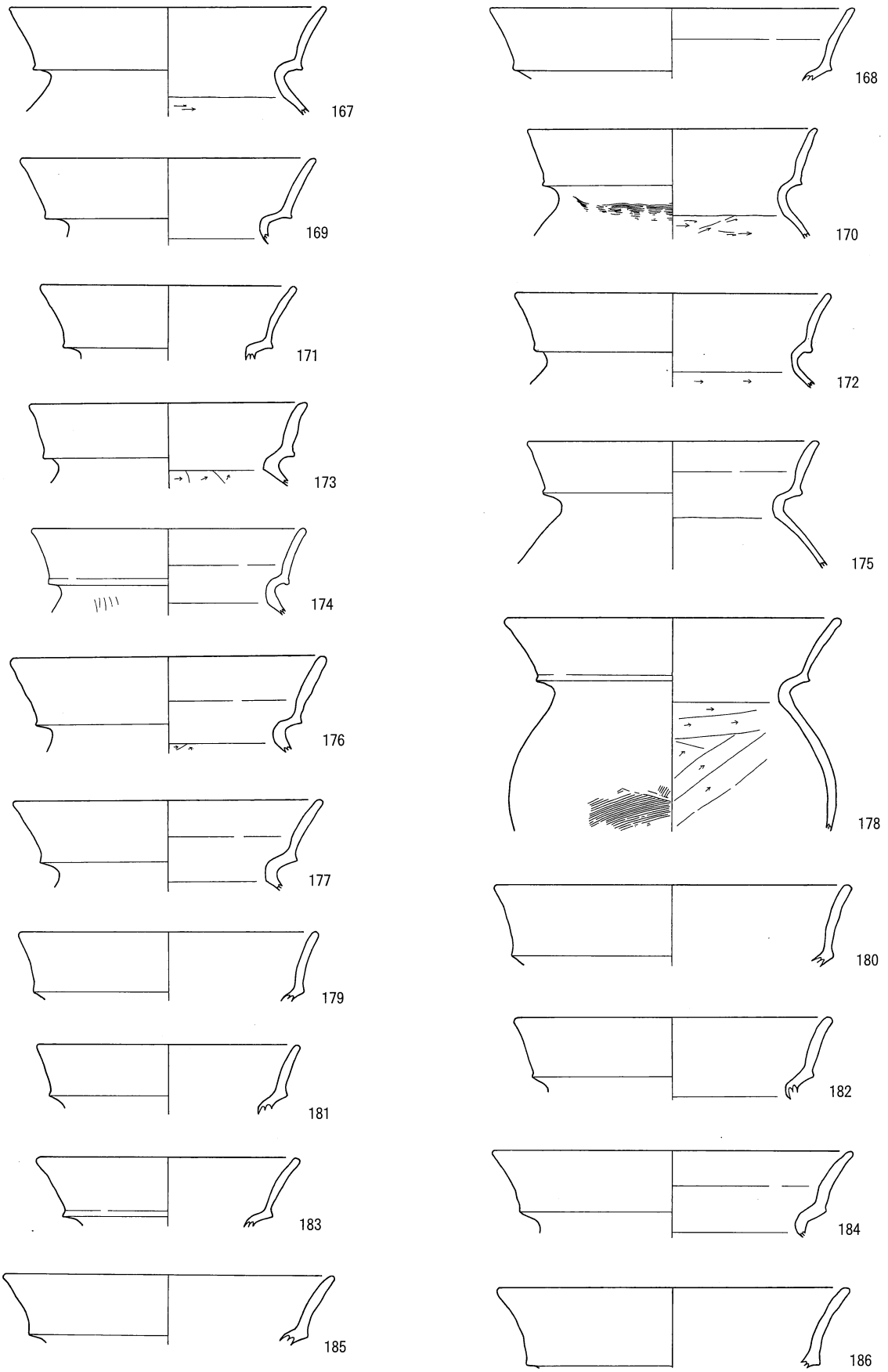


0　（S＝1：3）　10cm

第15図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物

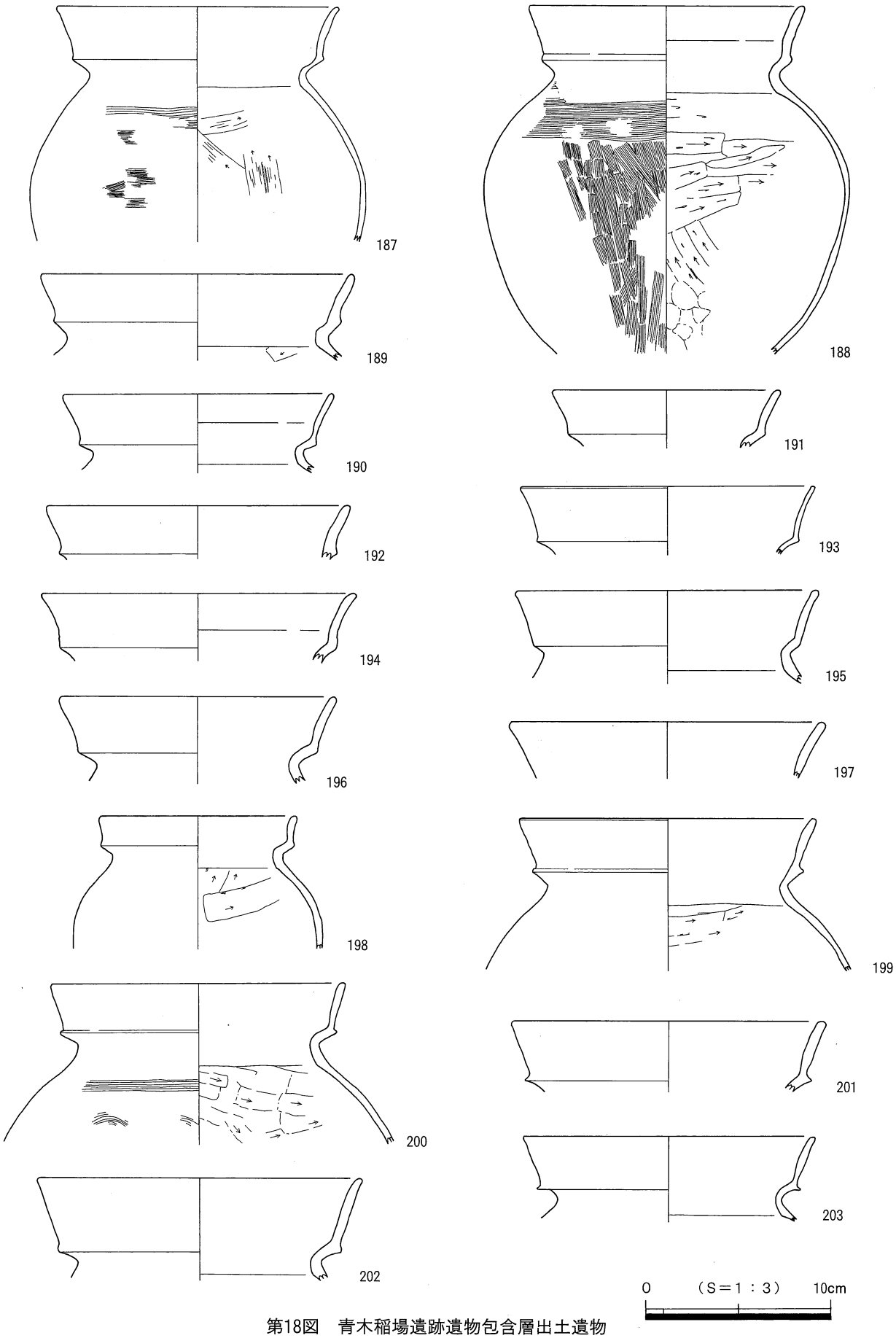


第16図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物

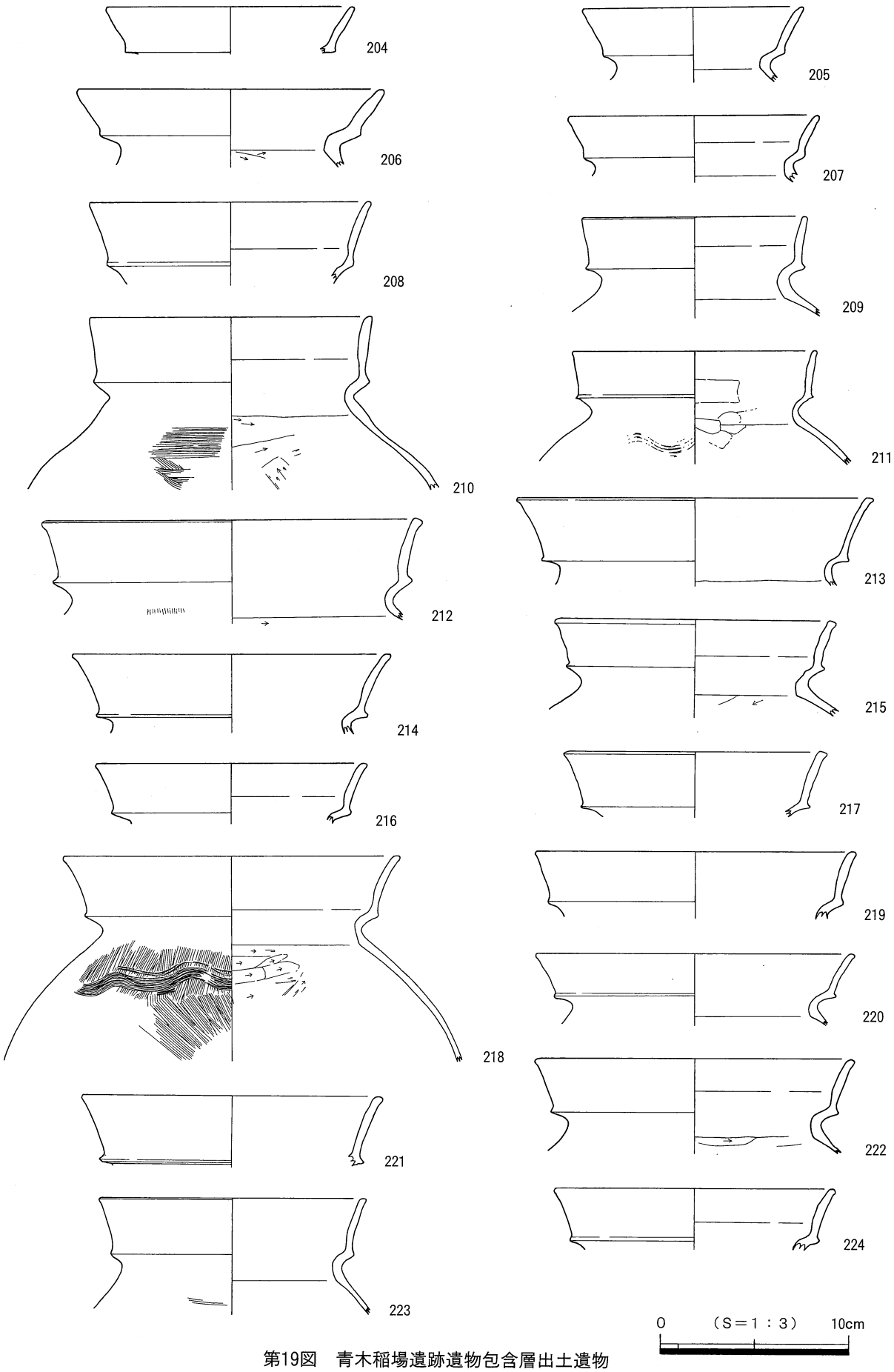


0　（S＝1：3）　10cm

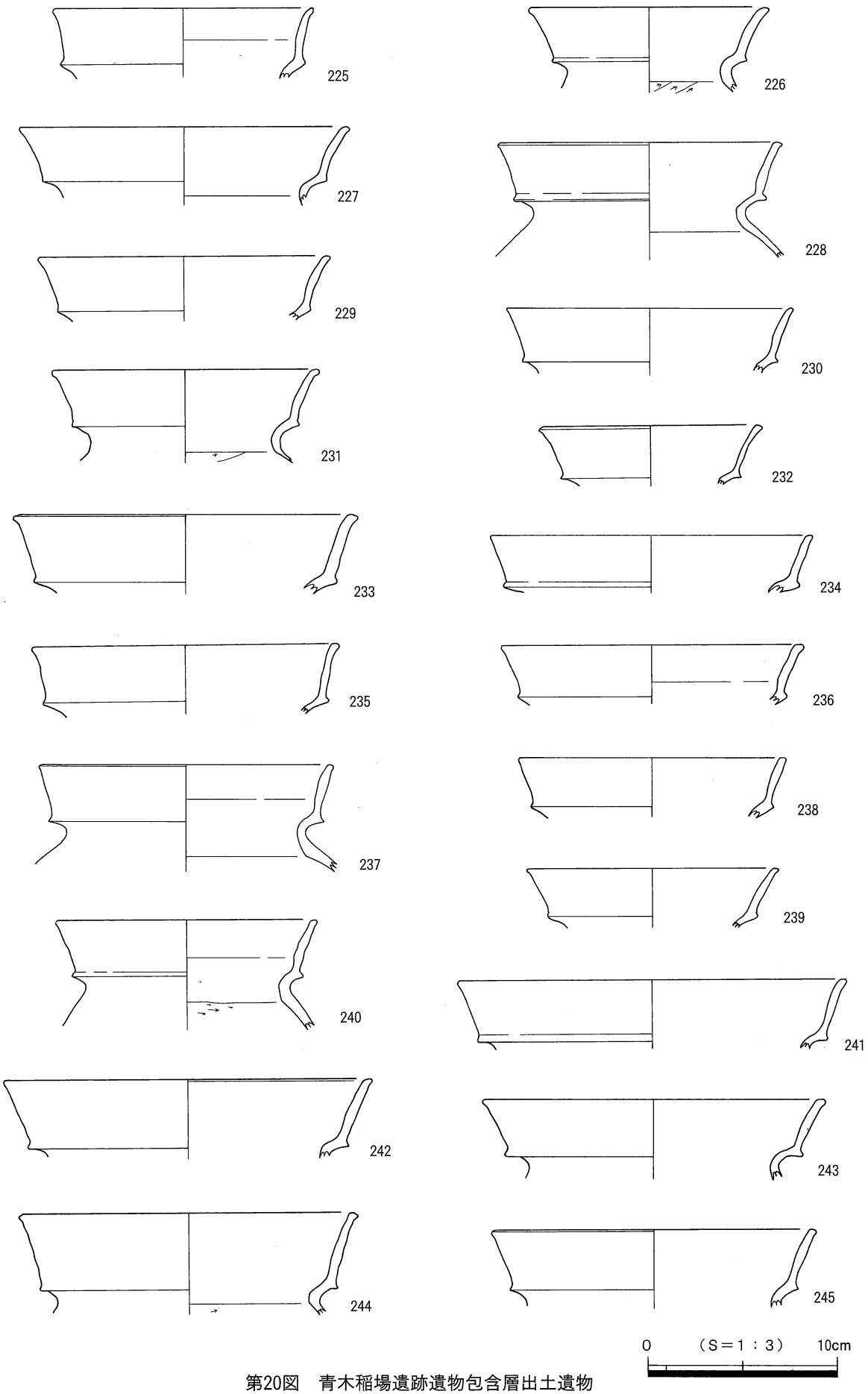
第17図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物



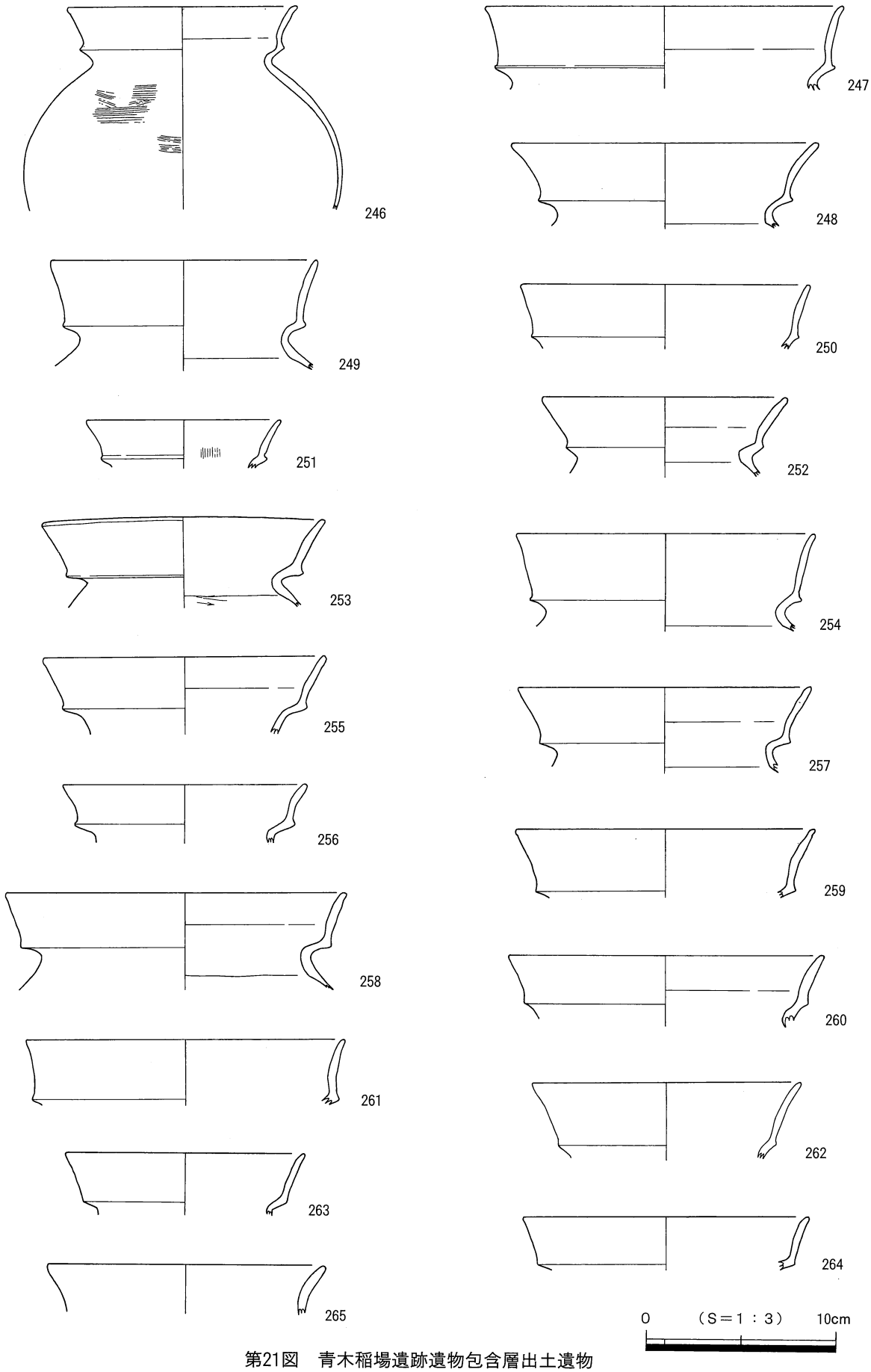
第18図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物



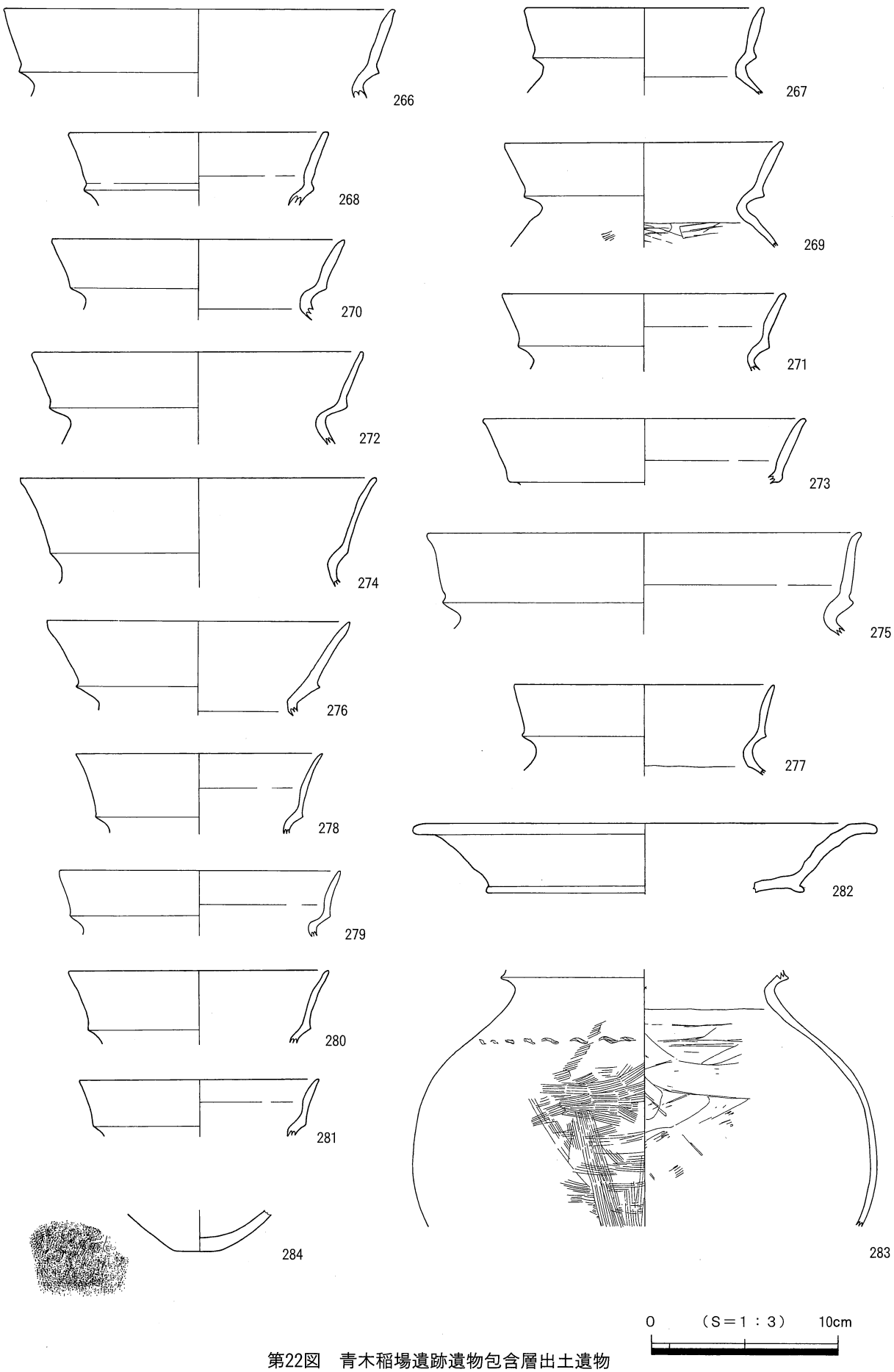
第19図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物



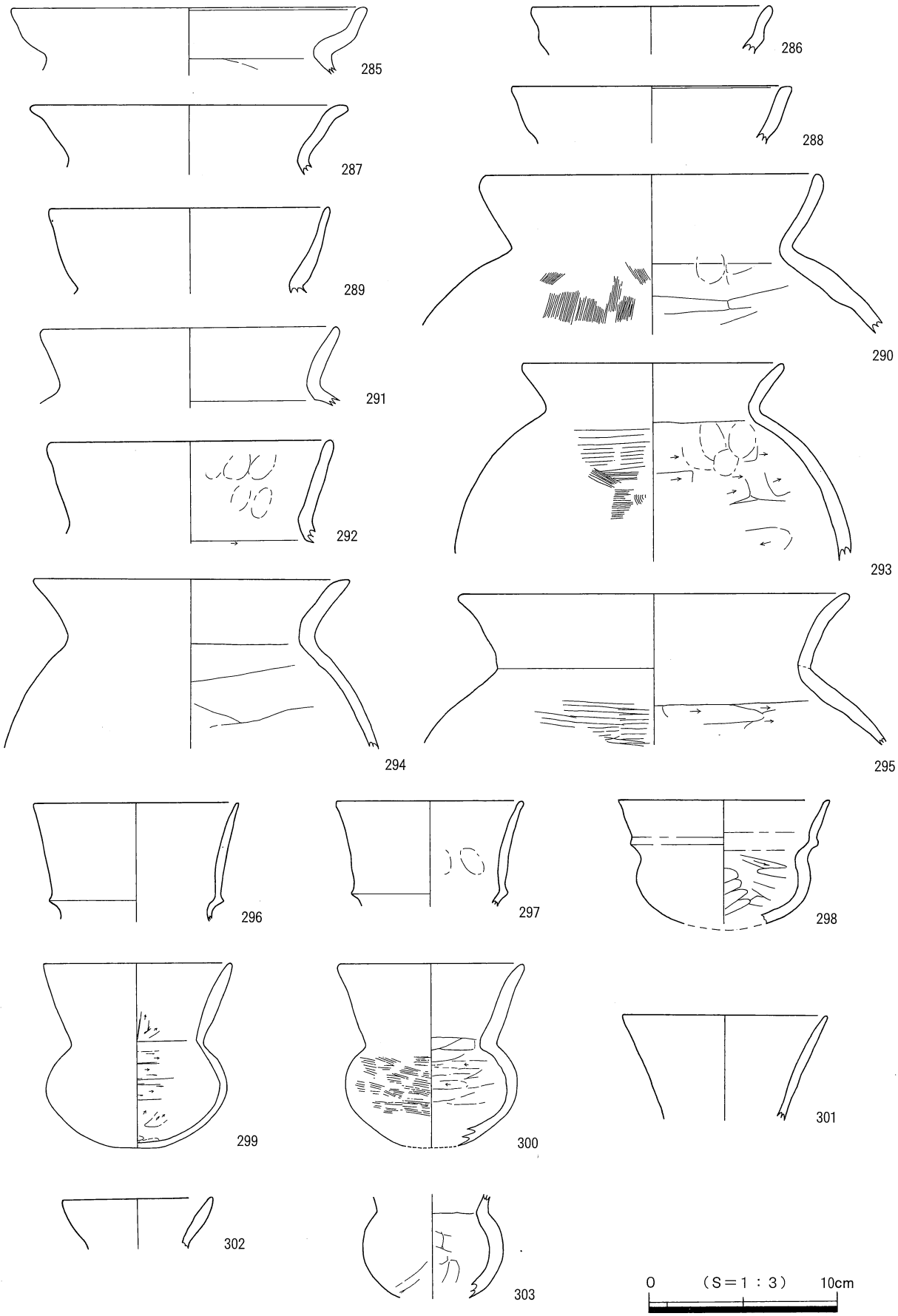
第20図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物



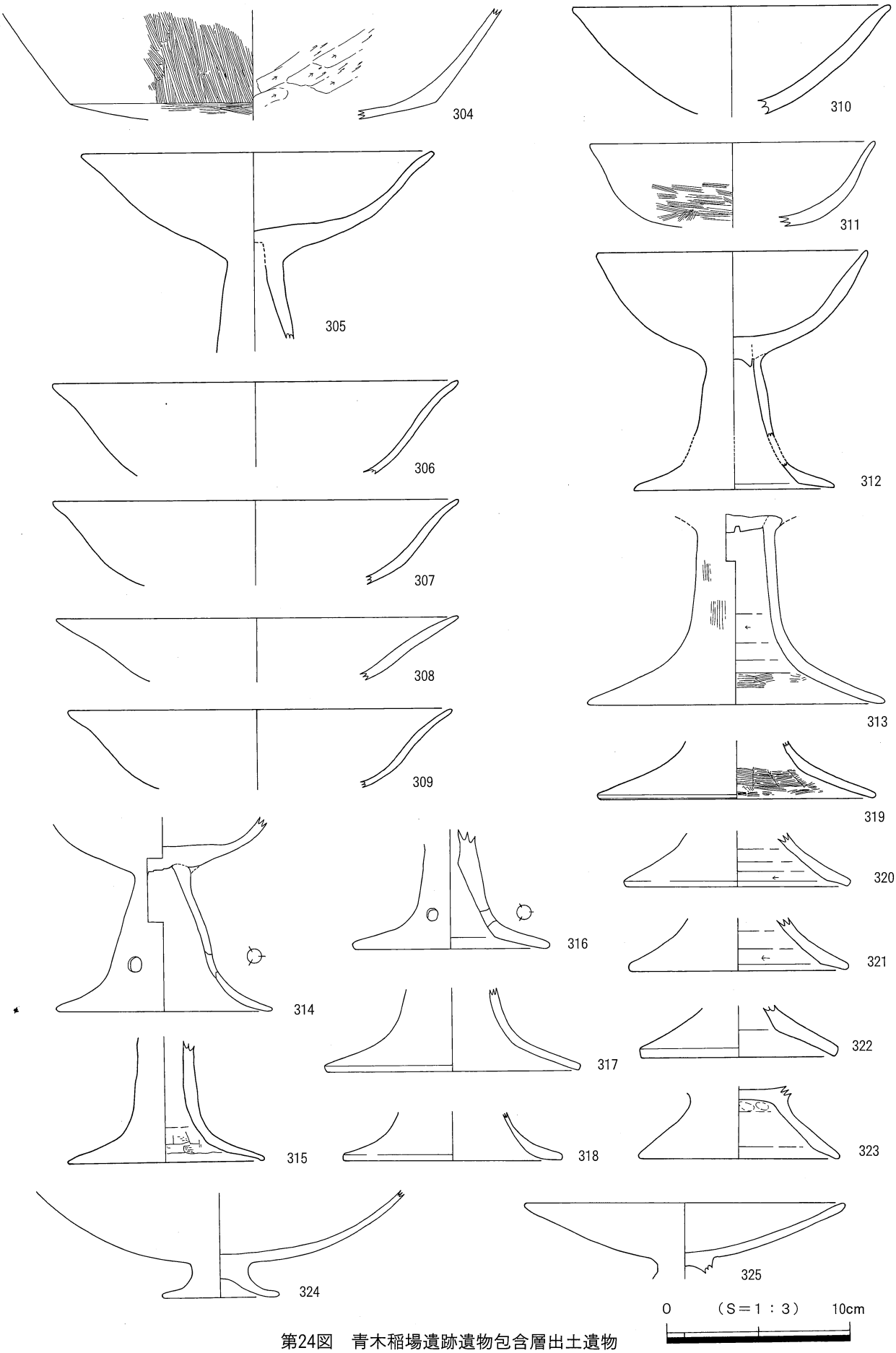
第21図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物



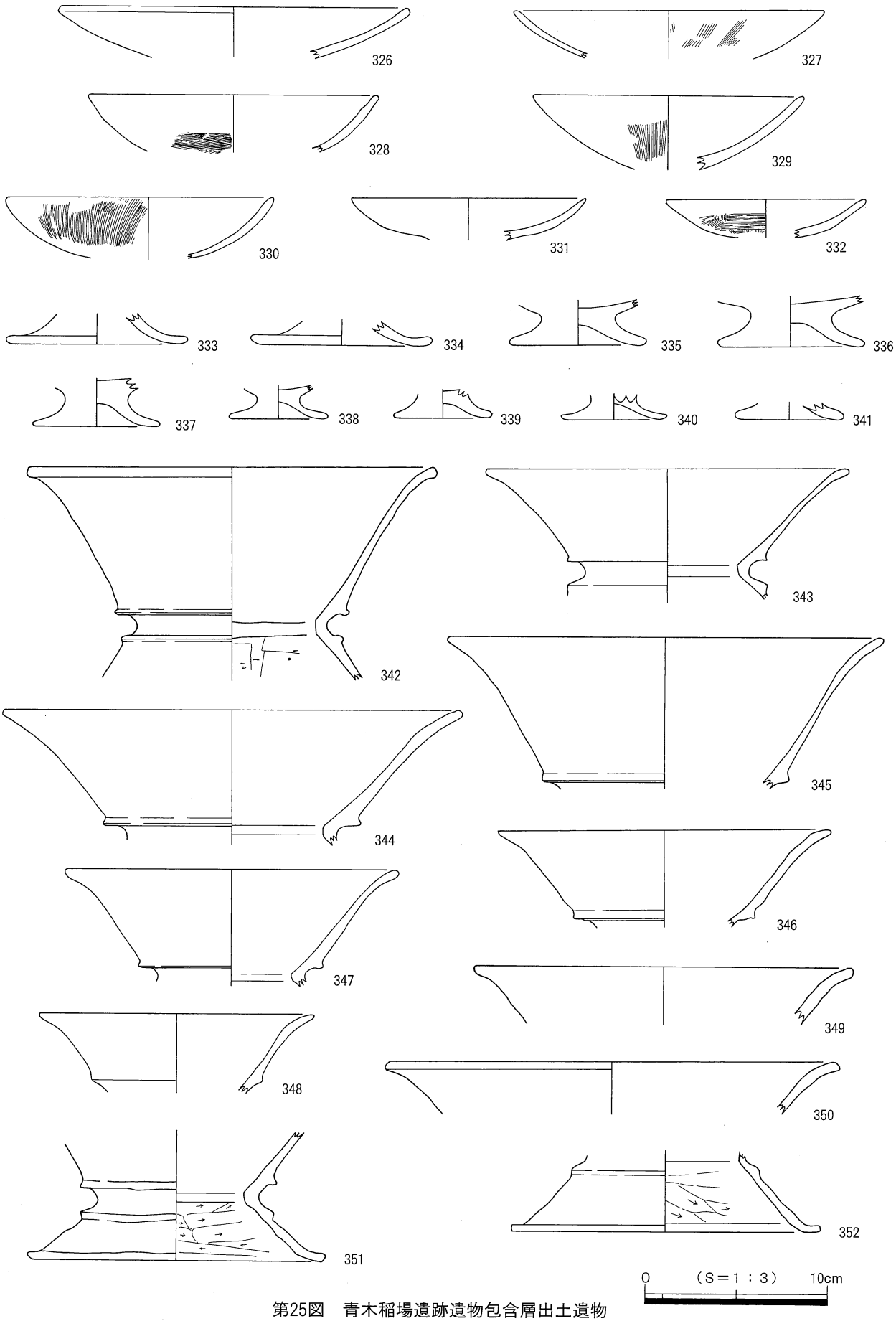
第22図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物



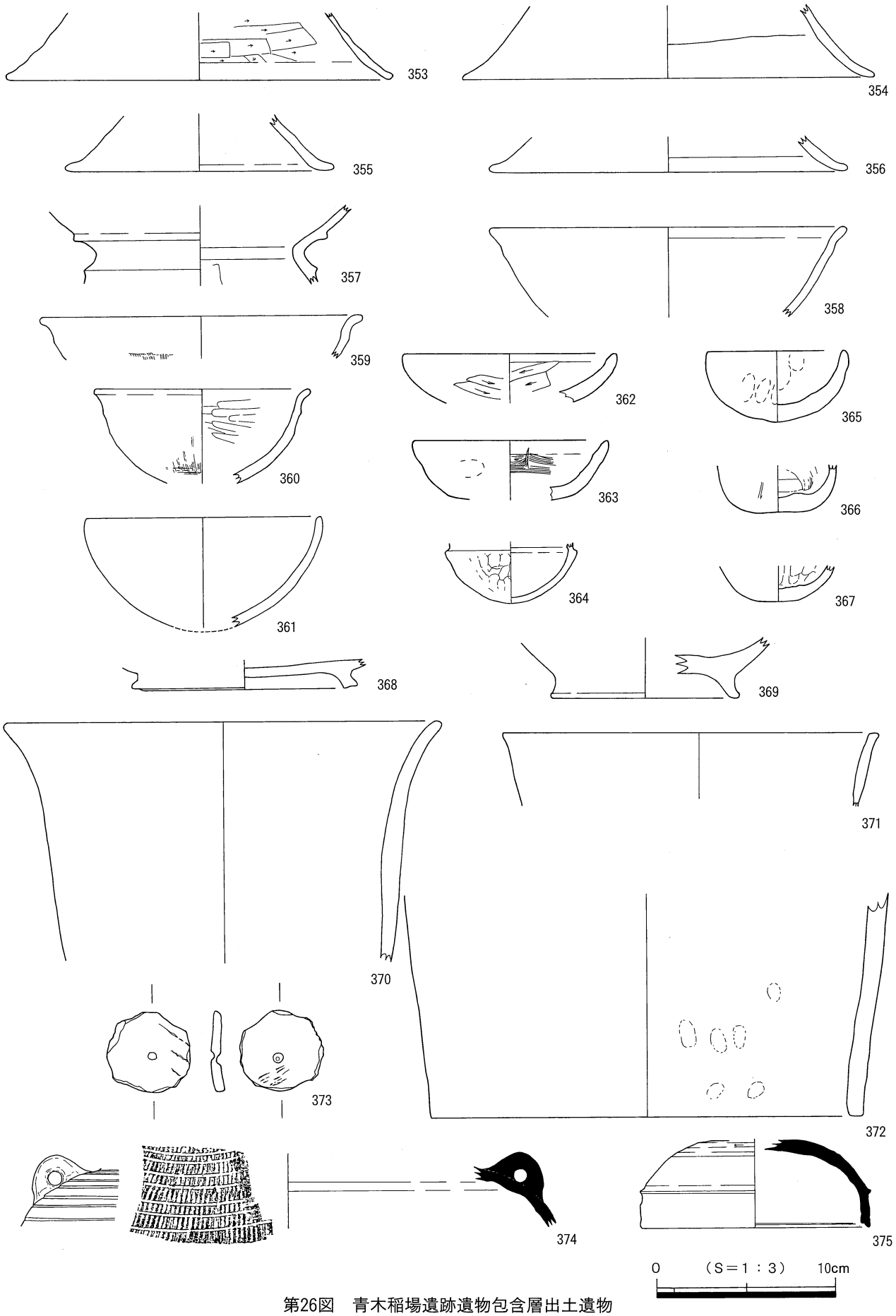
第23図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物



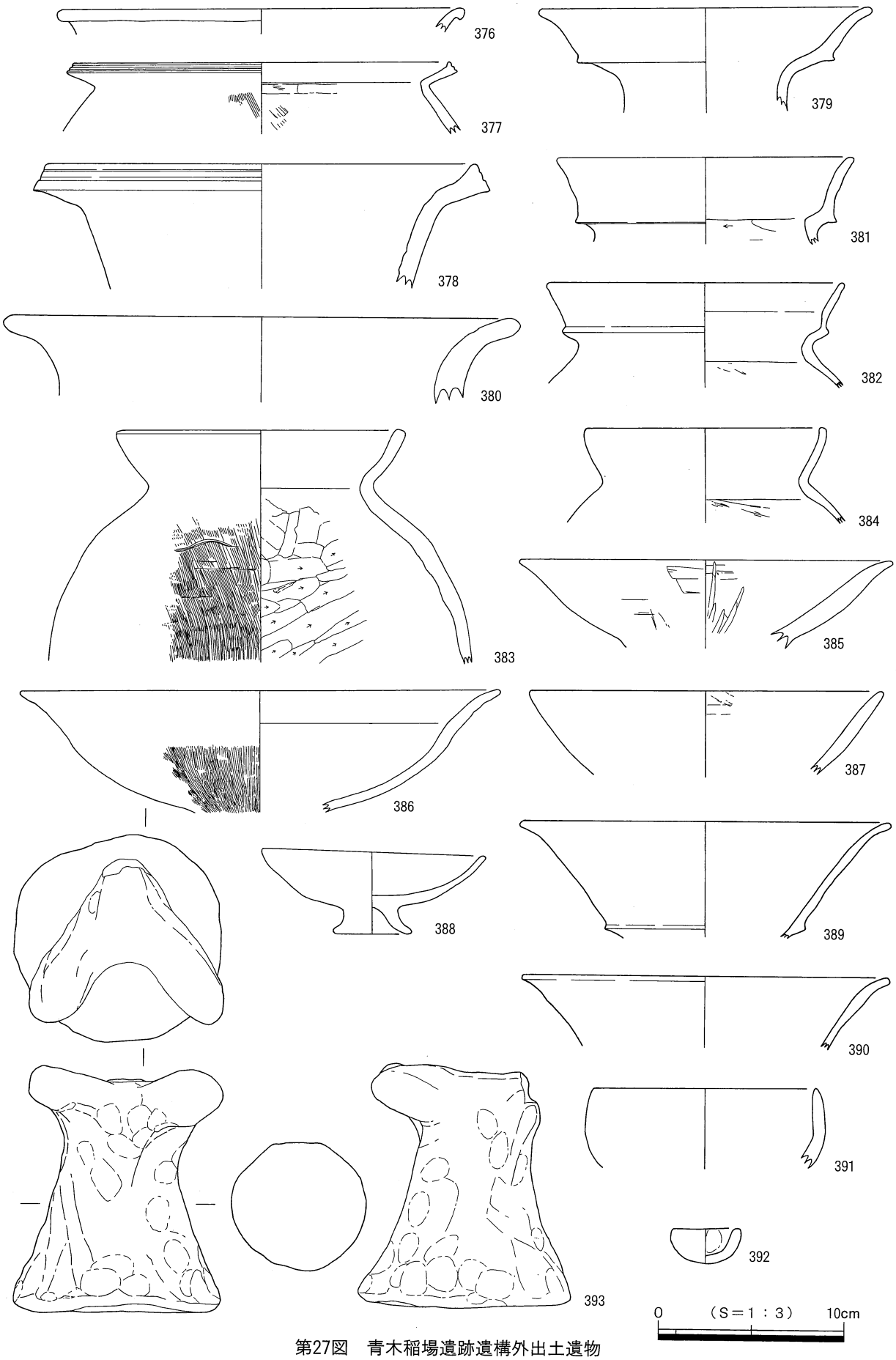
第24図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物



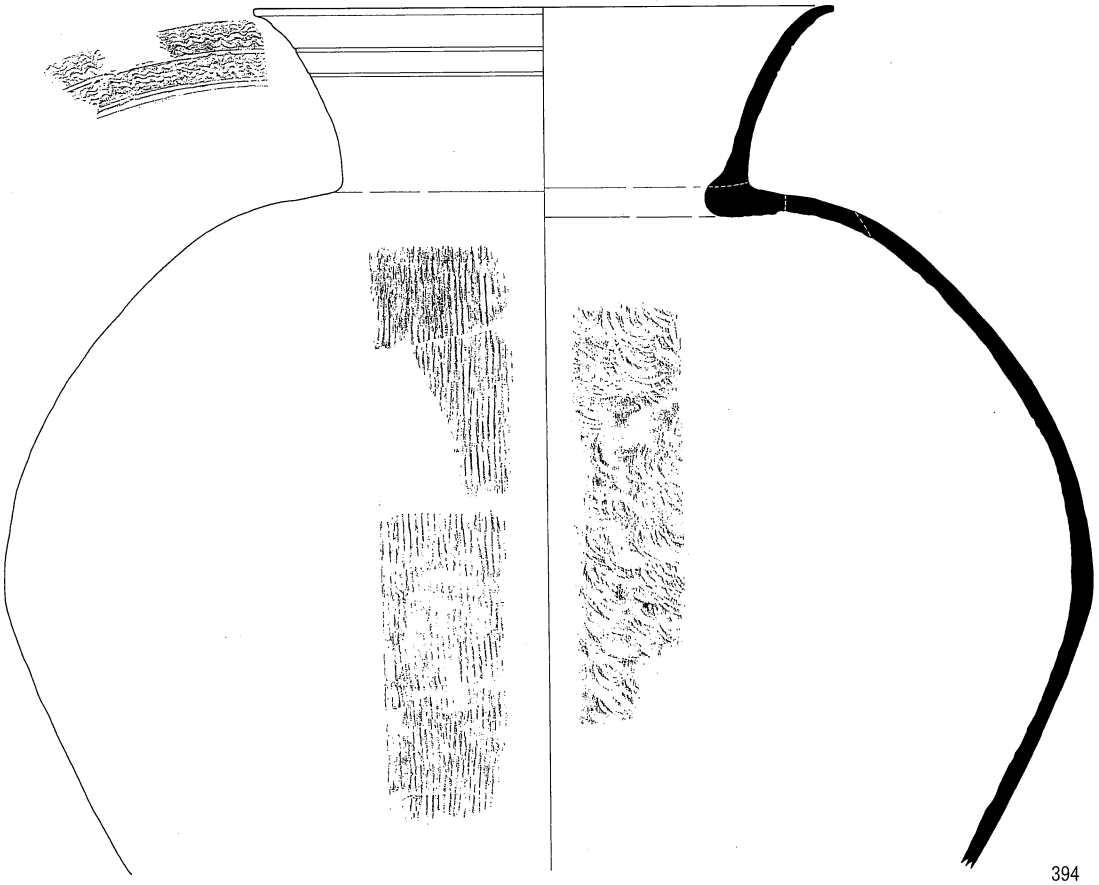
第25図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物

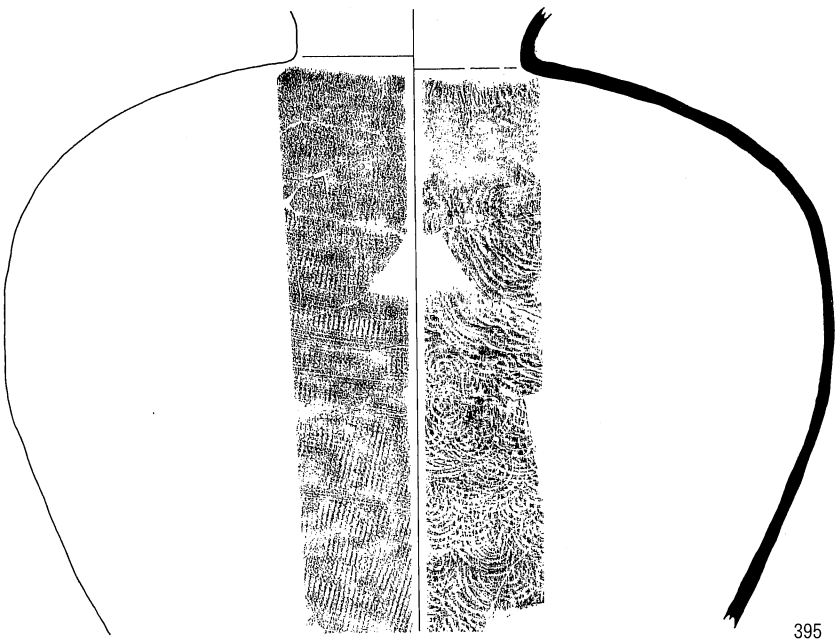


第26図　青木稲場遺跡遺物包含層出土遺物



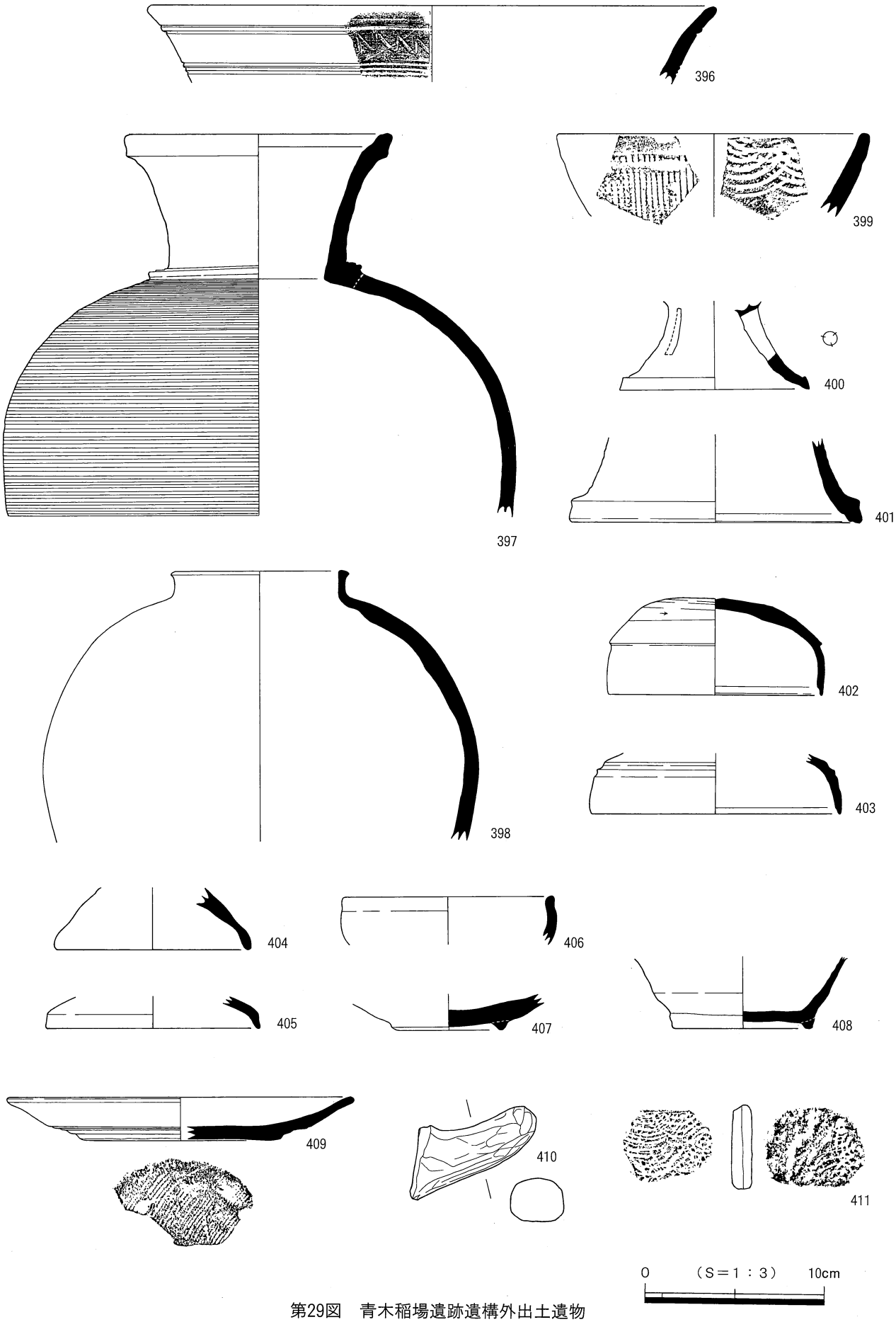
第27図　青木稲場遺跡遺構外出土遺物



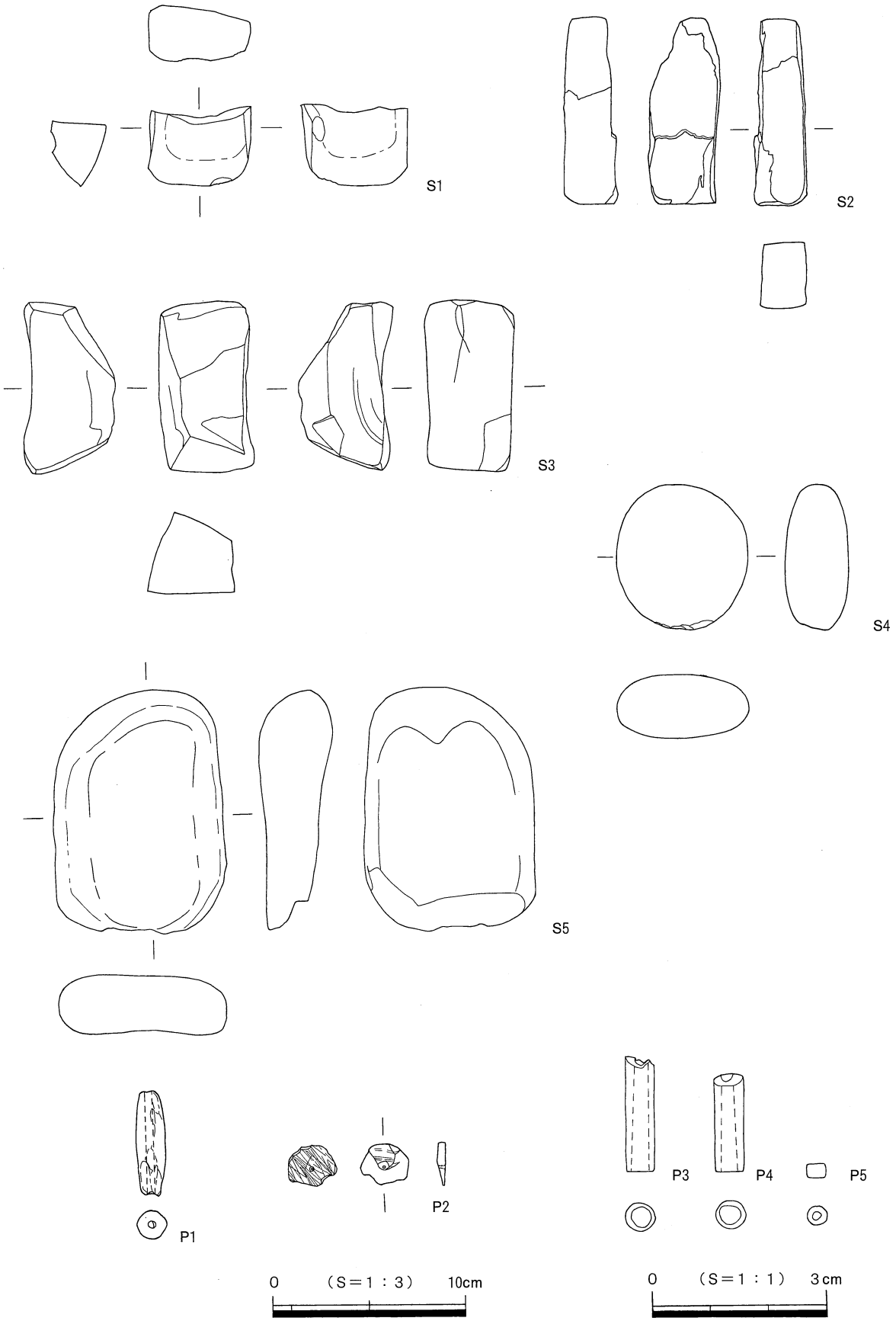


0 （S＝1：5）10cm

第28図　青木稲場遺跡遺構外出土遺物



第29図　青木稲場遺跡遺構外出土遺物



第30図　青木稲場遺跡遺構外出土遺物

表１　青木遺跡　出土遺物観察表

a：口径　b：器高　c：底径　d：最大径

図版番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎　土	色　調	
1	壷	a：25.4 b：1.7	弥生壷口縁	内外面共ナデ ３条凹線・貼付け円盤	良好	密	淡灰褐色	SI－02
2	壷	a：13.6 b：6.7	直口壷口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 ２mm大の砂粒含	淡褐色	SI－02
3	甕	a：20.3 b：5.8	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡灰褐色	SI－02
4	甕	a：18.4 b：4.9	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 １mm大の砂粒含	淡灰褐色	SI－02
5	甕	a：15.5 b：4.7	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 １mm大の砂粒含	淡灰褐色	SI－02
6	甕	a：15.2 b：1.3	複合口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ケズリ・ナデ	良好	密 3.5mm大の砂粒含	淡褐色	SI－02
7	甕	a：16.6 b：10.5	「くの字」口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ケズリ・ナデ	良好	密	褐色	SI－02
8	小壷	a：7.9 b：7.4 d：9.6	小型壷	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密 １mm大の砂粒含	淡褐色	SI－02
9	高坏	a：16.8 b：4.0	高坏坏部	内外面共ナデ	軟質	やや粗 １mm大の砂粒含	淡褐色	SI－02
10	高坏	b：6.5 c：11.6	高坏脚部	外)ナデ 内)ハケ目・絞り痕	良好	密 １mm大の砂粒含	橙褐色	SI－02
11	低脚坏	b：1.5 c：5.6	低脚坏脚部	内外面共ナデ	良好	密 １mm大の砂粒含	橙褐色	SI－02
12	甕	a：16.5 b：5.2	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	外)灰色 内)淡灰褐色	SI－03床
13	甕	a：14.2 b：7.0	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 1.5mm大の砂粒含	外)淡褐色 内)淡灰褐色	SI－03床
14	甕	a：13.8 b：3.1	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 0.5mm大の砂粒含	淡灰褐色	SI－03床
15	高坏	a：11.8 b：6.0	高坏坏部	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ	軟質	やや粗	橙褐色	SI－03床
16	低脚坏	a：14.0 b：4.3 c：4.8		内外面共ナデ	普通	密 微砂粒含	褐色	SI－03床
17	壷	a：22.3 b：1.5	弥生壷口縁	内外面共ナデ ３条の凹線	良好	密 １mm大の砂粒含	暗灰褐色	SI－03
18	壷	a：19.0 b：6.1	壷口縁部	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 0.5mm大の砂粒含	淡褐色	SI－03
19	高坏	b：4.9 c：13.9	弥生高坏脚部	外)ナデ・ハケ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 １mm大の砂粒含	淡褐色 赤色顔料付着	SI－03
20	甕	a：14.8 b：4.3	複合口縁	内外面共ナデ	普通	密 0.5mm大の砂粒含	淡灰褐色	SI－03
21	甕	a：14.3 b：26.2	複合口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ケズリ・ナデ	軟質	やや粗	外)明灰褐色 内)淡赤褐色	SI－03
22	甕	a：17.0 b：5.5	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 ３mm大の砂粒含	淡灰褐色	SI－03
23	甕	a：14.2 b：4.3	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 １mm大の砂粒含	明灰褐色	SI－03
24	甕	a：6.6 b：2.7	小型甕	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ	良好	密	淡褐色	SI－03
25	小壷	b：5.0 d：8.3	小型壷胴部	外)ハケ目 内)ハケ目・指頭圧痕	良好	密	赤茶色	SI－03
26	高坏	a：17.6 b：4.8	高坏坏部	内外面共ナデ	軟質	やや粗 １mm大の砂粒含	淡灰褐色	SI－03
27	坏	a：9.8 b：5.2		外)ナデ・指押え 内)ナデ	良好	密 １mm大の砂粒含	淡褐色	SI－03
28	甕	b：3.4	縄文土器	内外面共調整不明	良好	密 ２mm大の砂粒含	暗褐色	包含層
29	甕	b：16.4 c：7.0 d：17.0	縄文土器	外)ハケ目 内)ハケ目・ケズリ	良好	密 ３mm大の砂粒含	暗褐色	包含層
30	壷	a：21.0 b：2.3	弥生壷口縁部	内外面共ナデ 波状文・４条凹線	良好	密	淡褐色	包含層
31	甕	a：22.0 b：2.5	弥生土器甕口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ	良好	密 ２mm大の砂粒含	黒褐色	包含層
32	甕	a：37.0 b：3.3	弥生土器大型甕口縁	外)ナデ・２条の突帯 口縁部４条凹線 内)ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	淡赤褐色	包含層
33	壷	a：40.0 b：3.7	弥生土器甕口縁	外)ハケ目 内)ハケ目・ナデ	良好	密	褐色	包含層
34	壷	a：22.6 b：4.9	弥生土器壷口縁	外)ナデ・ハケ目・貼付突帯 内)ナデ	良好	密 ２mm大の砂粒含	赤褐色	包含層
35	甕	a：23.0 b：2.1	弥生土器甕口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ	良好	密 １mm大の砂粒含	赤褐色	包含層
36	壷	a：14.5 b：3.5	弥生土器壷口縁	外)ナデ・貼付突帯 口縁部３条凹線 内)ナデ	良好	密 １mm大の砂粒含	濃暗灰色	包含層
37	壷	a：38.0 b：2.9	弥生土器壷口縁	外)ナデ・貼付突帯 口縁部３条凹線 内)ナデ	良好	密 １mm大の砂粒含	淡褐色	包含層
38	壷	a：18.4 b：2.0	弥生土器壷口縁	内外面共ナデ	軟質	密	褐色	包含層
39	壷	a：18.0 b：1.7	弥生土器壷口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
40	壷	b：2.0	弥生壷頸部	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
41	甕	a：11.8 b：2.7	弥生土器甕口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡灰褐色	包含層
42	甕	a：12.0 b：5.7	弥生土器甕口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	褐色	包含層
43	甕	a：20.0 b：3.6	弥生土器甕口縁	外)ナデ・貼付突帯 口縁部３条凹線 内)ナデ・ハケ目	良好	密	外)黒褐色 内)淡褐色	包含層
44	甕	a：15.0 b：3.3	弥生土器甕口縁	外)ナデ・貼付突帯 内)ナデ	良好	密	淡白褐色	包含層

※特に名記の無いものは土師器である。

表２　青木遺跡　出土遺物観察表

a：口径　b：器高　c：底径　d：最大径

図版番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎　土	色　調	
45	甕	a：18.0 b：3.4	弥生甕口縁部	内外面共ナデ	普通	密	淡褐色	包含層
46	甕	b：6.5	弥生甕頸部～肩部	外)ハケ目・貼付突帯 内)ナデ	良好	密	淡橙色	包含層
47	甕	a：16.8 b：3.0	弥生甕口縁部	外)ナデ・口縁部４条凹線 内)ナデ・ケズリ	良好	密	褐色	包含層
48	甕	a：16.4 b：4.3	弥生甕口縁部	外)ナデ・口縁部凹線 内)ナデ・ケズリ	良好	粗	淡黄褐色	包含層
49	甕	a：13.0 b：4.8	弥生甕口縁部	外)ナデ・口縁部凹線 内)ナデ・ケズリ	良好	粗	赤褐色	包含層
50	甕	a：14.4 b：4.1	弥生甕口縁部	外)ナデ・口縁部５条凹線 内)ナデ・ケズリ	良好	密	褐色	包含層
51	甕	b：3.1	弥生甕頸部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
52	甕	b：6.5 c：8.0	弥生土器甕底部	外)ミガキ 内)ケズリ	良好	密 １mm大の砂粒含	赤褐色	包含層
53	甕	b：4.0 c：5.2	弥生土器底部	外)ミガキ 内)調整不明	良好	密 １mm大の砂粒を含	黒褐色	包含層
54	甕	b：2.0 c：5.4	弥生土器底部	外)ミガキ 内)ナデ	良好	密 微砂粒含	褐色	包含層
55	甕	b：2.1 c：7.5	弥生土器底部	外)ナデ 内)調整不明	良好	密 微砂粒含	淡褐色	包含層
56	高坏	b：12.6 c：3.6	高坏脚部	外)ナデ・凹線 内)ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
57	壷	b：5.4	壷頸部	外)ナデ・突帯 内)ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
58	壷	a：16.2 b：6.3	複合口縁	外)ナデ・頸部突帯 内)ナデ・ケズリ	普通	密	淡褐色	包含層
59	壷	a：18.0 b：6.0	複合口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密 １mm大の砂粒含	淡褐色	包含層
60	壷	a：18.8 b：10.0	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
61	壷	a：19.0 b：9.2	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 0.5mm大の砂粒含	灰褐色	包含層
62	壷	a：14.8 b：5.1	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	普通	密	褐色	包含層
63	壷	a：15.8 b：8.7	複合口縁	外)ハケ目・ナデ 内)ケズリ・ナデ・絞り痕	良好	密	淡黄褐色	包含層
64	壷	a：19.8 b：4.5	複合口縁	内外面共ナデ	不良	密	淡褐色	包含層
65	壷	a：19.0 b：3.4	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	外)淡褐色 内)褐色	包含層
66	壷	a：14.5 b：3.1	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	暗褐色	包含層
67	壷	a：11.0 b：2.0	複合口縁	内外面共ナデ	軟質	やや粗 １mm大の砂粒含	淡灰褐色	包含層
68	壷	a：18.2 b：8.8	複合口縁	内外面共ナデ	普通	密 ２mm大の砂粒含	淡黄褐色	包含層
69	壷	a：16.0 b：11.3	「くの字」口縁	外)ハケ目 内)ハケ目・ナデ・ケズリ	普通	密	淡褐色	包含層
70	壷	a：26.0 b：4.6	大型複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
71	甕	a：38.0 b：11.0	大型甕複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ハケ目	良好	やや粗	淡褐色	包含層
72	甕	a：32.0 b：8.7	大型甕複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	乳褐色	包含層
73	甕	a：24.0 b：6.3	大型甕複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
74	甕	a：24.0 b：5.5	大型甕複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡赤褐色	包含層
75	甕	a：23.8 b：6.2	大型甕複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
76	甕	a：27.8 b：4.5	大型甕口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡白褐色	包含層
77	甕	a：17.0 b：5.5	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
78	甕	a：14.9 b：4.7	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
79	甕	a：14.6 b：5.3	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	暗褐色	包含層
80	甕	a：15.0 b：4.9	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 ２mm大の砂粒含	褐色	包含層
81	甕	a：14.4 b：5.1	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ良好	良好	密 １mm大の砂粒含	淡灰褐色	包含層
82	甕	a：13.0 b：4.1	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡灰褐色	包含層
83	甕	a：12.4 b：4.3	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	外)淡褐色 内)橙褐色	包含層
84	甕	a：19.5 b：4.0	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
85	甕	a：12.8 b：4.0	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	褐色	包含層
86	甕	a：17.2 b：3.5	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡橙褐色	包含層
87	甕	a：17.8 b：3.8	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
88	甕	a：18.2 b：3.8	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡橙褐色	包含層
89	甕	a：14.3 b：3.6	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	橙褐色	包含層
90	甕	a：13.8 b：3.0	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡灰褐色	包含層
91	甕	a：16.8 b：4.0	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	明灰褐色	包含層

表３　青木稲場遺跡　出土遺物観察表

a：口径　b：器高　c：底径　d：最大径

図版番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎　土	色　調	
92	甕	a：15.2 b：3.9	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	暗褐色	包含層
93	甕	a：15.6 b：3.7	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
94	甕	a：14.6 b：3.4	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
95	甕	a：14.4 b：3.1	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	暗褐色	包含層
96	甕	a：13.9 b：4.4	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡灰褐色	包含層
97	甕	a：13.4 b：3.3	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	橙褐色	包含層
98	甕	a：14.5 b：3.9	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
99	甕	a：21.6 b：5.6	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	灰褐色	包含層
100	甕	a：19.9 b：5.1	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
101	甕	a：19.9 b：4.7	複合口縁	外)調整不明 内)ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
102	甕	a：16.4 b：4.8	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	淡灰褐色	包含層
103	甕	a：17.5 b：3.7	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	外)暗灰褐色 内)淡褐色	包含層
104	甕	a：15.2 b：4.9	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
105	甕	a：15.3 b：6.3	複合口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
106	甕	a：15.0 b：4.3	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 微砂粒多く含	淡褐色	包含層
107	甕	a：14.6 b：4.8	複合口縁	外)調整不明 内)ケズリ	良	やや粗	暗灰褐色	包含層
108	甕	a：15.7 b：4.5	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
109	甕	a：12.2 b：4.1	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
110	甕	a：14.1 b：3.8	複合口縁	内外面共調整不明	良	やや粗	外)淡褐色 内)淡灰褐色	包含層
111	甕	a：13.2 b：4.6	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	橙褐色	包含層
112	甕	a：13.6 b：4.3	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
113	甕	a：10.6 b：2.3	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
114	甕	a：15.5 b：5.3	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	淡褐色	包含層
115	甕	a：11.6 b：4.7	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	普通	密	淡褐色	包含層
116	甕	a：13.4 b：4.9	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	明灰褐色	包含層
117	甕	a：17.1 b：3.4	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	淡褐色	包含層
118	甕	a：16.2 b：4.1	複合口縁	外)調整不明 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡灰褐色	包含層
119	甕	a：14.7 b：3.1	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
120	甕	a：14.0 b：4.1	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
121	甕	a：16.4 b：3.6	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
122	甕	a：16.2 b：3.8	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	外)淡灰褐色 内)褐色	包含層
123	甕	a：13.4 b：2.8	複合口縁	内外面共ナデ	普通	密	淡褐色	包含層
124	甕	a：13.2 b：3.3	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
125	甕	a：16.4 b：3.4	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
126	甕	a：17.8 b：3.5	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	外)黒褐色 内)褐色	包含層
127	甕	a：21.2 b：4.7	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	普通	密	淡褐色	包含層
128	甕	a：16.0 b：4.2	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 微砂粒含	淡褐色	包含層
129	甕	a：14.4 b：5.0	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡灰褐色	包含層
130	甕	a：17.6 b：5.6	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
131	甕	a：17.2 b：6.1	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	明灰褐色	包含層
132	甕	a：20.0 b：3.7	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密 １mm大の砂粒含	褐色	包含層
133	甕	a：17.4 b：4.1	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
134	甕	a：17.0 b：4.0	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	外)淡褐色 内)淡灰褐色	包含層
135	甕	a：14.5 b：4.1	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	外)暗褐色 内)淡褐色	包含層
136	甕	a：14.5 b：4.2	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	外)暗淡褐色 内)淡褐色	包含層
137	甕	a：14.0 b：4.2	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	暗褐色	包含層
138	甕	a：13.2 b：4.3	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層

表４　青木稲場遺跡　出土遺物観察表

a：口径　b：器高　c：底径　d：最大径

図版番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎　土	色　調	
139	甕	a：14.7 b：4.4	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
140	甕	a：20.0 b：4.1	複合口縁	内外面共ナデ	普通	密	淡褐色	包含層
141	甕	a：16.5 b：4.3	複合口縁	外)調整不明 内)ケズリ	良好	密	橙褐色	包含層
142	甕	a：14.6 b：5.5	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
143	甕	a：14.0 b：4.2	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
144	甕	a：26.7 b：4.0	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
145	甕	a：15.6 b：4.3	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	褐色	包含層
146	甕	a：15.0 b：5.5	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	外)黒褐色 内)褐色	包含層
147	甕	a：15.5 b：3.0	複合口縁	外)調整不明 内)ナデ	良好	密	褐色	包含層
148	甕	a：17.6 b：5.1	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	普通	密	淡灰褐色	包含層
149	甕	a：17.8 b：5.9	複合口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ケズリ・ナデ	良好	密	橙褐色	包含層
150	甕	a：18.2 b：4.7	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
151	甕	a：15.0 b：4.7	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 ３mm大の砂粒含	淡褐色	包含層
152	甕	a：15.8 b：5.4	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	普通	密 １mm大の砂粒含	褐色	包含層
153	甕	a：18.6 b：4.0	複合口縁	内外面共ナデ	軟質	やや粗 １mm大の砂粒含	淡灰褐色	包含層
154	甕	a：17.6 b：4.4	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
155	甕	a：18.0 b：4.8	複合口縁	外)調整不明 内)ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
156	甕	a：14.9 b：2.9	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	外)褐色 内)橙褐色	包含層
157	甕	a：16.8 b：3.4	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	暗灰褐色	包含層
158	甕	a：17.8 b：4.5	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
159	甕	a：17.0 b：3.9	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 １mm大の砂粒含	淡赤褐色	包含層
160	甕	a：18.0 b：5.6	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
161	甕	a：15.0 b：5.1	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	軟質	密 微砂粒含	淡灰褐色	包含層
162	甕	a：21.0 b：3.7	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 ２mm大の砂粒含	淡褐色	包含層
163	甕	a：21.0 b：5.0	複合口縁	外)調整不明 内)ケズリ	良好	密	外)淡褐色 内)暗褐色	包含層
164	甕	a：20.0 b：4.7	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 １mm大の砂粒含	淡褐色	包含層
165	甕	a：18.0 b：5.2	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 微砂粒含	淡褐色	包含層
166	甕	a：17.0 b：5.7	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 ２mm大の砂粒含	淡褐色	包含層
167	甕	a：16.0 b：5.6	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
168	甕	a：18.4 b：3.7	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 微砂粒含	淡褐色	包含層
169	甕	a：14.6 b：4.4	複合口縁	外)ナデ 内)調整不明	良好	密	淡褐色	包含層
170	甕	a：14.6 b：5.6	複合口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密 １mm大の砂粒含	淡褐色	包含層
171	甕	a：12.6 b：3.8	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	淡褐色	包含層
172	甕	a：15.5 b：4.8	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	橙褐色	包含層
173	甕	a：13.6 b：4.3	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 ３mm大の砂粒含	暗褐色	包含層
174	甕	a：13.6 b：3.2	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	普通	密	淡褐色	包含層
175	甕	a：14.6 b：6.5	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 １mm大の砂粒含	暗褐色	包含層
176	甕	a：15.5 b：4.9	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	褐色	包含層
177	甕	a：15.2 b：4.6	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	淡褐色	包含層
178	甕	a：16.6 b：10.8	複合口縁	外)ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡灰褐色	包含層
179	甕	a：14.8 b：3.4	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
180	甕	a：17.6 b：4.1	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡灰褐色	包含層
181	甕	a：13.0 b：3.5	複合口縁	外)調整不明 内)ナデ	良好	密	灰褐色	包含層
182	甕	a：15.5 b：4.2	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡橙褐色	包含層
183	甕	a：12.8 b：3.5	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	褐色	包含層
184	甕	a：17.8 b：4.4	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	外)褐色 内)暗褐色	包含層
185	甕	a：16.4 b：3.5	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	外)暗褐色 内)淡褐色	包含層

表５　青木稲場遺跡　出土遺物観察表

a：口径　b：器高　c：底径　d：最大径

図版番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎　土	色　調	
186	甕	a：17.4 b：4.1	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	外)黒灰色 内)褐色	包含層
187	甕	a：15.4 b：12.8	複合口縁	外)ナデ・ハケ目・波状文 内)ナデ・ケズリ	良好	密 １mm大の砂粒含	淡褐色	包含層
188	甕	a：15.0 b：18.9 d：19.9	複合口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密 １mm大の砂粒含	褐色	包含層
189	甕	a：16.7 b：4.7	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	外)淡褐色 内)黒色	包含層
190	甕	a：14.4 b：4.3	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
191	甕	a：12.0 b：3.2	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	淡褐色	包含層
192	甕	a：16.3 b：2.9	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	外)淡褐色 内)暗褐色	包含層
193	甕	a：15.7 b：3.8	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
194	甕	a：16.7 b：3.7	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡橙褐色	包含層
195	甕	a：16.0 b：5.1	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	褐色	包含層
196	甕	a：14.6 b：4.7	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡橙褐色	包含層
197	甕	a：16.8 b：3.1	複合口縁	内外面共調整不明	良	やや粗	淡褐色	包含層
198	甕	a：10.4 b：7.3	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	褐色	包含層
199	甕	a：16.0 b：8.4	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
200	甕	a：15.8 b：8.6	複合口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密 ２mm大の砂粒含	褐色	包含層
201	甕	a：16.6 b：3.9	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	外)暗褐色 内)褐色	包含層
202	甕	a：17.2 b：5.6	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ	良好	密	褐色	包含層
203	甕	a：15.7 b：5.5	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	普通	密	淡褐色	包含層
204	甕	a：13.0 b：2.6	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
205	甕	a：11.6 b：5.0	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	淡赤褐色	包含層
206	甕	a：16.0 b：4.2	複合口縁	外)調整不明 内)ナデ・ケズリ	良好	密	外)褐色 内)橙褐色	包含層
207	甕	a：13.1 b：3.6	複合口縁	外)調整不明 内)ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
208	甕	a：15.0 b：4.4	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 微砂粒含	淡褐色	包含層
209	甕	a：12.0 b：5.4	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
210	甕	a：15.0 b：9.3	複合口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
211	甕	a：13.0 b：6.1	複合口縁	外)ナデ・波状文 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡赤褐色	包含層
212	甕	a：19.5 b：5.2	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡赤褐色	包含層
213	甕	a：19.0 b：4.7	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 １mm大の砂粒含	灰褐色	包含層
214	甕	a：16.8 b：4.3	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
215	甕	a：14.4 b：4.8	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	褐色	包含層
216	甕	a：14.0 b：3.2	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
217	甕	a：14.0 b：3.5	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 １mm大の砂粒含	淡赤褐色	包含層
218	甕	a：18.0 b：11.0	複合口縁	外)ナデ・ハケ目・波状文 内)ナデ・ケズリ	良好	密 １mm大の砂粒含	暗淡褐色	包含層
219	甕	a：16.9 b：3.6	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
220	甕	a：16.8 b：3.7	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	褐色	包含層
221	甕	a：15.8 b：3.8	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	外)黒色 内)淡黄灰色	包含層
222	甕	a：16.2 b：5.1	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 １mm大の砂粒含	外)暗灰褐色 内)灰褐色	包含層
223	甕	a：13.8 b：6.3	複合口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡橙褐色	包含層
224	甕	a：14.8 b：3.3	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
225	甕	a：13.5 b：3.7	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 ２mm大の砂粒含	淡赤褐色	包含層
226	甕	a：12.2 b：4.6	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	外)淡褐色 内)暗褐色	包含層
227	甕	a：17.2 b：4.2	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	外)灰褐色 内)暗褐色	包含層
228	甕	a：16.0 b：6.3	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 １mm大の砂粒含	淡褐色	包含層
229	甕	a：15.2 b：3.5	複合口縁	外)調整不明 内)ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
230	甕	a：15.0 b：3.5	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
231	甕	a：13.8 b：5.0	複合口縁	外)調整不明 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡灰褐色	包含層
232	甕	a：11.2 b：3.2	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	淡褐色	包含層

表６　青木稲場遺跡　出土遺物観察表

a：口径　b：器高　c：底径　d：最大径

図版番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎　土	色　調	
233	甕	a：17.4 b：4.2	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
234	甕	a：16.9 b：3.1	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡橙褐色	包含層
235	甕	a：16.0 b：3.7	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
236	甕	a：15.8 b：3.1	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
237	甕	a：15.1 b：5.8	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	外)淡灰褐色 内)淡褐色	包含層
238	甕	a：14.0 b：3.2	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
239	甕	a：13.0 b：3.2	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
240	甕	a：13.8 b：5.9	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡赤褐色	包含層
241	甕	a：20.4 b：3.7	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
242	甕	a：19.2 b：4.2	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	褐色	包含層
243	甕	a：17.8 b：4.2	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡橙褐色	包含層
244	甕	a：17.5 b：5.4	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	橙褐色	包含層
245	甕	a：16.6 b：4.2	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
246	甕	a：12.0 b：10.8 d：16.7	複合口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ	良好	密	淡赤茶色	包含層
247	甕	a：18.7 b：4.5	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
248	甕	a：15.8 b：4.6	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
249	甕	a：14.0 b：5.9	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
250	甕	a：15.0 b：3.4	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡灰褐色	包含層
251	甕	a：10.0 b：2.5	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ハケ目	普通	密	淡褐色	包含層
252	甕	a：12.7 b：4.3	複合口縁	外)調整不明 内)ケズリ	良好	密	暗灰褐色	包含層
253	甕	a：15.0 b：4.9	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡赤褐色	包含層
254	甕	a：15.6 b：5.2	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡灰褐色	包含層
255	甕	a：15.0 b：4.1	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	淡褐色	包含層
256	甕	a：12.8 b：3.2	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
257	甕	a：15.3 b：4.6	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	淡褐色	包含層
258	甕	a：17.0 b：5.2	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 1mm大の砂粒含	淡褐色	包含層
259	甕	a：15.6 b：3.7	複合口縁	内外面共整不明	良好	密	淡褐色	包含層
260	甕	a：16.4 b：3.8	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	褐色	包含層
261	甕	a：16.7 b：3.5	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
262	甕	a：14.0 b：4.0	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	褐色	包含層
263	甕	a：12.4 b：3.3	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	外)暗灰褐色 内)淡褐色	包含層
264	甕	a：15.0 b：2.8	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	褐色	包含層
265	甕	a：14.4 b：2.6	複合口縁	外)ナデ 内)調整不明	良好	密	外)暗褐色 内)褐色	包含層
266	甕	a：20.8 b：4.8	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
267	甕	a：12.6 b：4.8	複合口縁	外)調整不明 内)ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
268	甕	a：13.8 b：4.0	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
269	甕	a：15.0 b：5.7	複合口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密 1mm大の砂粒含	淡赤褐色	包含層
270	甕	a：15.6 b：4.4	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	褐色	包含層
271	甕	a：15.2 b：4.2	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
272	甕	a：17.5 b：5.0	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	淡褐色	包含層
273	甕	a：17.2 b：3.5	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
274	甕	a：19.0 b：6.0	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	淡褐色	包含層
275	甕	a：23.0 b：5.5	複合口縁	内外面共ナデ	普通	密	淡褐色	包含層
276	甕	a：16.2 b：5.1	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	橙褐色	包含層
277	甕	a：14.0 b：5.0	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 微砂粒含	淡褐色	包含層
278	甕	a：13.1 b：4.4	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
279	甕	a：15.0 b：3.5	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層

表７　青木稲場遺跡　出土遺物観察表

a：口径　b：器高　c：底径　d：最大径

図版番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎　土	色　調	
280	甕	a：13.8 b：4.0	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	淡褐色	包含層
281	甕	a：12.8 b：3.2	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	褐色	包含層
282	甕	a：24.6 b：3.8	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡灰褐色	包含層
283	甕	b：13.8	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 １mm大の砂粒含	褐色	包含層
284	甕	b：2.2 c：2.4	甕底部	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
285	甕	a：18.8 b：3.6	退化口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	普通	密	淡褐色	包含層
286	甕	a：12.6 b：2.6	退化口縁	内外面共ナデ	良好	密 1.5mm大の砂粒含	暗灰褐色	包含層
287	甕	a：15.4 b：3.8	退化口縁	内外面共ナデ	良好	密 ２mm大の砂粒含	淡褐色	包含層
288	甕	a：13.8 b：3.1	退化口縁	内外面共ナデ	良好	密 １mm大の砂粒含	淡灰褐色	包含層
289	甕	a：15.2 b：4.6	退化口縁	内外面共ナデ	良好	密 １mm大の砂粒含	暗灰褐色	包含層 SI－02
290	甕	a：17.6 b：8.6	「くの字」口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密 1.5mm大の砂粒含	淡褐色	包含層
291	甕	a：15.5 b：4.0	「くの字」口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	普通	密	褐色	包含層
292	甕	a：14.8 b：5.6	「くの字」口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 １mm大の砂粒含	外)淡灰褐色 内)暗灰褐色	包含層
293	甕	a：13.8 b：10.8	「くの字」口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密 ３mm大の砂粒含	外)暗灰褐色 内)淡褐色	包含層
294	甕	a：15.1 b：9.1	「くの字」口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	軟質	密 ３mm大の砂粒含	灰褐色	包含層
295	甕	a：20.4 b：8.1	「くの字」口縁	外)ハケ目・ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 ２mm大の砂粒含	淡灰褐色	包含層
296	小壷	a：10.8 b：6.5	複合口縁の小型壷	内外面共ナデ	軟質	やや粗 微砂粒多量に含	淡灰褐色	包含層
297	小壷	a：9.4 b：5.7	複合口縁の小型壷	内外面共ナデ	良好	密 0.5mm大の砂粒含	橙褐色	包含層
298	小壷	a：11.3 b：6.7	複合口縁の小型壷	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	褐色	包含層
299	小壷	a：10.0 b：10.0 c：9.6	小型の直口壷	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 ２mm大の砂粒含	赤褐色	包含層
300	小壷	a：9.8 b：9.8 d：9.2	小型の直口壷	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	普通	密	淡赤褐色	包含層
301	小壷	a：10.6 b：5.7	小型の直口壷	内外面共ナデ	良好	密 １mm大の砂粒含	橙褐色	包含層
302	小壷	a：8.0 b：2.7	小型の壷口縁	内外面共ナデ	良好	やや粗	褐色	包含層
303	小壷	b：5.5 d：7.5	小型の壷	内外面共ナデ	良好	密 １mm大の砂粒含	褐色	包含層
304	高坏	b：6.0	大型高坏坏部	外)ハケ目 内)ケズリ	良好	密 ２mm大の砂粒含	外)黒褐色 内)淡褐色	包含層
305	高坏	a：19.3 b：11.0	高坏坏部	内外面共調整不明	不良	密 ３mm大の砂粒含	橙褐色	包含層
306	高坏	a：22.0 b：5.2	高坏坏部	外)調整不明 内)ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
307	高坏	a：22.0 b：4.7	高坏坏部	内外面共調整不明	良好	密	淡褐色	包含層
308	高坏	a：22.0 b：3.5	高坏坏部	内外面共調整不明	良好	密	淡褐色	包含層
309	高坏	a：22.0 b：4.3	高坏坏部	外)ナデ 内)調整不明	普通	密	乳白褐色	包含層
310	高坏	a：17.2 b：6.0	高坏坏部	外)調整不明 内)ナデ	不良	密	淡橙褐色	包含層
311	高坏	a：15.4 b：4.7	高坏坏部	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
312	高坏	a：14.6 b：11.6 c：11.0	完形	内外面共調整不明	不良	密	赤茶色	包含層
313	高坏	b：9.8 c：16.2	高坏脚部	外)ハケ目 内)ナデ・ハケ目	普通	密 ２mm大の砂粒含	淡黒褐色	包含層
314	高坏	b：10.5 c：11.8	高坏脚部	内外面共調整不明	不良	密	淡褐色	包含層
315	高坏	b：6.9 c：10.8	高坏脚部	外)ナデ 内)ナデ・ハケ目	普通	密	淡褐色	包含層
316	高坏	b：6.7 c：10.8	高坏脚部	内外面共調整不明	普通	密	淡朱褐色	包含層
317	高坏	b：4.6 c：13.8	高坏脚部	内外面共ナデ	普通	密	淡茶褐色	包含層
318	高坏	b：2.6 c：12.0	高坏脚部	内外面共ナデ	普通	密	淡朱色	包含層
319	高坏	b：3.2 c：15.2	高坏脚部	外)ナデ 内)ナデ・ハケ目	良好	密	褐色	包含層
320	高坏	b：3.0 c：12.0	高坏脚部	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
321	高坏	b：3.0 c：11.8	高坏脚部	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
322	高坏	b：2.8 c：10.4	高坏脚部	内外面共調整不明	良好	密 ２mm大の砂粒含	赤褐色	包含層
323	高坏	b：4.0 c：10.8	高坏脚部	内外面共ナデ	普通	密 ２mm大の砂粒含	淡褐色	包含層
324	低脚坏	b：5.8 c：6.4	低脚坏脚部～坏部	内外面共ナデ	良好	密	赤褐色	包含層
325	低脚坏	a：17.6 b：4.2	低脚坏坏部	内外面共ナデ	普通	密	淡褐色	包含層

表８　青木稲場遺跡　出土遺物観察表

a：口径　b：器高　c：底径　d：最大径

図版番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎　土	色　調	
326	低脚坏	c：19.0 b：2.8	低脚坏坏部	内外面共ナデ	普通	密	淡褐色	包含層
327	低脚坏	a：17.0 b：2.7	低脚坏坏部	外)ハケ目 内)ナデ	良好	密	淡黄褐色	包含層
328	低脚坏	a：16.0 b：3.1	低脚坏坏部	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
329	低脚坏	a：15.0 b：4.1	低脚坏坏部	外)ハケ目 内)ナデ	良好	密 1.5mm大の砂粒含	褐色	包含層
330	低脚坏	a：13.6 b：3.4	低脚坏坏部	外)ハケ目 内)ナデ	良好	密	茶色	包含層
331	低脚坏	a：13.0 b：2.2	低脚坏坏部	内外面共ナデ	不良	密	褐色	包含層
332	低脚坏	a：11.0 b：2.1	低脚坏坏部	外)ハケ目 内)ナデ	普通	密	淡褐色	包含層
333	低脚坏	b：1.7 c：10.0	低脚坏脚部	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
334	低脚坏	b：1.3 c：10.0	低脚坏脚部	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
335	低脚坏	b：2.5 c：9.6	低脚坏脚部	内外面共ナデ	良好	密	茶褐色	包含層
336	低脚坏	b：2.8 c：8.1	低脚坏坏部	内外面共ナデ	良好	密	赤茶色	包含層
337	低脚坏	b：2.7 c：7.0	低脚坏脚部	外)調整不明 内)ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
338	低脚坏	b：1.9 c：5.4	低脚坏脚部	内外面共ナデ	良好	密	褐色	包含層
339	低脚坏	b：1.6 c：5.4	低脚坏脚部	内外面共ナデ	良好	密	褐色	包含層
340	低脚坏	b：1.4 c：5.8	低脚坏脚部	内外面共ナデ	不良	密	淡褐色	包含層
341	低脚坏	b：1.9 c：6.0	低脚坏脚部	内外面共ナデ	普通	密	淡褐色	包含層
342	器台	a：22.0 b：11.8	器台器受部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	褐色	包含層
343	器台	a：20.0 b：7.1	器台器受部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
344	器台	a：25.0 b：7.5	器台器受部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
345	器台	a：24.0 b：8.5	器台器受部	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
346	器台	a：18.2 b：5.4	器台器受部	内外面共ナデ	普通	密	淡褐色	包含層
347	器台	a：18.0 b：6.5	器台器受部	内外面共ナデ	良好	密	淡赤茶褐色	包含層
348	器台	a：15.0 b：4.4	器台器受部	外)ナデ 内)調整不明	普通	密	淡褐色	包含層
349	器台	a：20.6 b：3.2	器台器受部	内外面共ナデ	良好	密	灰褐色	包含層
350	器台	a：24.3 b：2.9	器台器受部	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
351	器台	b：7.2 c：15.7	器台脚部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡褐色	包含層
352	器台	b：4.2 c：17.0	器台脚部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	褐色	包含層
353	器台	b：3.8 c：21.0	器台脚部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	褐色	包含層
354	器台	b：4.2 c：23.0	器台脚部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	灰褐色	包含層
355	器台	b：3.2 c：15.0	器台脚部	外)ナデ 内)調整不明	良好	密	褐色	包含層
356	器台	b：2.0 c：20.0	器台脚部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	普通	密	淡褐色	包含層
357	器台	b：4.5	器台頸部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	橙褐色	包含層
358	坏	a：19.6 b：5.1	口縁部	内外面共ナデ	不良	密	褐色	包含層
359	坏	a：18.0 b：2.4	口縁部	内外面共ナデ	良好	密	黒褐色	包含層
360	椀	a：12.0 b：5.3	椀形土器	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ	良好	密 ５mm大の砂粒含	褐色	包含層
361	椀	a：13.0 b：6.2		内外面共ナデ	普通	密	淡橙色	包含層
362	椀	a：11.8 b：2.7		外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	普通	やや粗	外)赤褐色 内)黒色	包含層
363	椀	a：10.8 b：3.4		外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	普通	密	黒褐色	包含層
364	椀	b：3.4	小型の椀形土器	外)ミガキ 内)ナデ	良好	密 微砂粒含	褐色	包含層
365	坏	a：7.6 b：4.0	てづくね	内外面共ナデ	良好	密 ２mm大の砂粒含	暗灰褐色	包含層
366	椀	b：2.7	小型の椀形土器	内外面共ナデ	良好	密 ２mm大の砂粒含	黒褐色	包含層
367	椀	b：2.0	小型の椀形土器	内外面共ナデ	良好	密 微砂粒含	淡褐色	包含層
368	甕	b：1.6 c：11.0	土師器甕高台付底部	内外面共ナデ	良好	密	淡黄褐色	包含層
369	甕	b：3.0 c：10.4	弥生土器高台付底部	内外面共ナデ	普通	密 １mm大の砂粒含	褐色	包含層
370	甑	a：22.0 b：13.5	甑口縁部	内外面共ナデ	普通	密 ３mm大の砂粒含	淡褐色	包含層
371	甑	a：20.0 b：4.2	甑口縁部	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	包含層
372	甑	b：24.0 c：12.6	甑底部	外)ナデ 内)ナデ・指頭圧痕	良好	密 ２mm大の砂粒含	淡褐色	包含層

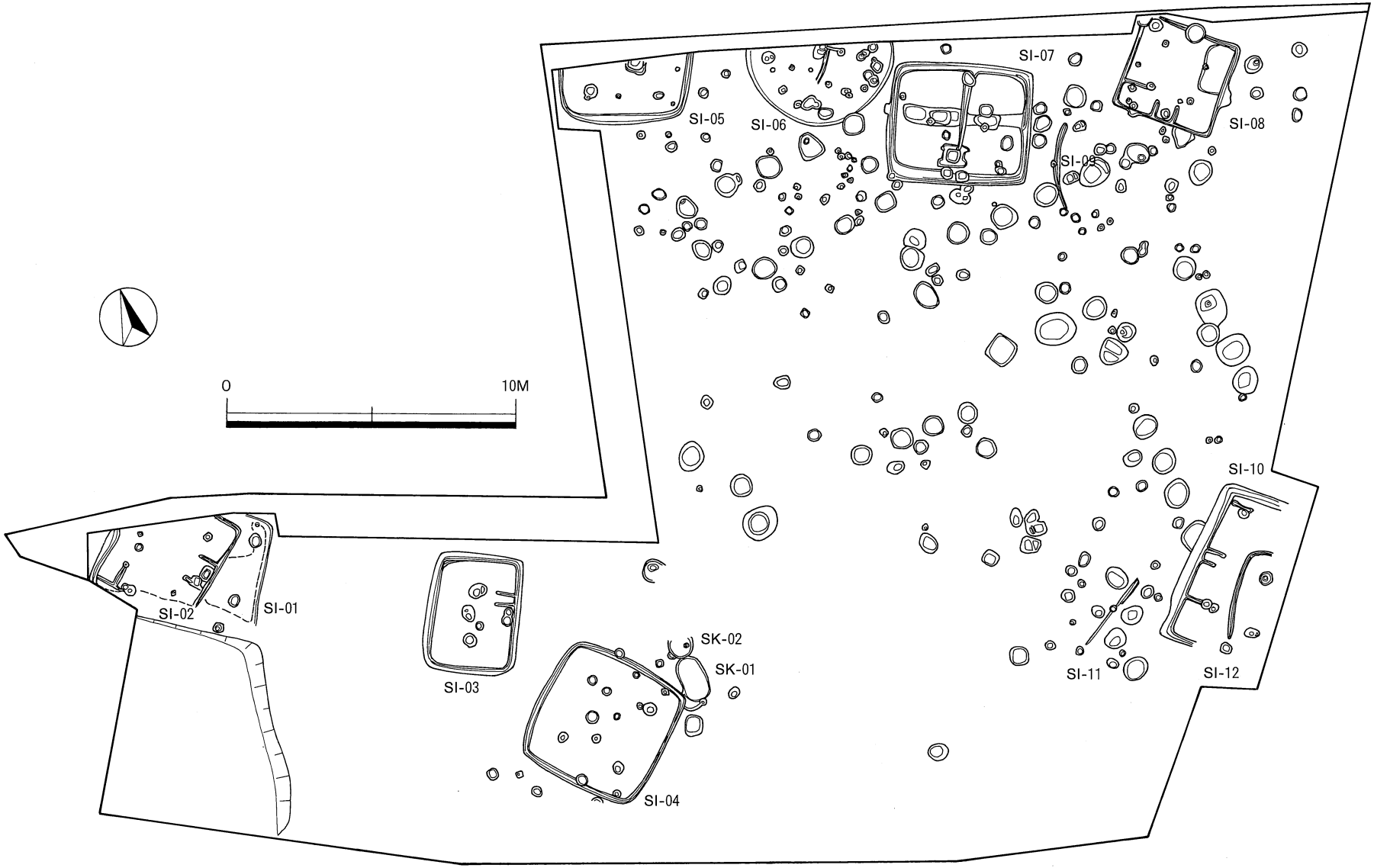
表９　青木稲場遺跡　出土遺物観察表

a：口径　b：器高　c：底径　d：最大径

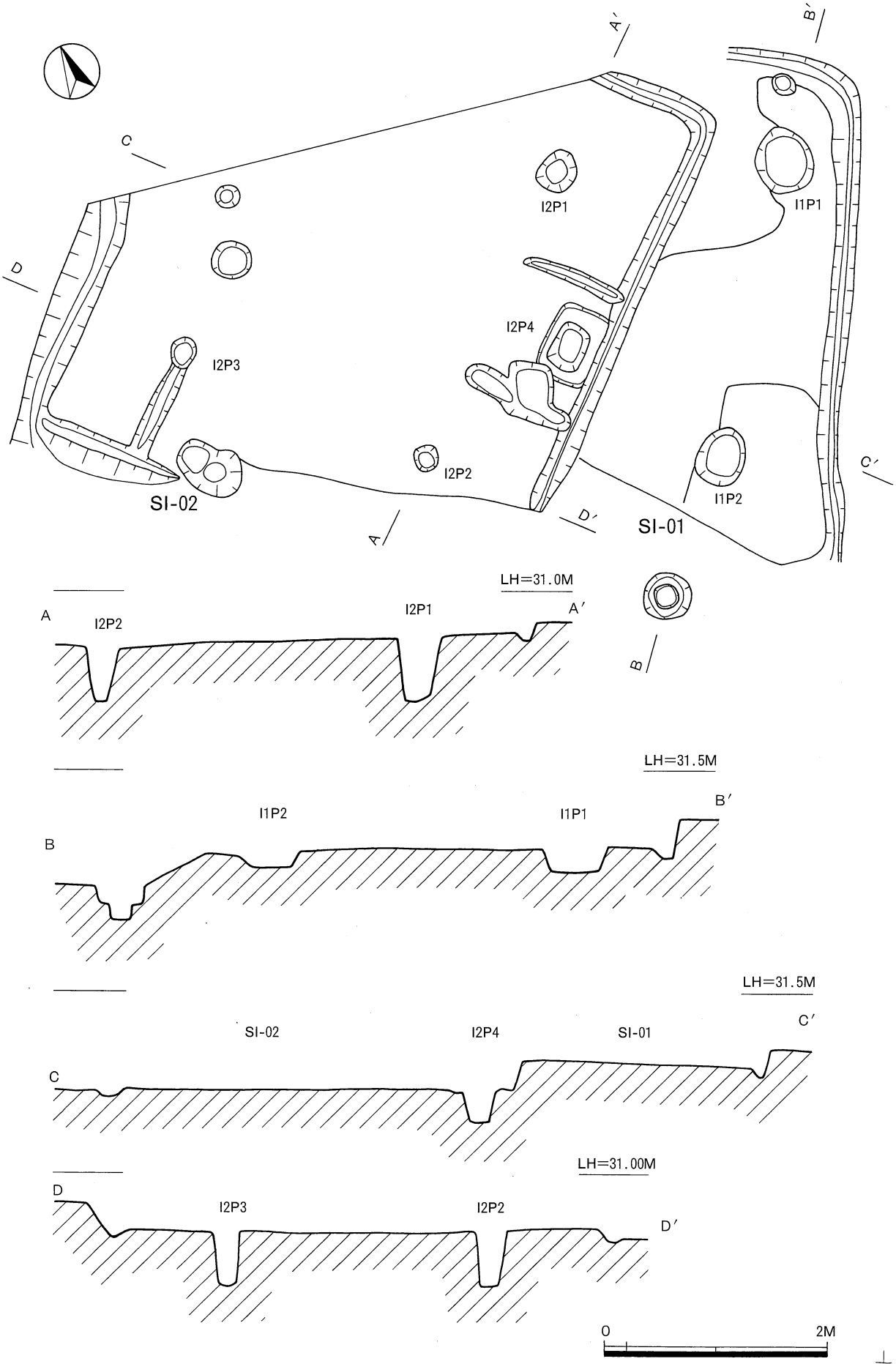
図版番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎　土	色　調	
373	紡錘車	径　：4.5 厚み：0.5	土器転用品		良好	密	明褐色	包含層
374	甕	b：※3.6	韓国式土器 肩部に把手	外)縄蓆文 内)ナデ	不良	密	灰色	包含層
375	坏	a：12.8 b：4.9	須恵器坏蓋	外)ナデ・ケズリ 内)ナデ	良	緻密	外)暗灰色 内)灰色	包含層
376	甕	a：21.3 b：1.3	弥生前期甕	内外面共ナデ	良好	密	暗灰褐色	A－2
377	甕	a：21.0 b：3.9	弥生甕口縁部	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ハケ目	良好	密 微砂粒含	淡褐色	B－2
378	壷	a：23.0 b：6.7	弥生壷口縁部	外)ナデ 内)調整不明	不良	密	外)淡褐色 内)赤茶色	B－2
379	壷	a：17.4 b：5.6	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	B－3
380	甕	a：28.0 b：4.7		内外面共調整不明	良好	粗 5㎜大の砂粒含	褐色	B－1
381	甕	a：15.6 b：4.7	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡褐色	B－2
382	甕	a：15.0 b：5.7	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良	密 1㎜大の砂粒含	暗褐色	B－1
383	甕	a：15.6 b：12.7	「くの字」口縁	外)ナデ・ハケ目・波状文 内)ナデ・ケズリ	良好	密 3㎜大の砂粒含	赤褐色	B－3
384	甕	a：13.0 b：4.2	「くの字」口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 1㎜大の砂粒含	褐色	B－1
385	高坏	a：20.0 b：4.9	高坏坏部	外)ナデ 内)ナデ・ミガキ	良好	密 1㎜大の砂粒含	外)黒褐色 内)赤褐色	B－1
386	高坏	a：26.0 b：6.6	高坏坏部	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密 2㎜大の砂粒含	褐色	B－2
387	高坏	a：19.0 b：4.6	高坏坏部	外)調整不明 内)ナデ	良好	密 5㎜大の砂粒含	外)暗赤褐色 内)赤褐色	B－3
388	低脚坏	a：12.0 b：4.5 c：4.2		内外面共ナデ	良好	密 1㎜大の砂粒含	淡褐色	B－1
389	器台	a：19.6 b：6.4	器台器受部	内外面共ナデ	軟質	やや粗 1㎜大の砂粒含	淡灰褐色	B－1
390	器台	a：19.6 b：3.9	器台器受部	内外面共ナデ	良好	密	淡灰褐色	B－1
391	坏	a：12.0 b：4.3		内外面共ナデ	良好	密 1㎜大の砂粒含	褐色	B－2
392	てづくね	a：3.6 b：2.0		内外面共ナデ	良好	やや粗	褐色	A－2
393	土製支脚	b：13.5 c：11.1			軟質	密 5㎜大の砂粒含	赤茶色	A－2
394	甕	a：37.6 b：57.7	須恵器大型甕	外)波状文・叩き 内)ナデ・叩き	良好	密 3㎜大の砂粒含	青灰色	A－2
395	甕	b：41.2 d：55.0	須恵器大型甕胴部	内外面共タタキ	良好	密	外)淡灰褐色 内)灰色	A－1
396	甕	a：31.5 b：4.3	須恵器大型甕口縁	内外面共ナデ 波状文	良好	密	外)暗灰色 内)暗灰褐色	A－2
397	壷	a：14.5 b：21.4	須恵器壷	外)ナデ・カキ目 内)ナデ	良好	密 2㎜大の砂粒含	外)暗灰色 内)淡青灰色	A－2
398	甕	a：8.8 b：15.1 d：24.3	須恵器甕	内外面共ナデ	良好	密	灰色	A－2
399	鉢	a：17.3 b：4.6	須恵器鉢口縁	内外面共タタキ	良好	密	濃灰色	A－2
400	高坏	b：4.9 c：10.6	須恵器高坏脚部	内外面共ナデ	良好	やや粗	濃灰色	A－2
401	高坏	b：4.7 c：16.0	須恵器高坏脚部	内外面共ナデ	良	緻密	濃灰色	A－2
402	坏	a：11.8 b：5.5	須恵器坏蓋	外)ナデ・ケズリ 内)ナデ	普通	密	淡灰色	B－1
403	坏	a：13.8 b：3.4	須恵器坏蓋	外)ナデ・ケズリ 内)ナデ	良好	密	淡灰色	A－2
404	坏	a：10.7 b：3.5	須恵器坏蓋	外)ナデ・ケズリ 内)ナデ	良好	密 0.5㎜大の砂粒含	灰色	A－2
405	坏	a：11.8 b：1.8	須恵器坏蓋	内外面共ナデ	不良	密	灰色	A－2
406	坏	a：11.6 b：2.7	須恵器坏身	内外面共ナデ	良好	密	淡灰色	A－2
407	高台付坏	b：1.5 c：5.6	須恵器高台部	内外面共ナデ	普通	密	淡灰色	A－1
408	高台付坏	b：4.0 c：7.1	瓦質高台部	内外面共ナデ	軟質	密 2㎜大の砂粒含	外)暗灰色 内)淡灰色	A－2
409	坏	a：19.0 b：2.4 c：11.2	須恵器坏身	内外面共ナデ	普通	密	淡黄灰色	排土中
410		径：4.3	須恵器把手		良好	密	青灰色	A－2
411		縦：5.8 横：4.8	須恵器甕片	内外面共タタキ	普通	密	灰褐色	区外

表10　青木稲場遺跡　出土遺物観察表（石器・その他）

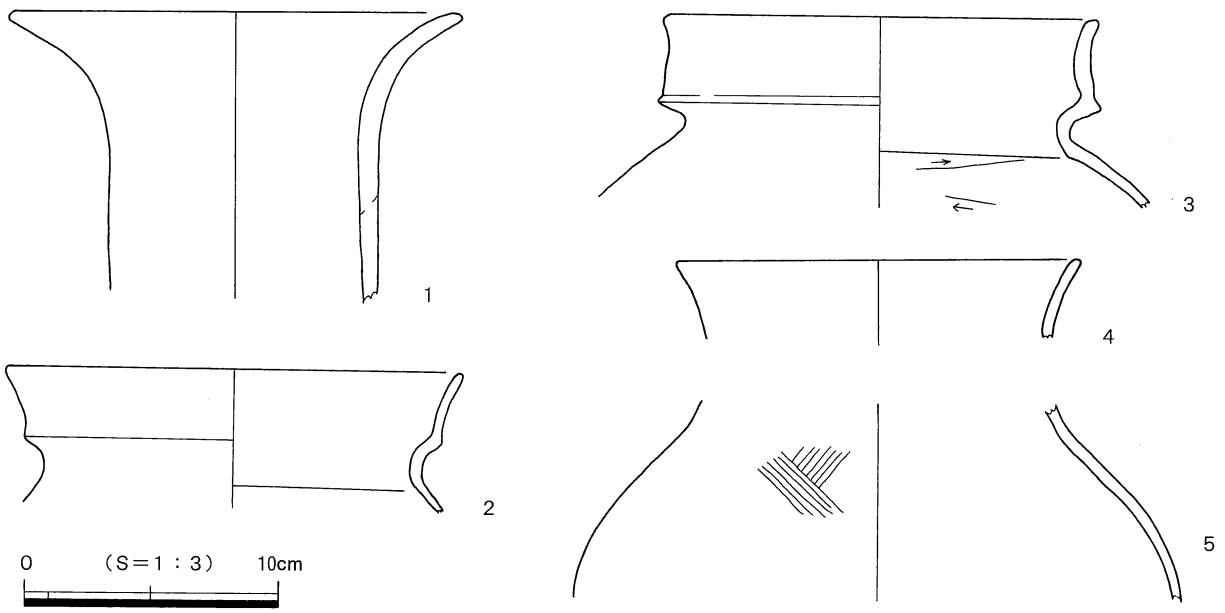
図版番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	備考
S１	石斧	4.3	5.3	3.1	95.0	凝灰岩	SI－02
S２	砥石	9.8	2.8	3.5	15.7		A－2
S３	砥石	8.9	4.6	4.3	243.0		?
S４	叩き石	7.5	6.8	3.3	.	安山岩	包含層
S５	台石	12.2	8.9	3.8	629.3	安山岩	A－2
P１	土錘	5.5		径1.5			A－2
P２	有孔円盤	2.8		0.4	2.0		包含層
P３	管玉	2.0		径0.5		碧玉	包含層
P４	管玉	1.7		径0.5		碧玉	包含層
P５	小玉	0.25		径0.3			包含層



第31図　福市遺跡（大成地区）調査全体図（S＝1：200）



第32図　SI-01・02平面図および断面図（S＝1：50）



第33図　福市遺跡（大成地区）SI-01出土遺物

Ⅲ　福市遺跡（大成地区）について

1　概要

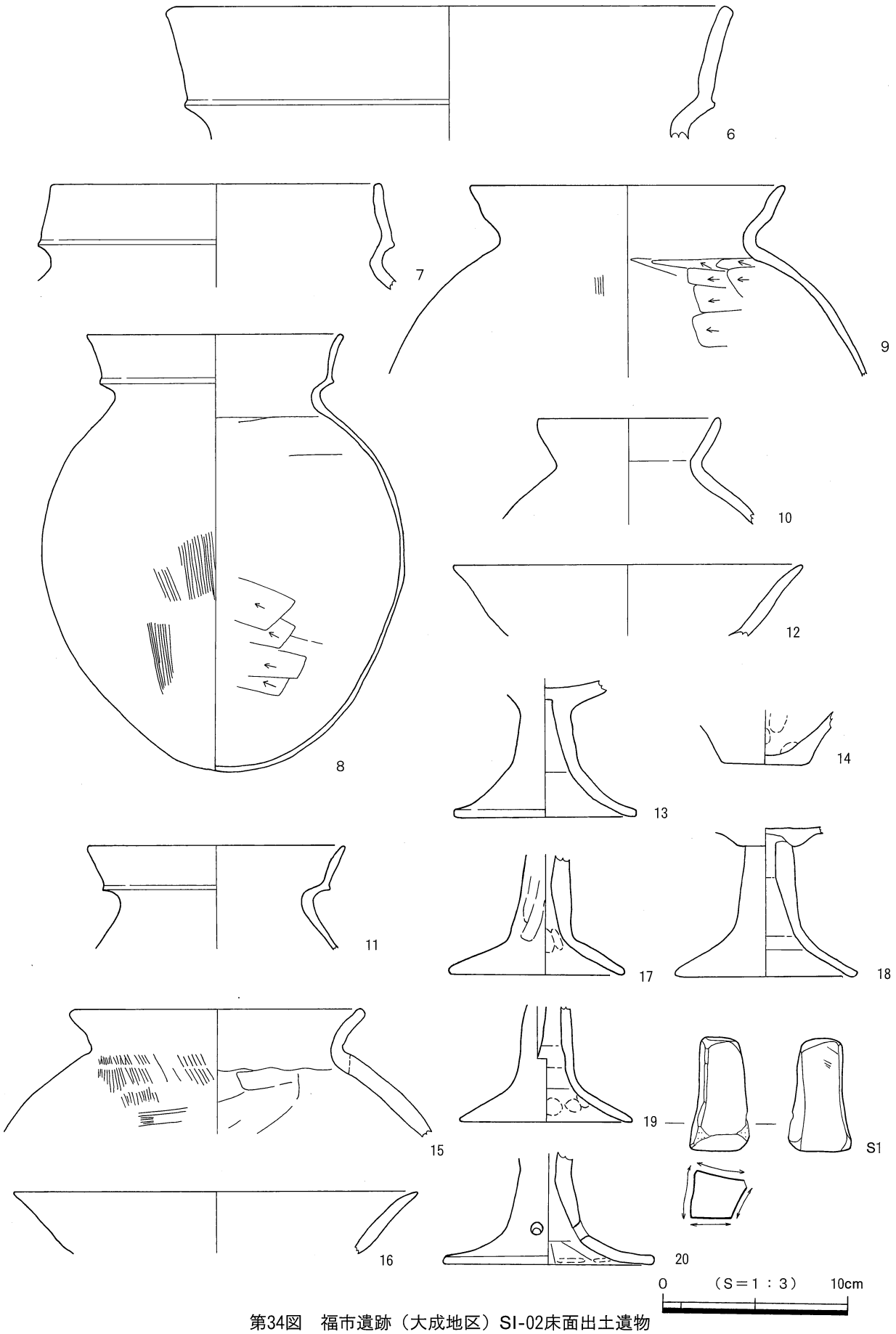
調査地は青木稲場遺跡の北東約100m、米子市福市403-1の標高32mのほぼ平坦地に位置する。現地調査は平成11年７月８日に開始し、平成11年９月２日まで行った。調査面積は1408.37㎡であった。調査の結果、竪穴住居跡12棟及び多数のピットを検出した。

2　竪穴住居跡

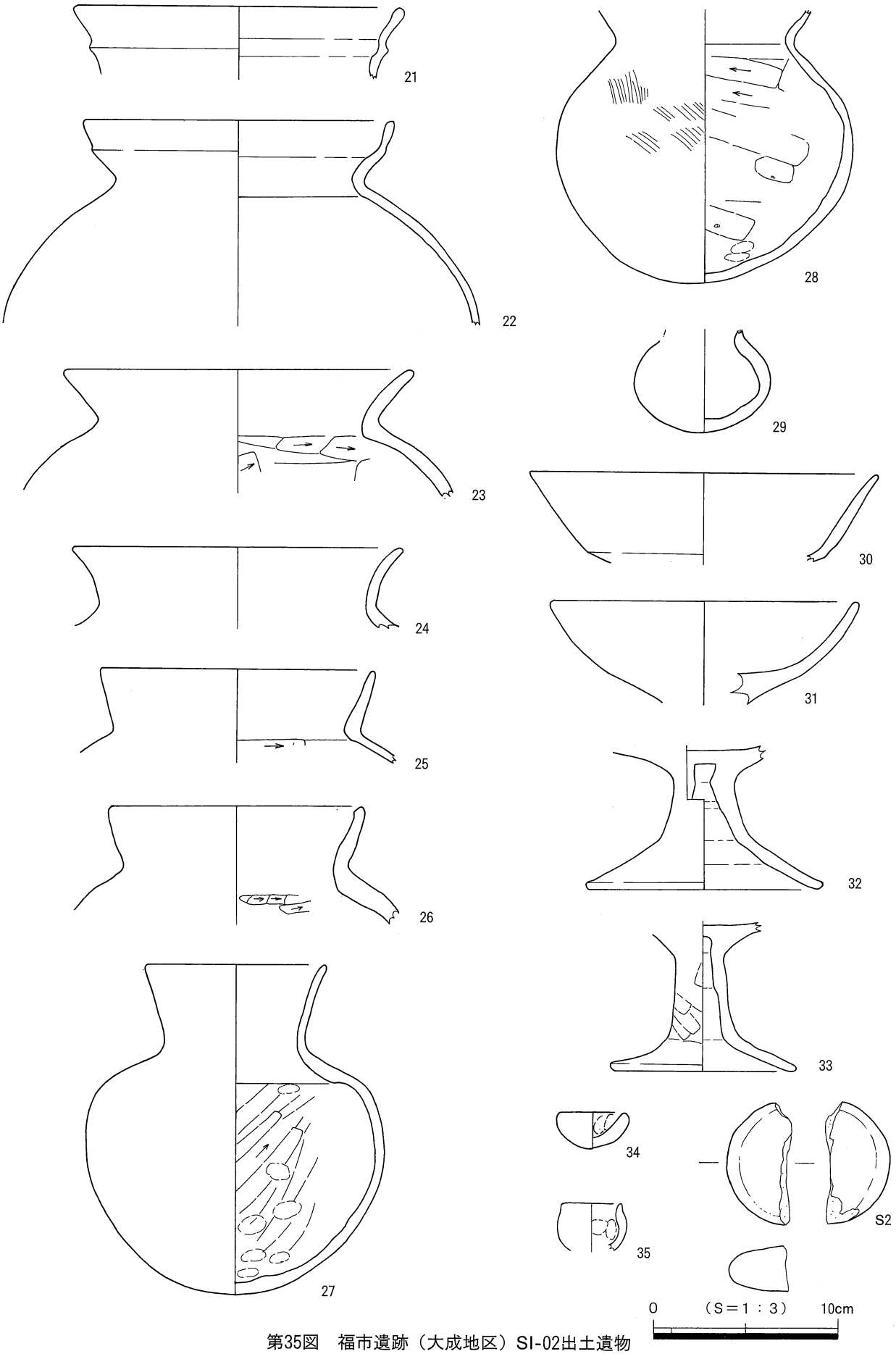
ＳＩ－０１（第32図）　ＳＩ－０２に切られているため、東側の一部が残るのみであったが、４本柱の方形の住居である。残存床幅２ｍ・残存奥行4.5ｍ・最大壁高28cm・床面標高30.7～30.8ｍ・残存床面積5.36㎡で、N30°Ｅ方向を向く。床面にはＰ１（60cm×52cm－21cm）・Ｐ２（54cm×42cm－14cm）の柱穴２穴を検出し、柱穴間は2.7ｍであった。また床面壁際には幅20cm・深さ10cmの溝が巡る。SI-02よりやや古いと思われる。

出土遺物（第33図）　土師器壷（No.１）・土師器甕（No.２・３・４）で、甕No.２・３は複合口縁、No.４は「くの字」口縁である。No.５はNo.４の肩部と思われる。

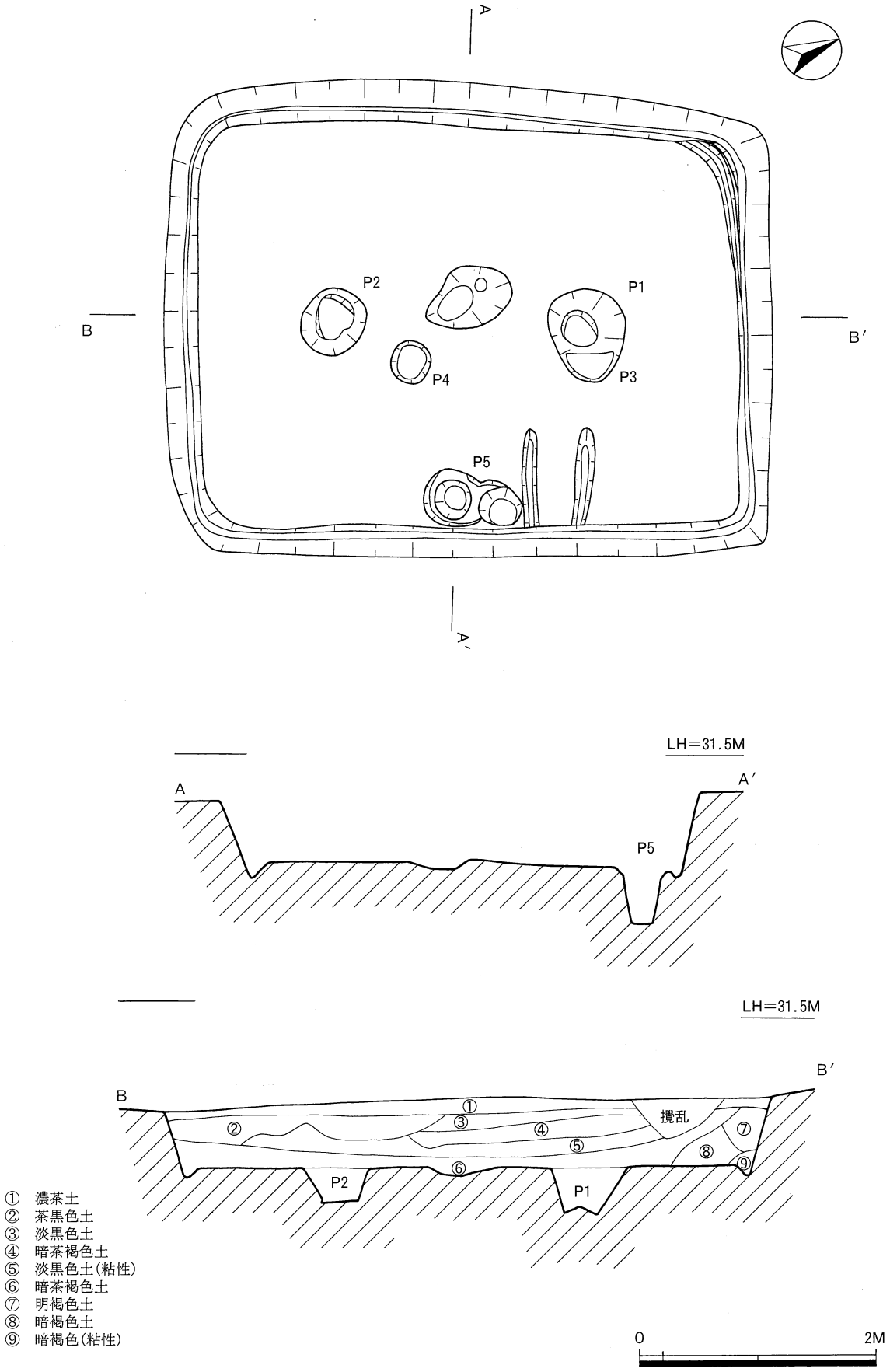
ＳＩ－０２（第32図）　南側は後世の溝によって消滅し、北西隅は調査区外にかかっていたが、４本柱の方形の住居である。床幅4.3ｍ・残存奥行4.7ｍ・最大壁高25cm・床面標高30.5ｍ・残存床面積14.75㎡で、N50°Ｅ方向を向く。床面には柱穴５穴を検出。うち本住居に伴うものはＰ１(38cm×32cm－58cm)・Ｐ２(20cm×22cm－49cm)・Ｐ３（28cm×23cm－48cm）の３穴と思われ、各柱穴間はＰ１－Ｐ２（2.9m）・Ｐ２－Ｐ３（2.4m）である。また床面壁際には幅16cm・深さ６cmの溝が巡り、Ｐ３からは南側溝にかけて幅19cm・深さ14cmの溝がつながる。更に床面東側に方形の穴を２穴検出している。Ｐ４は42cm×30cm－28cmで穴の上部は穴より一回り広く72cm×48cmの僅かな窪みをつくる。この穴を挟むように周溝より中央に向って長さ100cm・最大幅22cm・深さ10～20cmの溝を２本確認した。またこの南側の溝を切るように53cm×40cm－21cmの方形の穴Ｐ５を検出している。



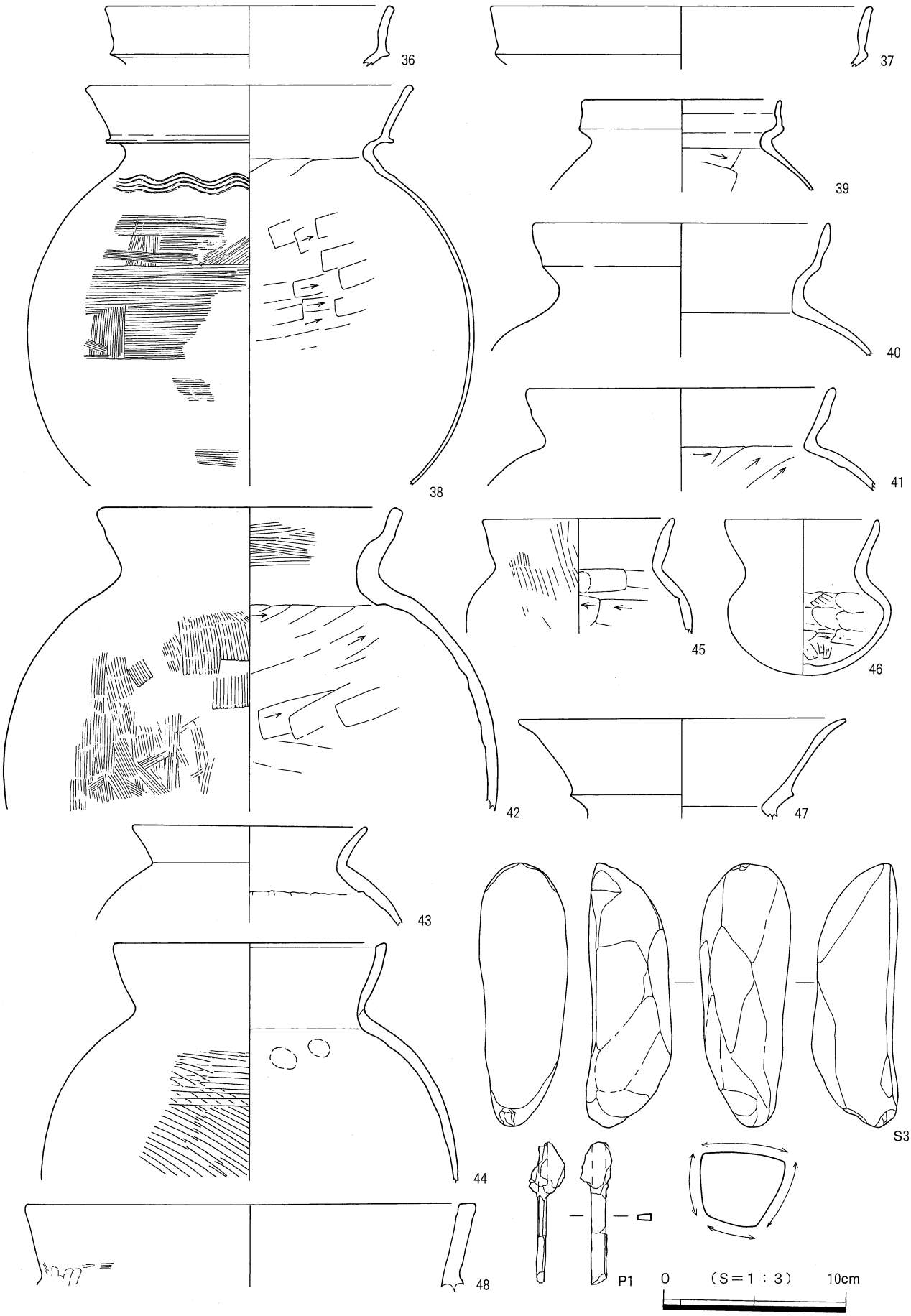
第34図　福市遺跡（大成地区）SI-02床面出土遺物



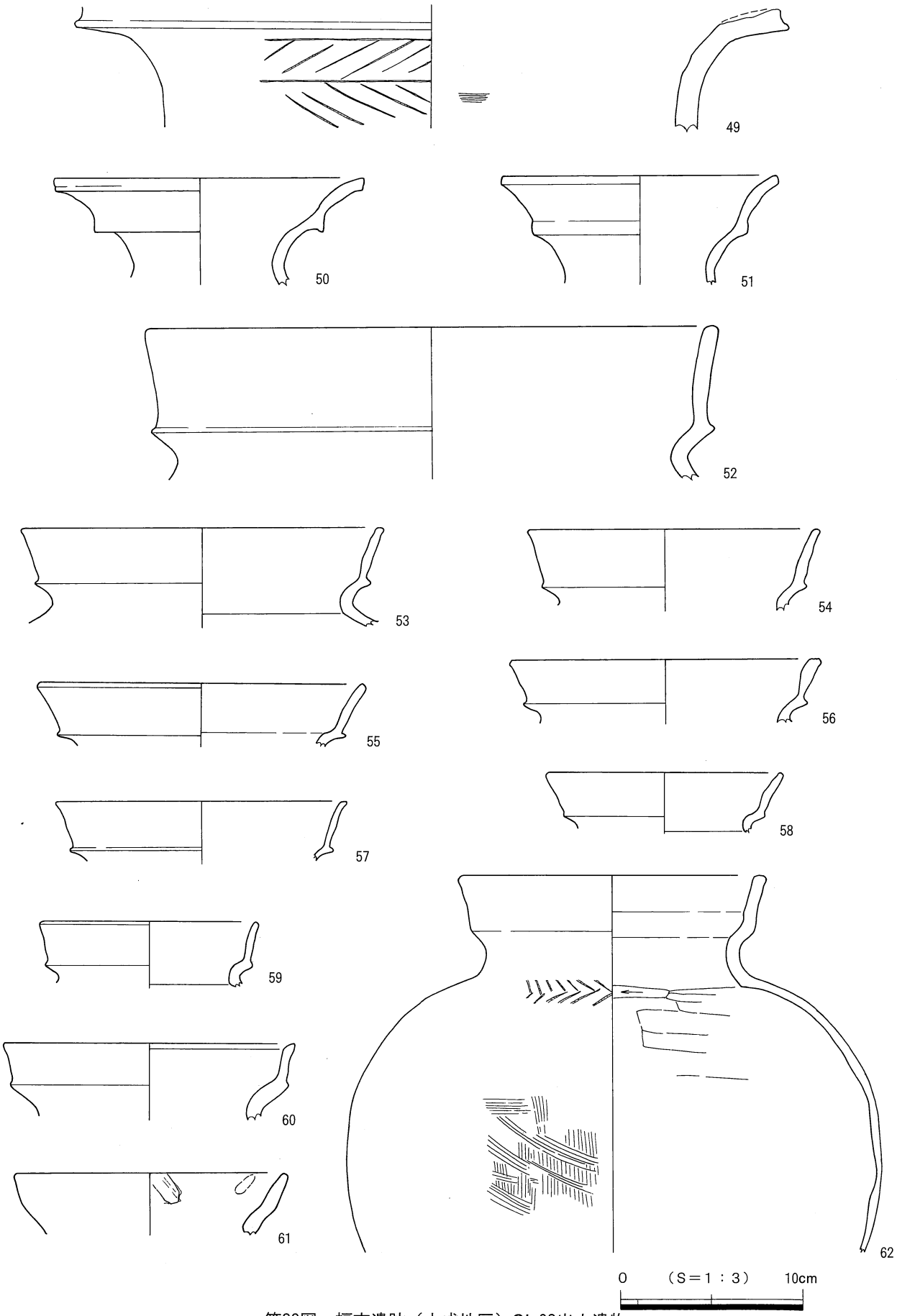
第35図　福市遺跡（大成地区）SI-02出土遺物



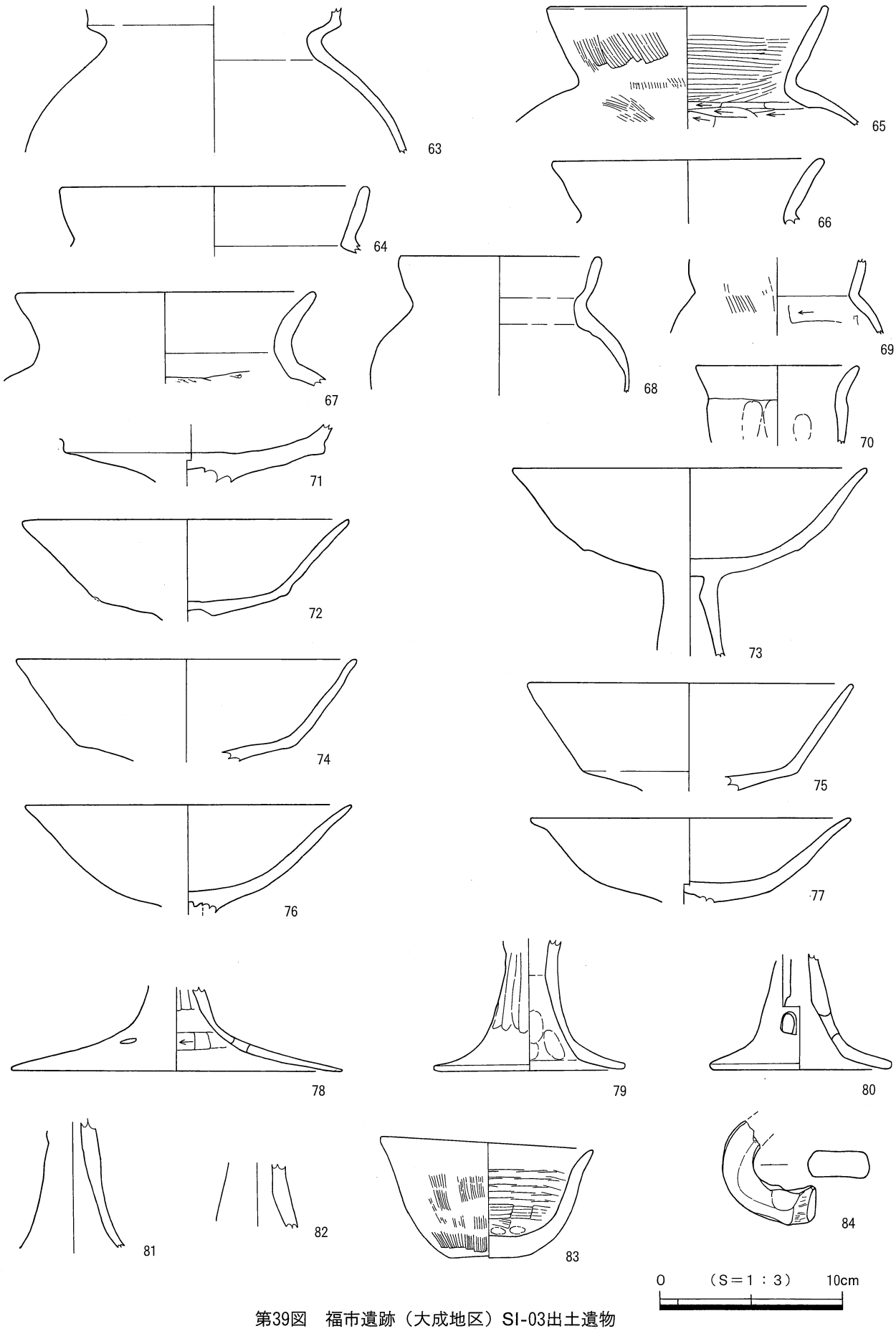
第36図　福市遺跡（大成地区）SI-03平面図および断面図（S＝1：50）



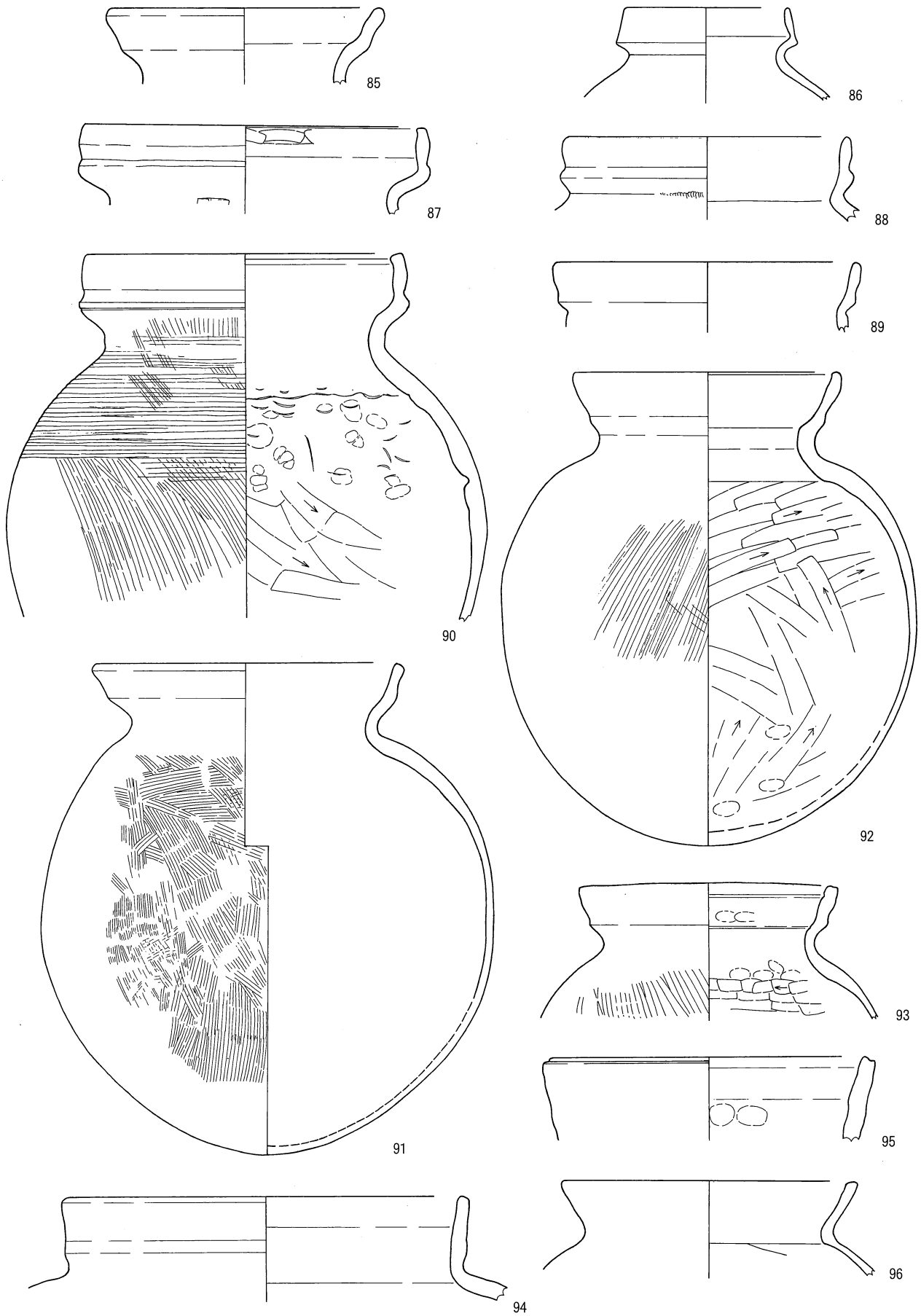
第37図　福市遺跡（大成地区）SI-03床面出土遺物



第38図　福市遺跡（大成地区）SI-03出土遺物

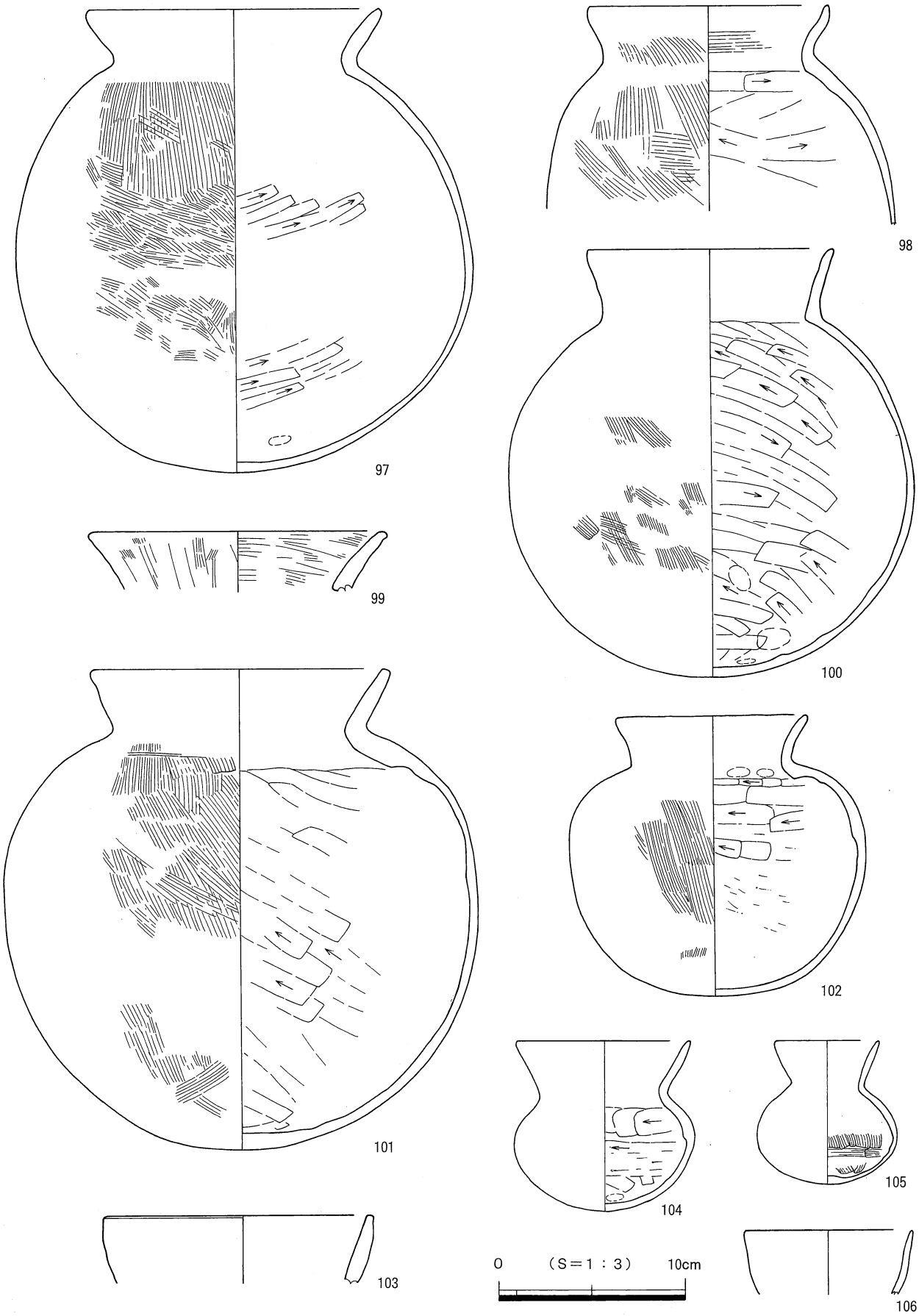


第39図　福市遺跡（大成地区）SI-03出土遺物

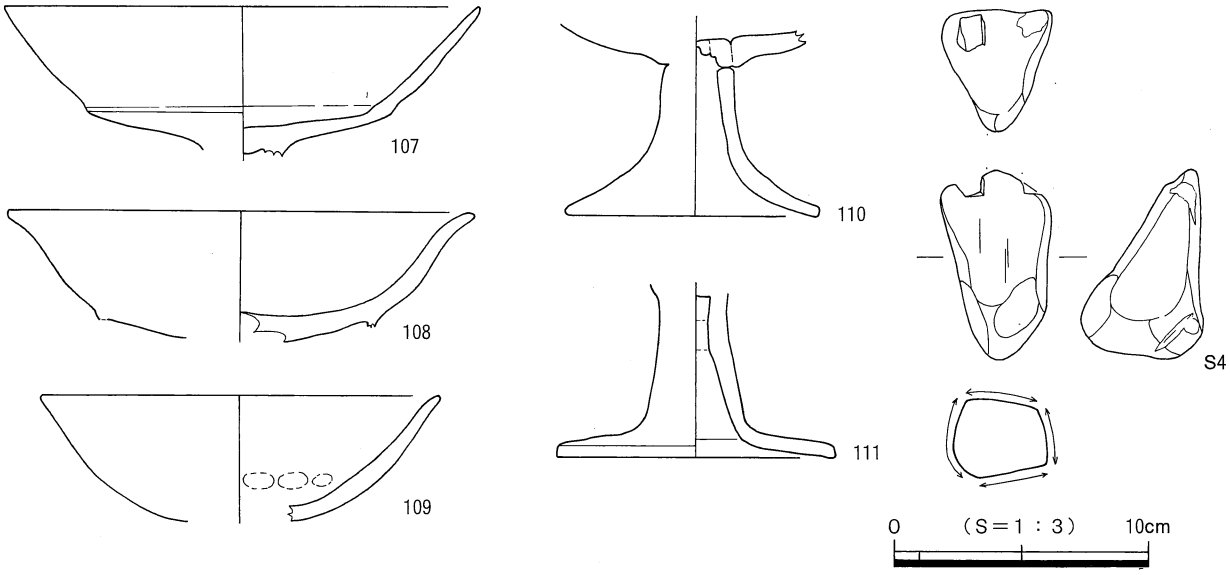


0　（S＝1：3）　10cm

第40図　福市遺跡（大成地区）SI-03出土遺物



第41図　福市遺跡（大成地区）SI-03出土遺物



第42図　福市遺跡（大成地区）SI-03出土遺物

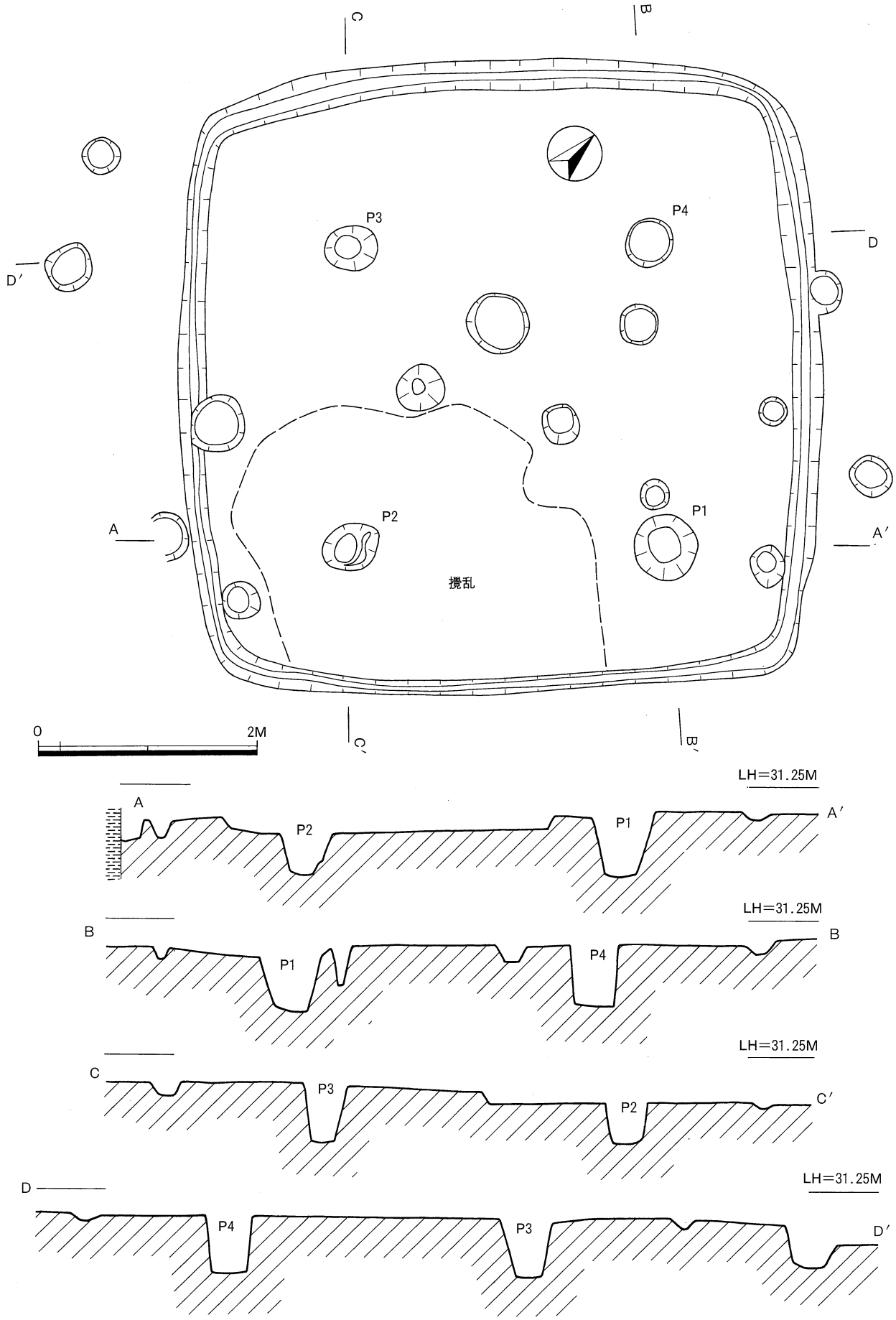
出土遺物（第34・35図）　床面検出遺物として、複合口縁の甕（No.６～No.８）・退化口縁の甕（No.９）・「くの字」口縁の甕（No.10）・複合口縁壷（No.11）・高坏（No.12・13）・弥生土器底部（No.14）があるが、時間的に幅が見られ、本住居の時期を決定付けるものとして、ピット内検出のNo.８からみて、青木Ⅷ古と思われる。No.14の弥生土器底部は甕と思われるが、恐らく混入したものと思われる。

その他床面からやや浮いた状態で、「くの字」口縁を呈する土師器甕（No.15）・土師器高坏（No.16～20）・砥石（Ｓ１）が出土している。その他本住居埋土中の遺物として、土師器甕（No.21～26・28）・土師器壷（No.27・29）・土師器高坏（No.30～33）・てづくね（No.34・35）・擦り石（Ｓ２）がある。甕はNo.21・22は退化口縁、No.23～26は「くの字」口縁のものである。これらにはＳＩ－０１に伴うものがあると考えられるが断定はできない。

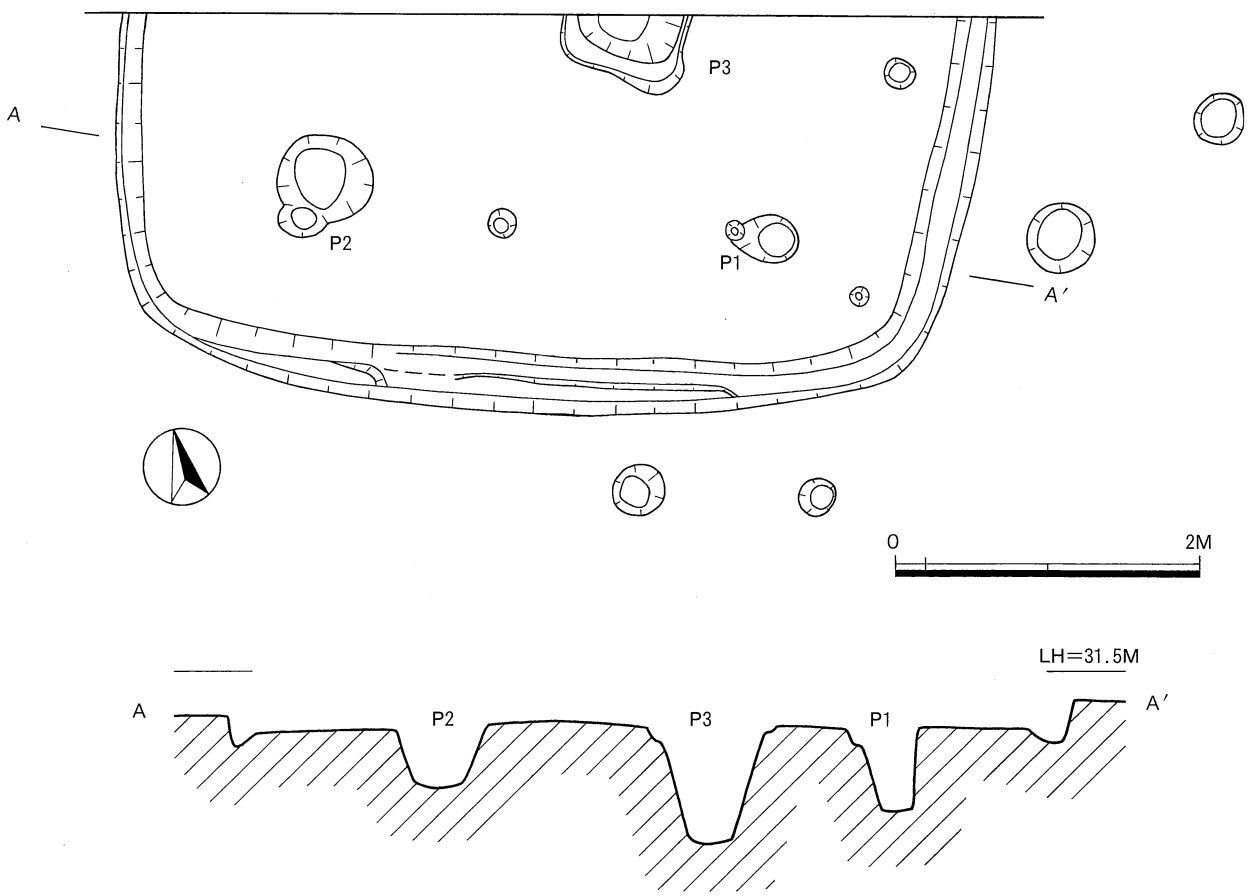
ＳＩ－０３（第36図）　今回の調査においてもっとも残りのよい２本柱の方形住居であった。床幅4.6m・残存奥行 3.4m・最大壁高66cm・床面標高30.5～30.6m・床面積15.45m²で、N20°Ｅ方向を向く。床面には柱穴４穴を検出したが、本住居は２本柱の建物で、Ｐ１（76cm×68cm－40cm）・Ｐ２（58cm×50cm－28cm）・Ｐ３（76cm×68cm－15.7cm）・Ｐ４（36cm×32cm－12.2cm）がそれぞれ対応すると思われ、各柱穴間はＰ１－Ｐ２（2.1m）・Ｐ３－Ｐ４（1.5m）である。また床面壁際には幅18cm・深さ12cmの溝が巡るが、北西隅は内側15cmのところで二重に巡っている。また、東側壁際には２穴の柱穴状のものを検出し、それぞれＰ５（33cm×30cm－40cm）・Ｐ６（36cm×33cm－62cm）で、Ｐ５は上部を約46cm×46cm－８cmほど掘り窪めてから掘り下げている。さらに幅18cm・深さ８cmの溝を北側に施す。青木Ⅶ古の時期に造られたと思われる。

断面観察の結果、検出床面から20cm上で比較的安定した層が見られ、この面から多量の遺物が出土していることからみて、この段階で生活面があったと考えることができるが、調査の段階では確認することができなかった。またＰ３・Ｐ４の深度が比較的浅いことから、この時期のものと考えることができる。

出土遺物（第37～42図）　土師器甕（No.36～45）・土師器小壷（No.46）・土師器器台（No.47）・不明遺物（No.48）・砥石（Ｓ３）・鉄器（Ｐ１）で、甕No.36～39は複合口縁、No.40～42は退化口縁、No.43・44は「くの字」口縁を呈する。No.46は小型の甕、No.47は小型の壷である。No.48は把手が付くようだが、器種は不明である。その他埋土中間より土師器壷（No.49～51）・土師器甕（No.52～69）・土師器小壷（No.70）・土師器高坏（No.71～82）・土師器椀（No.83）・把手（No.84）、上層部より土師器壷（No.85）・土師器甕（No.86～103）・土師器小壷（No.104～106）・土師器高坏（No.107～111）・砥石（Ｓ４）が出土している。甕No.52～59・86は複合口縁、No.59～64・87～93は退化口縁、No.65～69・No.94～103は「くの字」を呈する。



第43図　福市遺跡（大成地区）SI-04平面図および断面図（S＝1:50）



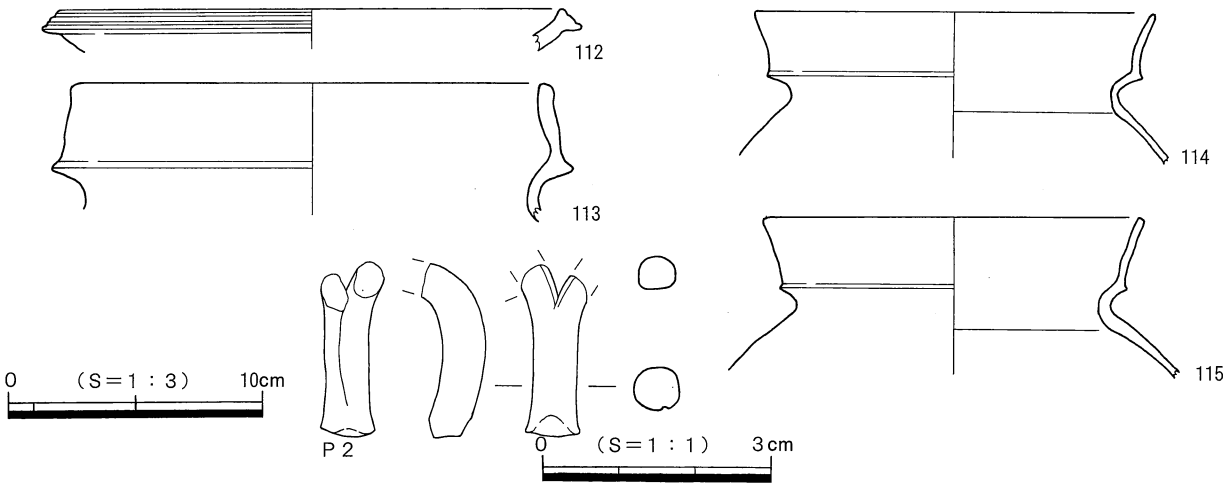
第44図　福市遺跡（大成地区）SI-05平面図および断面図（S＝1：50）

ＳＩ－０４（第43図）　床面のみの検出であったが、４本柱の方形住居である。一部梨の肥料穴で攪乱を受けているが、床幅5.4m×奥行5.4m・床面標高31.0m・床面積27.93m²で、N45°Ｅ方向を向く。床面には柱穴13穴を検出。うち本住居に伴うものはＰ１(62cm×58cm－55cm)・Ｐ２(56cm×44cm－40cm)・Ｐ３(50cm×43cm－50cm)・Ｐ４(45cm×42cm－56cm)の４穴と思われ、各柱穴間はＰ１－Ｐ２(2.9m)・Ｐ２－Ｐ３(2.75m)・Ｐ３－Ｐ４(2.8m)・Ｐ４－Ｐ１(2.8m)である。また床面壁際には幅28cm・深さ14cmの溝が巡る。

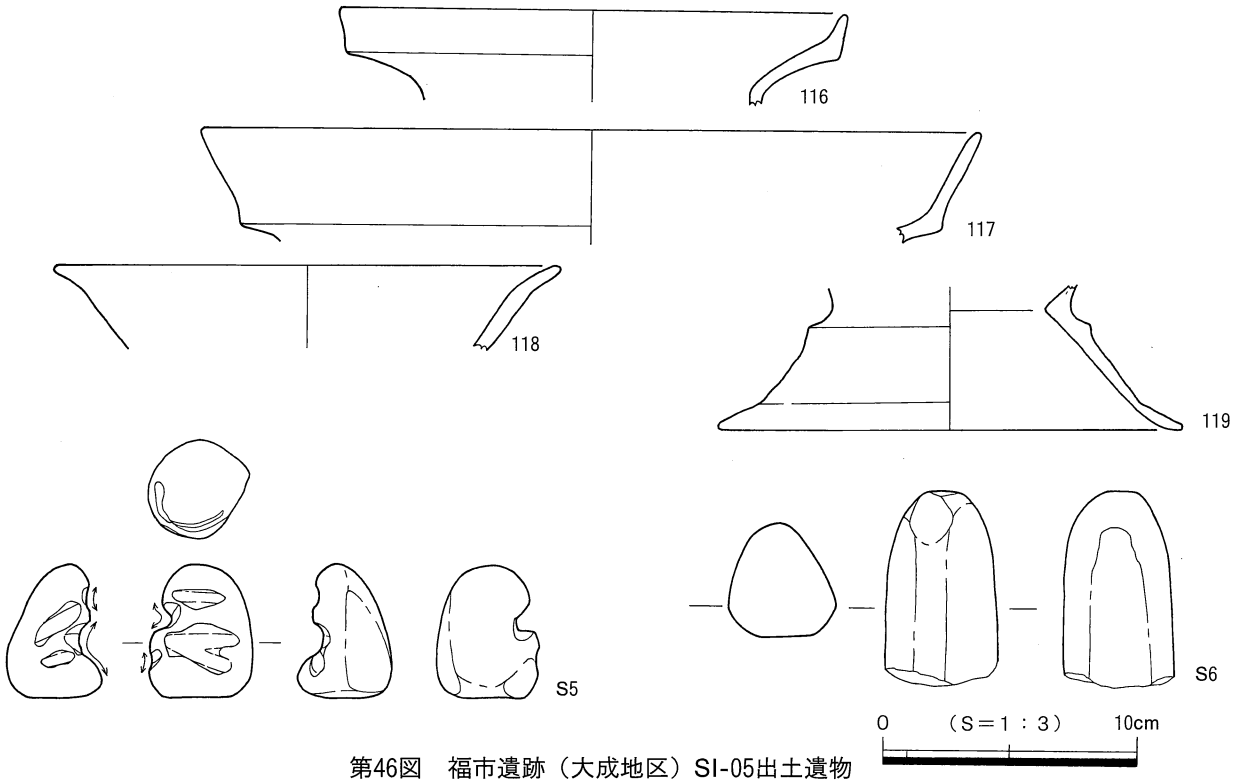
出土遺物（第45図）　弥生土器甕（No.112）・土師器甕（No.113～115）・不明遺物（Ｐ２）が出土している。土師器の甕はいずれも複合口縁を呈するものである。Ｐ２は須恵器の装飾部分の一部のようにも見えるが不明である。本住居は上部が完全に消失していることから、これらの遺物が本住居に伴うものか否かは判別しにくいが、住居の形態からSI-02･08と同時期のものか。

ＳＩ－０５（第44図）　調査区境界際での検出のためほぼ半分の調査であったが、４本柱の方形住居である。床幅5.3m・検出奥行2.4m・最大壁高20cm・床面標高31.1～31.2m・検出床面積11.29m²で、推定面積22.59m²である。N25°Ｅ方向を向く。床面には柱穴８穴を検出。うち本住居に伴うものはＰ１(46cm×32cm－54cm)・Ｐ２(63cm×60cm－42cm)で、柱穴間は3.0mである。中央には上部を一辺82cm・深さ８cm掘り窪めた一辺70cm・深さ74cmの穴Ｐ３を半分検出した。中から土師器器台（No.119）出土。また床面壁際には幅16cm・深さ８cmの溝が巡る。SI-07に続く青木Ⅶ古の時期と思われる。

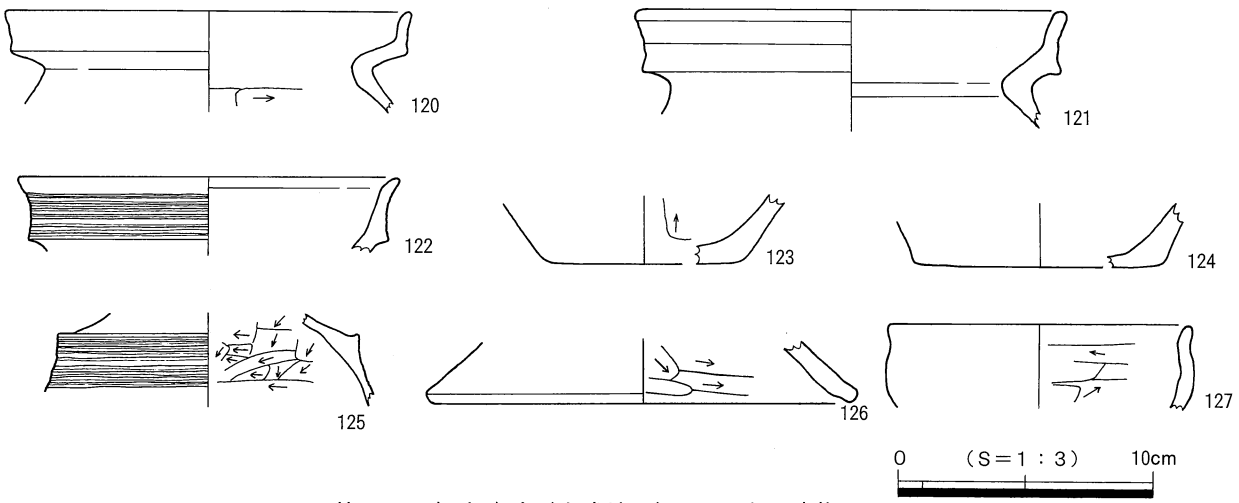
出土遺物（第46図）　土師器壷（No.116）・土師器甕（No.117）・土師器器台（No.118・119）・砥石（Ｓ５）・擦り石（Ｓ６）である。器台No.119は中央ピットからの出土である。



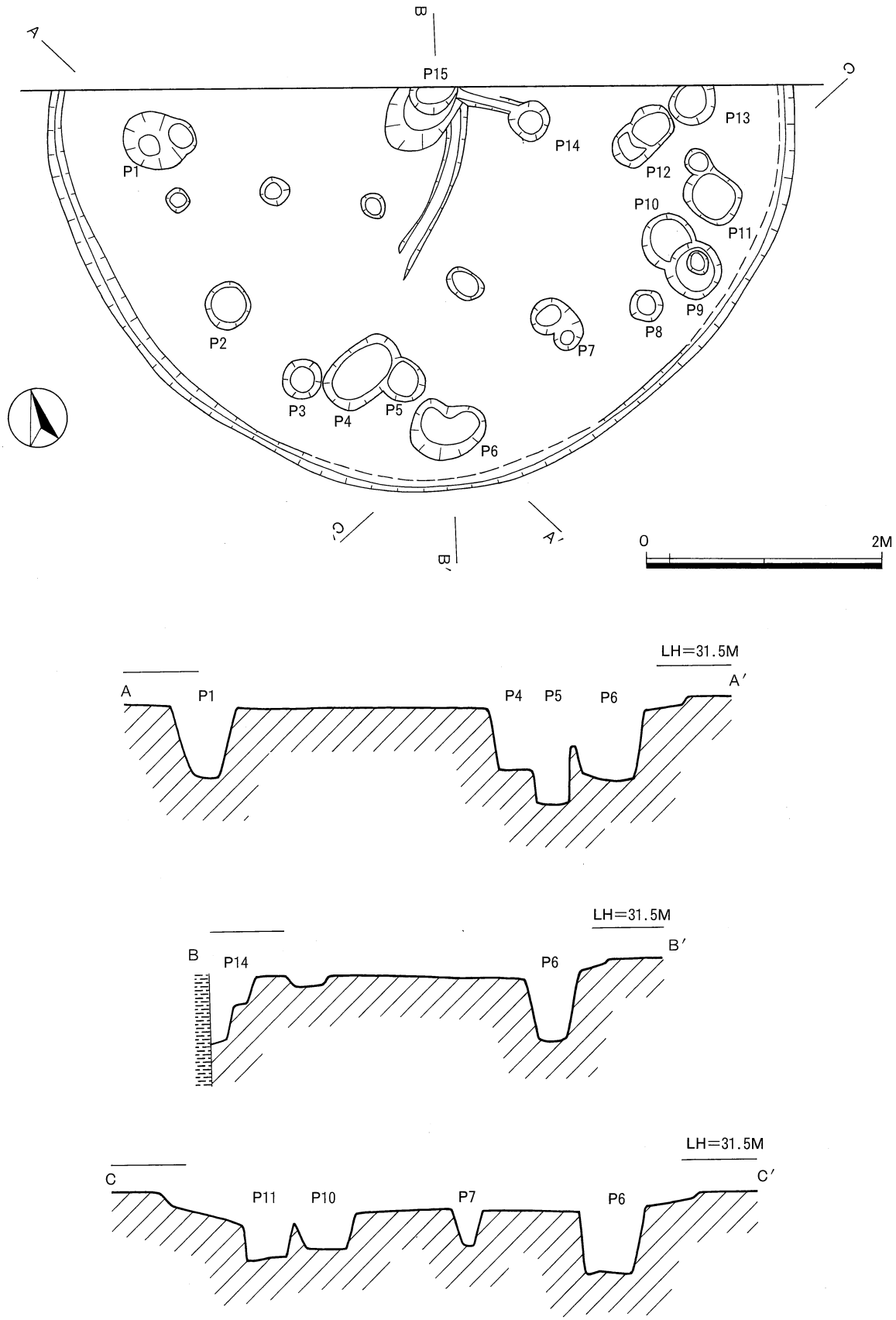
第45図　福市遺跡（大成地区）SI-04出土遺物



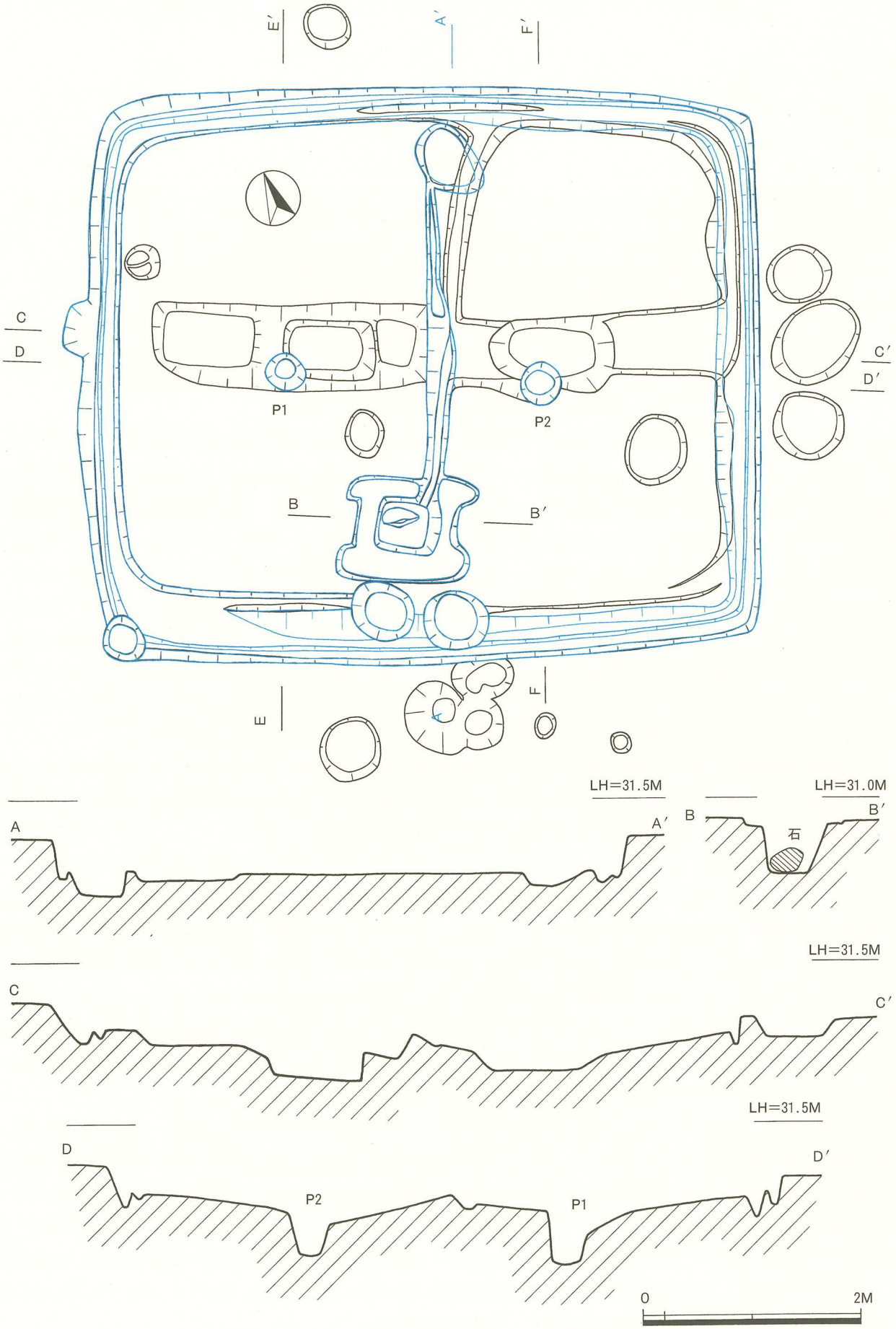
第46図　福市遺跡（大成地区）SI-05出土遺物



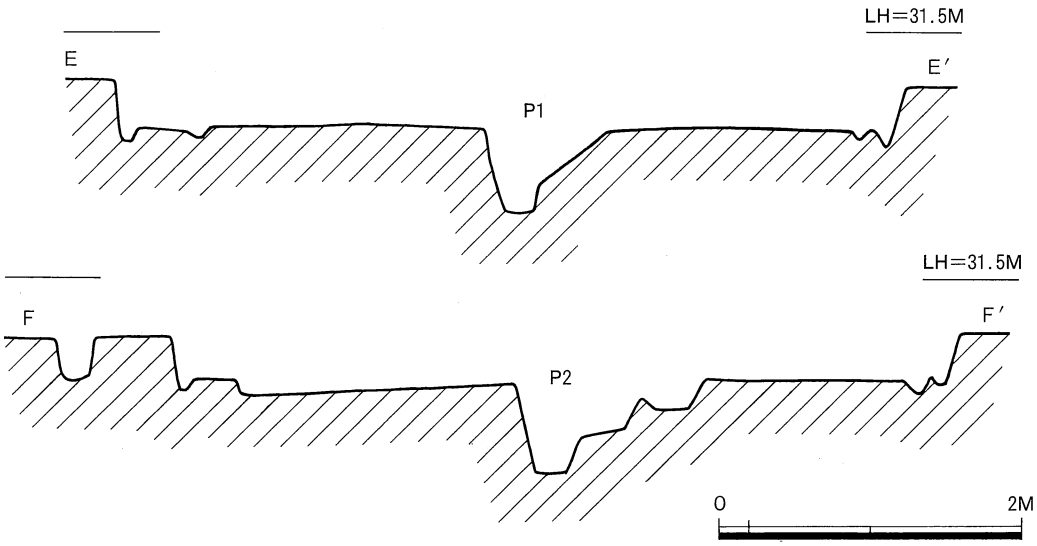
第47図　福市遺跡（大成地区）SI-06出土遺物



第48図　福市遺跡（大成地区）SI-06平面図および断面図（S＝1：50）



第49図　福市遺跡（大成地区）SI-07平面図および断面図（S＝1：50）



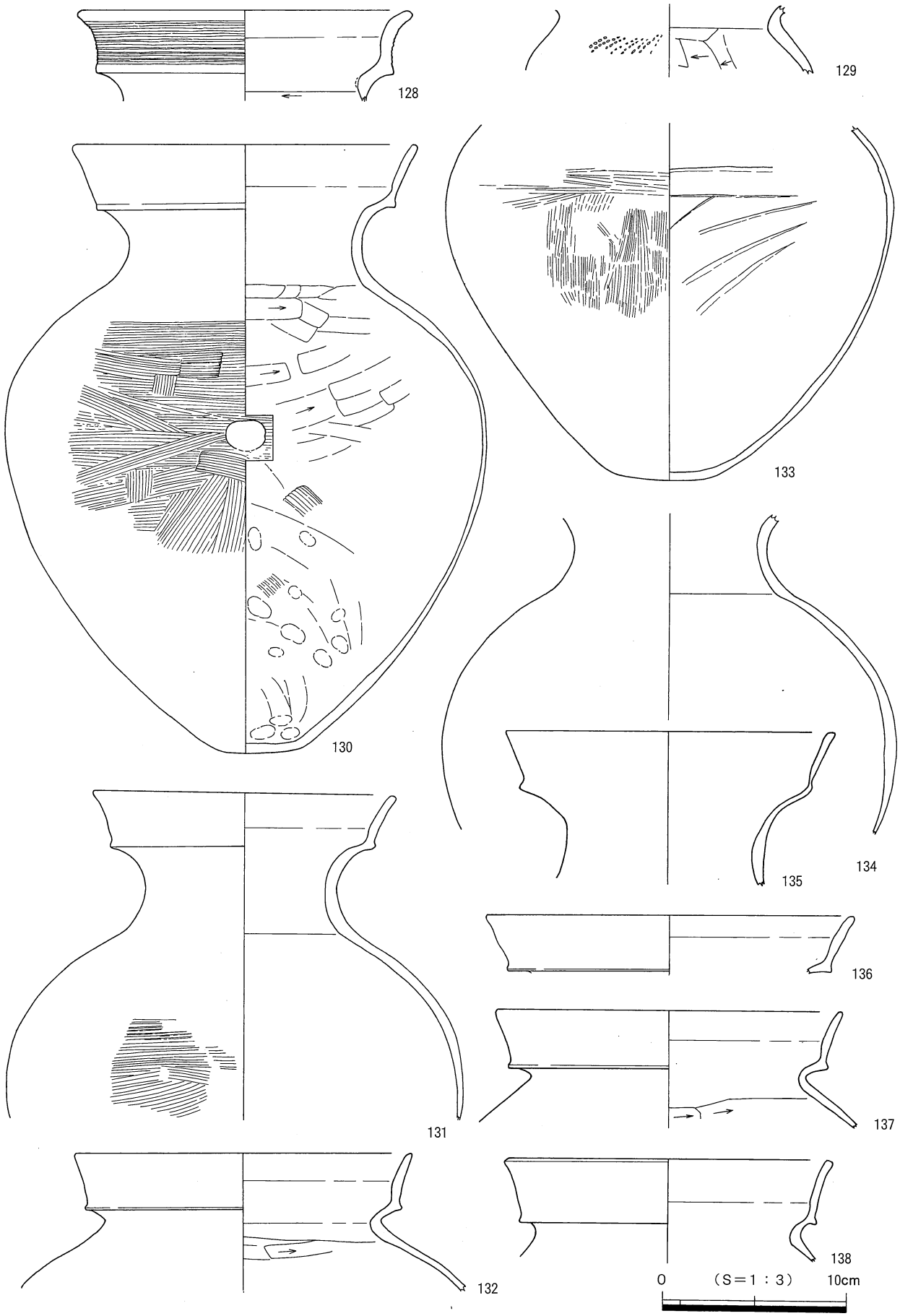
第50図　福市遺跡（大成地区）SI-07断面図

ＳＩ－０６（第48図）　今回の調査で唯一円形を呈する住居であったが、残存状況は悪く、床面の一部が残るのみであった。床径約6.1m・床面標高31.1～31.2m・検出床面積14.86㎡で、推定面積約30.0㎡である。床面には柱穴多数を検出し、うち住居に伴うものとしてはＰ１(60cm×52cm－60cm)・Ｐ２(42cm×40cm－34.2cm)・Ｐ３(36cm×34cm－27.5cm)・Ｐ４(74cm×47cm－52cm)・Ｐ５(40cm×36cm－81cm)・Ｐ６(65cm×48cm－60cm)・Ｐ７（50cm×33cm－30cm)・Ｐ８（28cm×25cm－30.5cm)・Ｐ９（50cm×46cm－48.3cm)・Ｐ10(47cm－28cm)・Ｐ11（51cm×40cm－35cm)・Ｐ12（60cm×35cm－26.8cm)・Ｐ13（38cm－56.7cm）が考えられるが、このうちＰ１－Ｐ３（2.4m)・Ｐ３－Ｐ７（2.3m)・Ｐ７－Ｐ13(2.3m)及び、Ｐ２－Ｐ６（2.2m)・Ｐ６－Ｐ８（2.1m）の組み合わせが考えられるが明確ではない。また床面中央に位置する部分に55cm×※65cm－57cmのＰ15を検出し、このピットには東方向のＰ14（37cm×35cm－36.5cm）から幅15cm・深さ10cm、南方向Ｐ４に向けて幅18cm・深さ８cmの溝が残る。その他床面には幅２０cm・深さ12cmの溝の痕跡が残る。

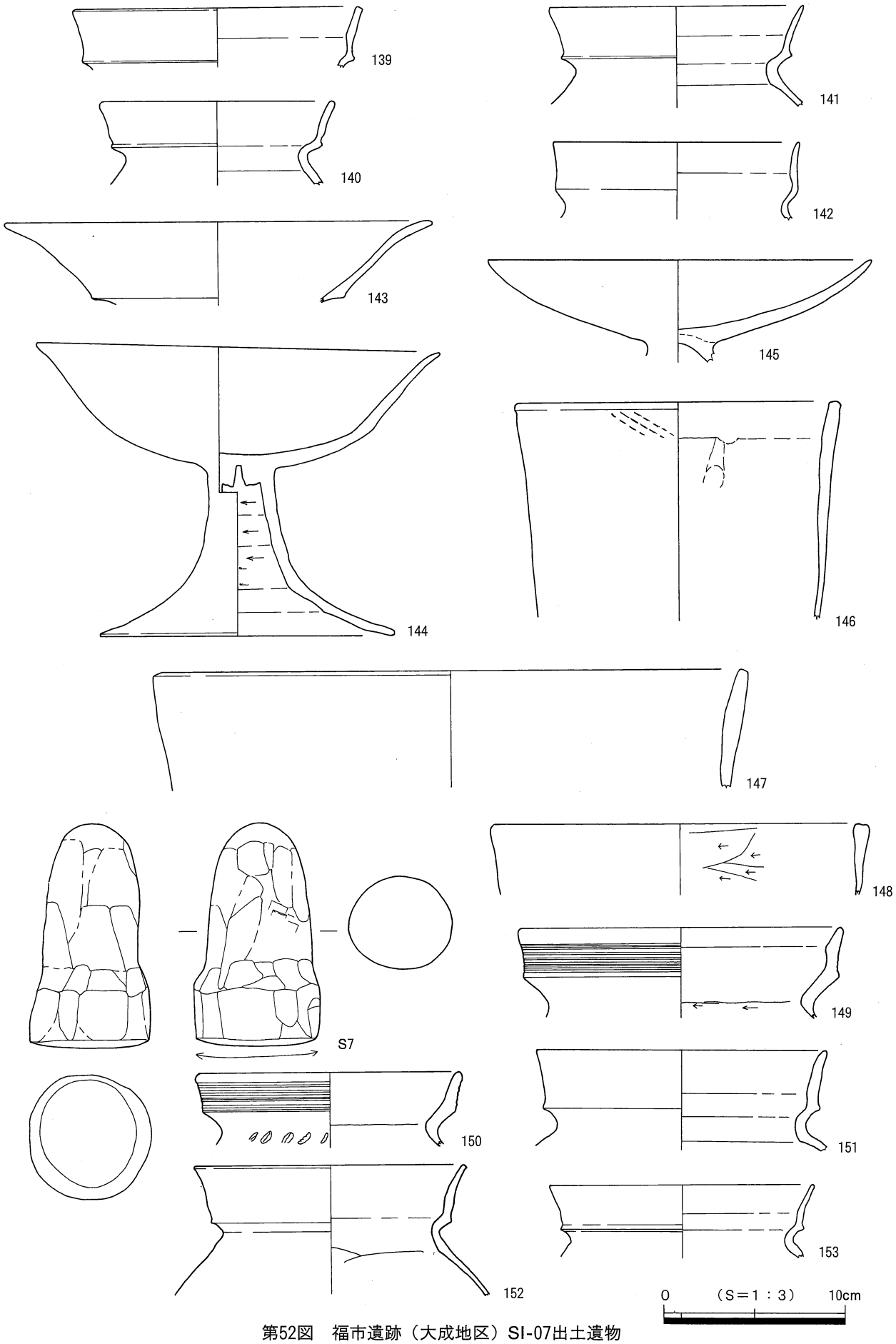
出土遺物（第47図）　弥生土器甕（No.120～124)・弥生土器器台（No.125)・土師器高坏（No.126)・坏（No.127）である。本住居は上部が消失しているため、これらの遺物が本住居に伴うものか否かは判別しにくいが、住居形態から弥生時代のものと考えられ、遺物からみると青木Ⅲ期と思われる。

ＳＩ－０７（第49・50図）　２本柱の方形住居である。床幅5.8m・奥行5.0m・最大壁高28cm・床面標高30.85m・床面積28.32㎡で、Ｎ20°Ｅ方向を向く。床面には柱穴８穴を検出。うち本住居に伴うものはＰ１（40cm×38cm－50cm)・Ｐ２（36cm×32cm－40cm）の２穴と思われ、柱穴間は2.3mである。柱穴の横にはそれぞれ土壙状の落ち込みがあり、東側は115cm×70cm－45cmでNo.133の土師器甕、西側は85cm×55cm－48cmで、No.130・No.131の土師器甕が上部から出土している。さらに中央よりやや南よりに60cm×50cm－45cmの土壙を検出した。この土壙は125cm×97cm－５cmの「H」状の窪みを施し、さらに北側からこの土壙に流れ込む幅23cm・深さ12cmの溝を検出した。また床面壁際には幅10cm・深さ８cmの溝が巡る。

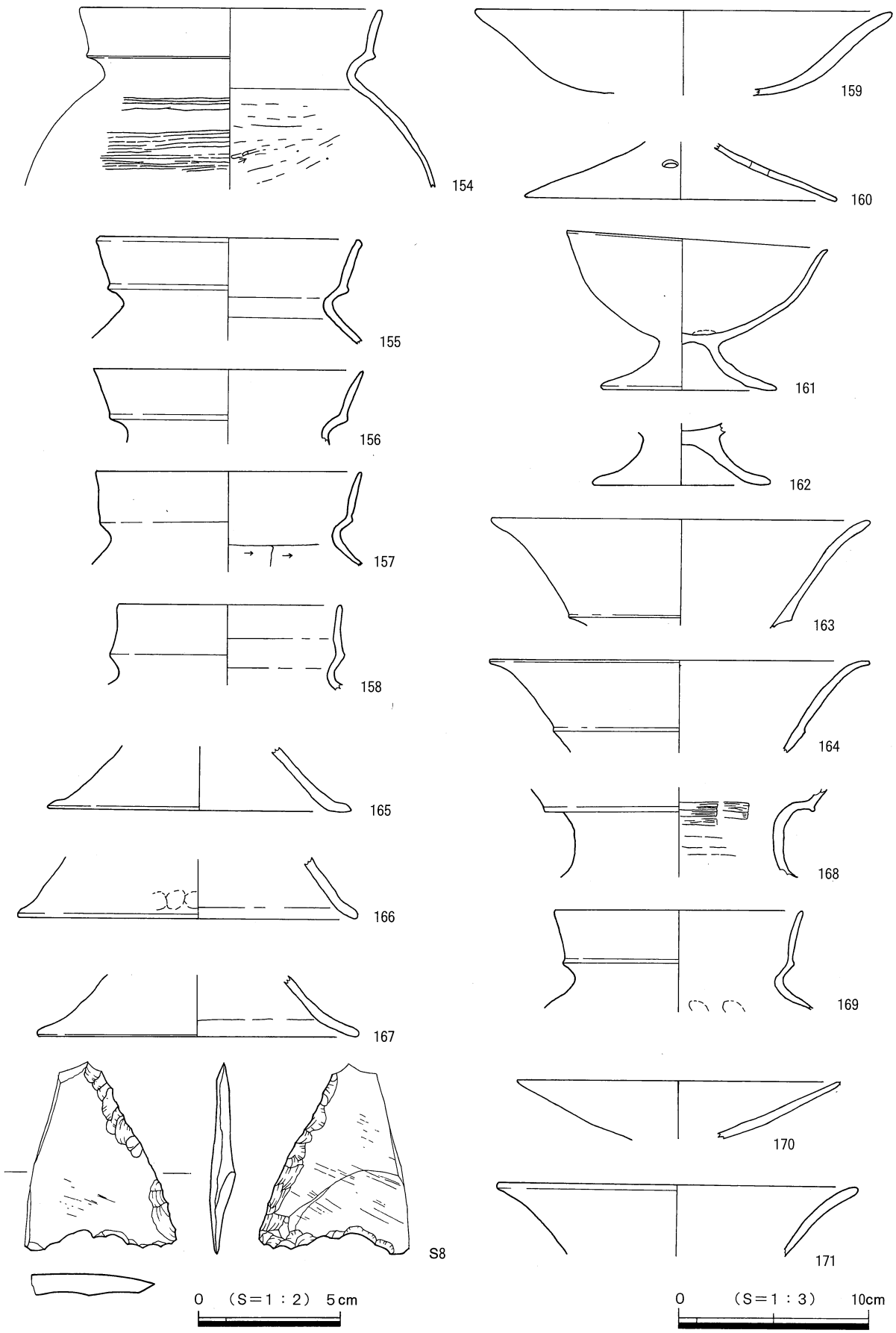
出土遺物（第51～53図）　床面から弥生土器（No.128・129)・土師器壷（No.130～135)・土師器甕（No.132・136～142)・土師器高坏（No.143・144)・土師器低脚坏（No.145)・甑（No.146・147)・石杵（Ｓ７）で、甕は複合口縁を呈する。石杵は辰砂を擂潰すためのもので全体に水銀朱が付着していた。床下から縄文土器鉢(No.148)・弥生土器甕（No.149）が出土している。その他埋土中間より弥生土器（No.150)・土師器甕（No.151～158)・土師器高坏（No.159・160)・土師器低脚坏（No.161・162)・土師器器台（No.163～167)・石鏃（Ｓ８)、上層部より土師器壷（No.168)・土師器甕（No.169)・土師器低脚坏（No.170)・土師器器台（No.171）が出土している。甕は複合口縁を呈する。遺物から見ると青木Ⅴ・Ⅵ期と思われる。



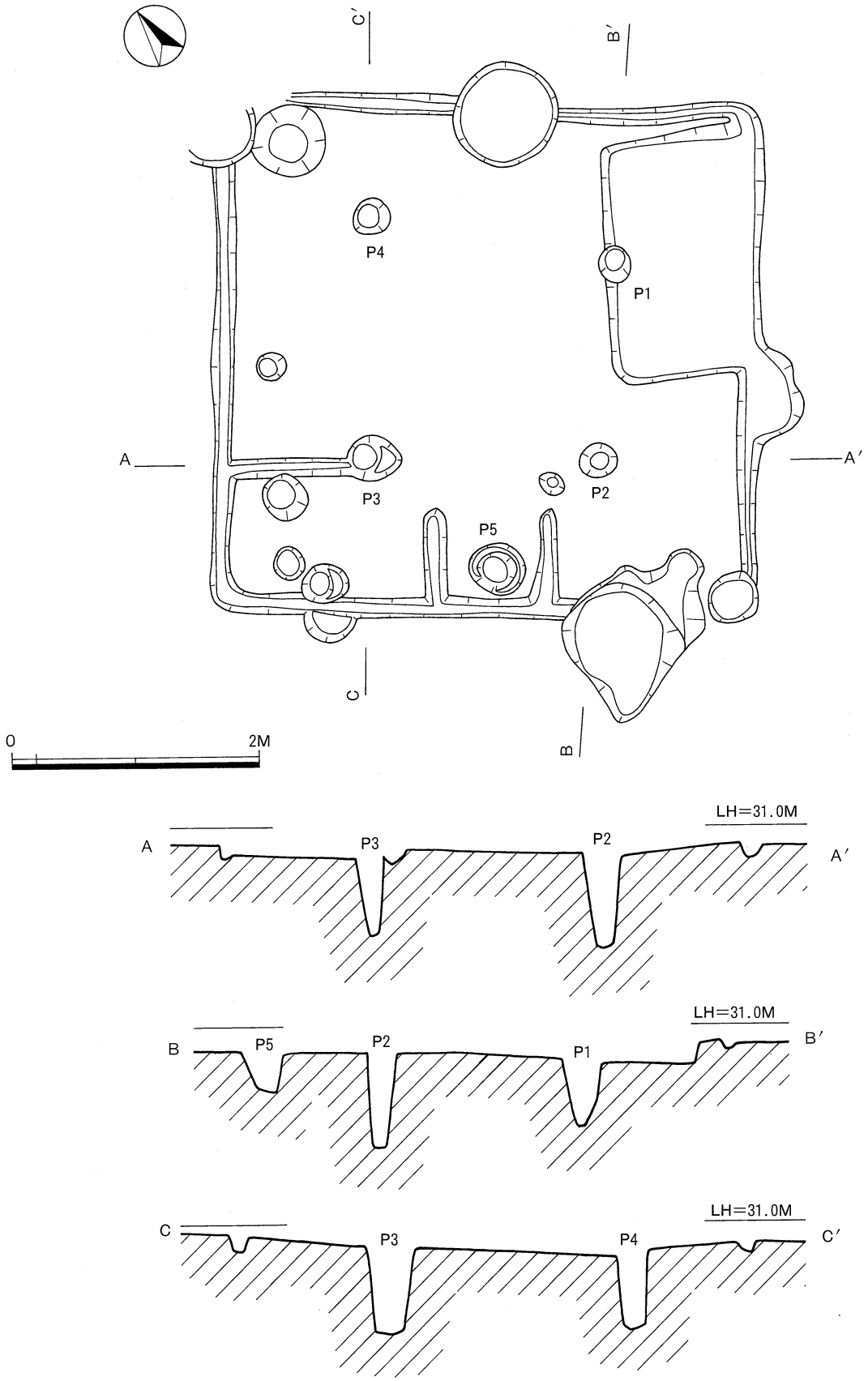
第51図　福市遺跡（大成地区）SI-07床面出土遺物



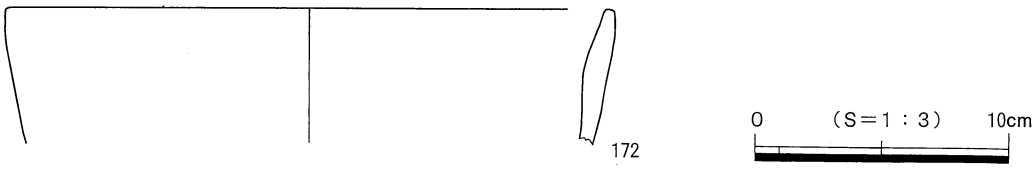
第52図　福市遺跡（大成地区）SI-07出土遺物



第53図　福市遺跡（大成地区）SI-07出土遺物



第54図　福市遺跡（大成地区）SI-08平面図および断面図（S＝1：50）



第55図　福市遺跡（大成地区）SI-08出土遺物

ＳＩ－０８（第54図）　床面のみの検出で、４本柱の方形住居である。床幅4.1m・奥行3.9m・床面標高30.8～30.9m・残存床面積15.28㎡で、N40°Ｅ方向を向く。床面には柱穴10穴を検出。うち本住居に伴うものはＰ１（32cm×26cm－52cm）・Ｐ２（32cm×30cm－78cm）・Ｐ３（44cm×38cm－61cm）・Ｐ４（28cm×28cm－64cm）の４穴と思われ、各柱穴間はＰ１－Ｐ２（1.6m）・Ｐ２－Ｐ３（1.9m）・Ｐ３－Ｐ４（2.0m）・Ｐ４－Ｐ１（2.0m）である。南側壁際には46cm×39cm－27cmの特殊ピットＰ５を検出した。このピットを挟むようにして両脇に側溝から幅18cm・深さ12～17cm・長さ80cmの溝が延びる。また床面壁際には幅18cm・深さ14cmの溝が巡る。

出土遺物（第55図）　土師器甑（No.172）等、土師器片及び弥生土器片が数点出土しているが、本住居は上部が消失しているため、これらの遺物が本住居に伴うものか否かは判別しにくいが、住居の形態から見て、SI-02と同時期の青木Ⅷ古と思われる。

ＳＩ－０９（第31図）　ＳＩ－08の南側において、床径約８m前後の円形住居と思われる溝の一部を検出した。検出した溝の規模は幅10cm・深さ11cm・長さ約３m・床面標高31.0mで、床面と思われる部分から幾つか柱穴痕を検出したが、本住居に伴うものを断定することができなかったため、明確な形態は不明である。

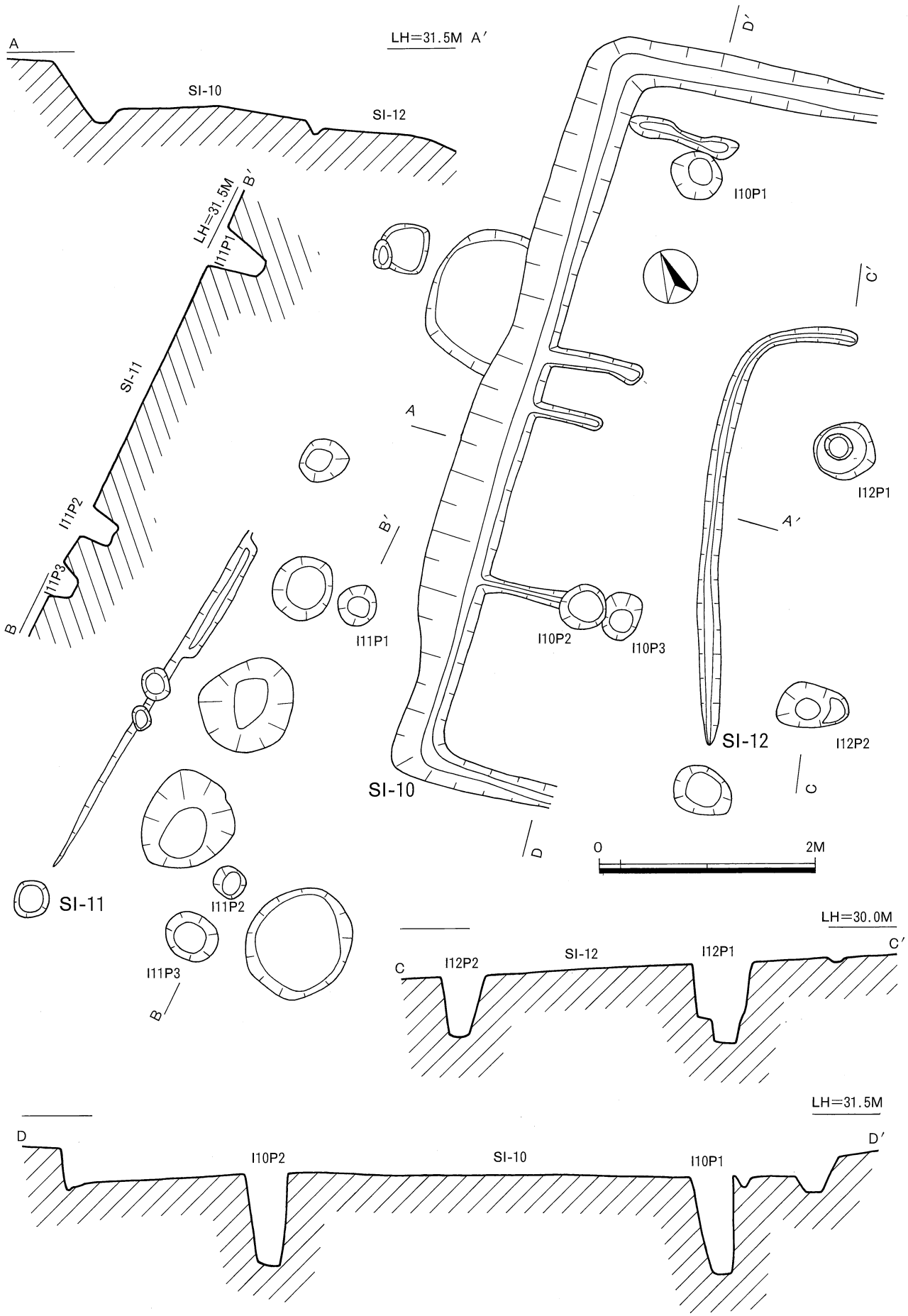
出土遺物（第59図）　溝の内側で弥生土器甕（No.195）を検出しているが、住居上部を完全に削平されていることから住居に伴う可能性は少ない。

ＳＩ－１０（第56図）　４本柱の方形住居で床幅6.6m・残存奥行2.2m・最大壁高45cm・床面標高29.9～30.0m・残存床面積11.21㎡で、N40°Ｅ方向を向く。床面には柱穴３穴を検出。うち本住居に伴うものはＰ１（50cm×46cm－90cm）・Ｐ２（44cm×42cm－88cm）で、Ｐ３（44cm×34cm－72cm）は、補助柱の可能性もある。柱穴間はＰ１－Ｐ２（4.2cm）である。また床面壁際には幅14cm・深さ15cmの溝が巡る。

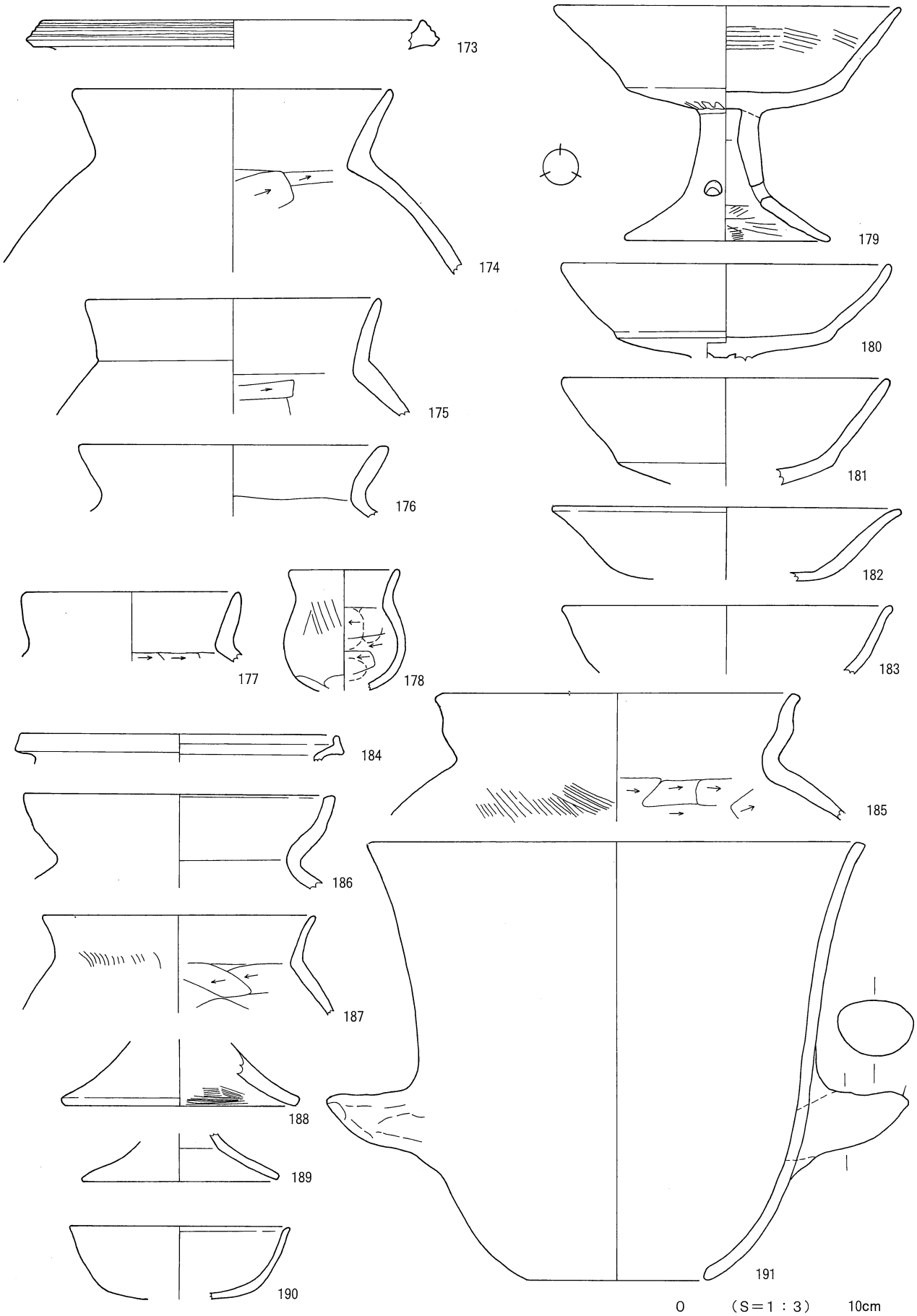
出土遺物（第57図）　弥生土器甕（No.173）・土師器甕（No.174～177）・土師器小型壷（No.178）・土師器高坏（No.179・183）で、甕は「くの字」を呈する。その他埋土中より、弥生土器甕（No.184）・土師器甕（No.185～187）・土師器高坏（No.188・189）・土師器坏（No.190）・土師器甑（No.191）が出土している。土師器甕No.185・186は退化口縁、No.174～177・187は「くの字」口縁をそれぞれ呈する。青木Ⅸ新と思われる。

ＳＩ－１１（第56図）　溝の痕跡の一部とそれに伴うと思われる柱穴を検出したため住居跡とした。溝は幅20cm・長さ3.6mとわずかな痕跡を検出した。床面標高30.45mで、N55°Ｅ方向を向く。床面と思われる部分にＰ１（40cm×37cm－48cm）・Ｐ２（30cm×28cm－29cm）・Ｐ３（50cm×44cm－21cm）の柱穴３穴を検出したが、本住居に伴うものを断定することはできなかった。各柱穴間はＰ１－Ｐ２（2.9m）・Ｐ１－Ｐ３（3.5m）である。時期は不明である。

出土遺物（第60図）　須恵器蓋（No.219）が出土しているが、恐らくは流入遺物であろう。



第56図　福市遺跡（大成地区）SI-10・11・12平面図および断面図（S＝1：50）



第57図　福市遺跡（大成地区）SI-10出土遺物

ＳＩ－１２（第56図）　SI－10の南東側に重なって検出した４本柱の方形住居で、床面の一部を検出した。残存床幅3.8m・残存奥行0.8m・床面標高29.6～29.75m・残存床面積4.47㎡で、N30°　E方向を向く。床面には柱穴２穴を検出し、その規模はＰ１（56cm×52cm－75cm）・Ｐ２（65cm×42cm－55cm）で、柱穴間は2.5mである。また床面には溝が巡っていたと思われ、幅20cm・深さ５cmの溝がＬ字状に残る。

出土遺物　ピット内から土師器の小片が数点出土している。

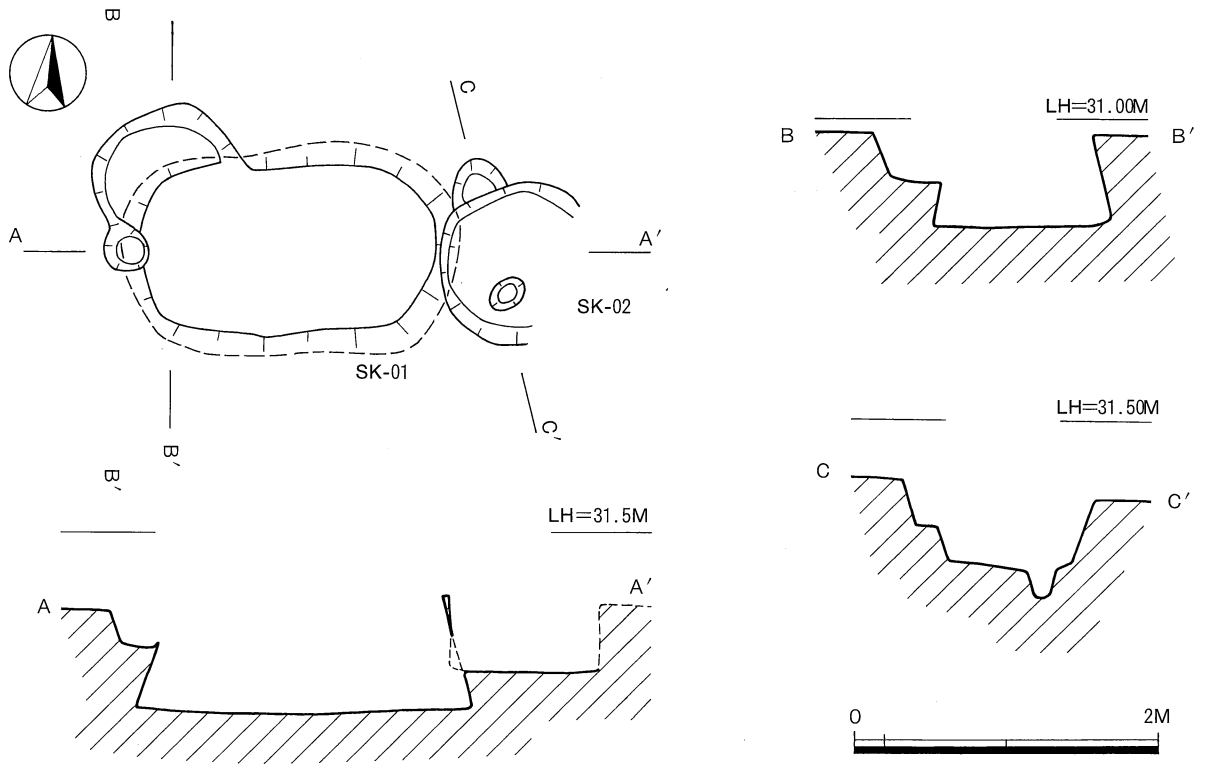
３　その他の遺構(第58図)

ＳＩ－04の東側において貯蔵穴（ＳＫ－01）及び陥し穴（ＳＫ－02）を検出した。

ＳＫ－０１　長軸193cm・短軸109cm・深さ75cmで、底部が上場より約15cm広がる225cm×136cmの袋状を呈する貯蔵穴である。

出土遺物（第59図）　弥生土器甕底部No.203、弥生土器高坏坏部No.196、脚部No.211が出土。

ＳＫ－０２　径110cm・深さ50cmで、底部には径25×20cm・深さ20cmの穴を施す陥穴である。



第58図　SK01・02平面図および断面図（Ｓ＝1/50）

４　遺構外遺物について

弥生土器（第59図）　No.192～194は壷で、No.192は頸部に貼付凸帯を施す。No.197～200は甕、No.201は恐らく甕の肩部、No.195は高坏坏部である。No.202・204は底部である。No.205は小型の壷と思われ、外面には竹管文が付く。

土師器（第59・60図）　No.206は複合口縁を呈する壷、No.207～209は複合口縁を呈する甕である。No.210は丸みのある高坏の坏部で口縁部は外方に開く。No.212は鼓形器台、No.213は甑、No.214は皿、No.215は高台付坏である。No.221は甑の把手である。

須恵器（第60図）　No.216は甕の口縁部で波状文を付す。No.217は直口壷の口縁、No.218は高坏の脚部で三方に透しが施されると思われる。No.219・220はつまみの付く坏蓋である。

石製品（第60図）　Ｓ９～Ｓ12は砥石、Ｓ13は砥石と思われるが円孔や円穴がみられる。Ｓ14は勾玉である。

Ⅳ　小　　結

今回の調査で青木稲場遺跡、福市遺跡（大成地区）併せて14棟の竪穴住居跡を確認した。弥生時代後期のものと思われる福市遺跡SI－06（SI－09）以外は古墳時代のもので、前期から中期にかけて営まれた集落跡である。削平等によってすべての住居についての遺物による時期決定はできなかったが、住居の形態・方向等と合わせてみると次のようになると思われる。古墳時代の最も古い段階で福市遺跡SI－07が営まれ始めるのが３世紀末から４世紀初めであろう。その後SI－05が造られ、これと前後してSI－01が造られたと思われる。方位からするとSI－12もこの頃だろうか。この頃青木稲場遺跡SI－03が営まれ始めるが、青木稲場遺跡SI－02がこの後どのくらいの時期差で造られたかは明確ではない。４世紀SI－03も営まれ始めたと思われ、この住居は５世紀の中頃まで比較的長期間にわたって使われていたと考えられる。そして５世紀になってSI－02・08が営まれるようになり、方位からみるとSI－04もこの時期に入るが、特殊ピットの有無がどう関係しているのかは不明である。５世紀末SI－10が営まれるようになったのを最期に、６世紀になるとこの地では集落が営まれなくなったようである。

今回特に注目したいのは、古墳時代の住居跡として最も古い福市遺跡SI－07である。この住居は４世紀中頃と思われ、主柱が２本の比較的大型の住居である。この柱穴の側には甕がほぼ完形に近い形で出土している。また、同時に床面からは朱の付着した石杵が出土している。この石杵については愛知県から以西でおもに出土している。古くは縄文時代から出土例が報告されているが、出土地が明確になってくるのは弥生時代中期からで、弥生時代では墳墓、住居跡の両方から出土している。古墳時代になると出土例は少なくなるが、特に古墳からの出土例が多く、今回のように古墳時代前期の竪穴住居からの出土は、足守川加茂Ａ遺跡（岡山県）[註1]で４点、足守川加茂Ｂ遺跡（岡山県）[註2]で１点、津寺遺跡（岡山県）[註3]１点、那珂遺跡群13次（福岡県）[註4]１点と福岡県を除くと岡山県のみとなる。また石杵の形態としては、Ｌ字状、乳棒状など単純な形が多く、今回出土したような砧状を呈したものとしては、瑞龍寺山古墳群（岐阜県）[註5]、百間川沢田遺跡[註6]で報告されている。後者は包含層からの出土であるが、形状としてはもっとも類似し、近くには住居跡も確認され、時期も古墳時代前期と本遺跡と状況が似ていると思われる。いずれにしてもかなり丁寧な仕上げが施されていることからみて大切に扱われていたことがうかがえる。一般に石杵は朱を精製するために使われるもので、実際出土した石杵にも朱が付着していた。しかし石杵に対応する石皿及び朱が使われたと思われるような朱の付着した遺物等が出土していない。唯一、青木稲場遺跡で内面に朱の付着した韓式土器が見つかっているが、この土器が包含層からの出土で正確な位置を止どめていないこと、一つの生活集団として考えられる距離ではあるが石杵が出土した位置から若干離れていることなど、これらの関係をつかむことはできない。また福市遺跡の以前の調査で朱の入っていたと思われる小型壷が確認されている以外、青木遺跡で石棺及び土器に朱が付着していることが報告されているが、この朱はベンガラであり、水銀朱の報告は特に

ない。このことにより水銀朱の使用目的が不明であること、また朱の元となる辰砂を何処から搬入してきたかということが問題となる。

また特殊ピットとして検出した方形の穴は、他の住居で見られる特殊ピットが溝によって仕切られ独立したものであるのに対して、この特殊ピットは中央を通る溝がこの穴に注がれるようになっていることから、完全に水を意識していると思われる。当然炉跡や貯蔵穴とは考えられず、辰砂の水簸作業を行うための施設であった可能性も考えられるが、穴の中に特に何の痕跡も見られなかったということは、単なる水溜めの施設であったのだろうか。さらにピットの周囲に施された方形の落ち込みについても他に類例を見ないためその性格は不明である。このような形態の住居は今まで調査されてきた青木・福市遺跡全体を見ても例は見られないが、この住居は何らかの儀式の場であったと考えられないだろうか。この住居と同時期の住居は今回の調査では他に検出されなかったこと、福市遺跡・青木遺跡全体をみてもこの時期の住居跡が少ないため、この時期の生活形態には不明な点が多いと思われる。

次に福市遺跡SI－03であるが、調査の段階で平面的には確認できなかったが、遺物及び断面で見てみると層位的に僅かに時間差が見られる。遺物がほぼ完形の状態で出土していることなどを考えると、同じ住居を規模を僅かに縮めてほとんどそのまま利用したと考えることが出来る。形態・規模の違いからみて、他の住居とは目的の異なる住居だった可能性も考えられ、その為長期間利用されていたのではないだろうか。調査の不備を改めて痛感するところで今後の調査方法を見直す必要がある。

これまでに調査された福市遺跡でもっとも近いのが隣接する尾根上にある吉塚地区であるが、尾根毎が一つの生活集団と考えた場合、今回の調査地とは別の集団であると考えられる。今回の調査では同時期に営まれたと思われる住居が限られた上、竪穴住居以外の遺構が全く検出されなかったことなど、尾根単位としての生活状況を知る上での情報が非常に少なかったため、相互関係を掴むことは出来ず、遺跡の広がりを確認したにすぎなかった。また今回の調査である青木稲場遺跡と福市遺跡（大成地区）との関係も今回の調査では明らかにすることは出来なかった。今後の周辺調査に期待するとともに青木・福市遺跡の調査結果をもう一度見直す必要があるのではないだろうか。

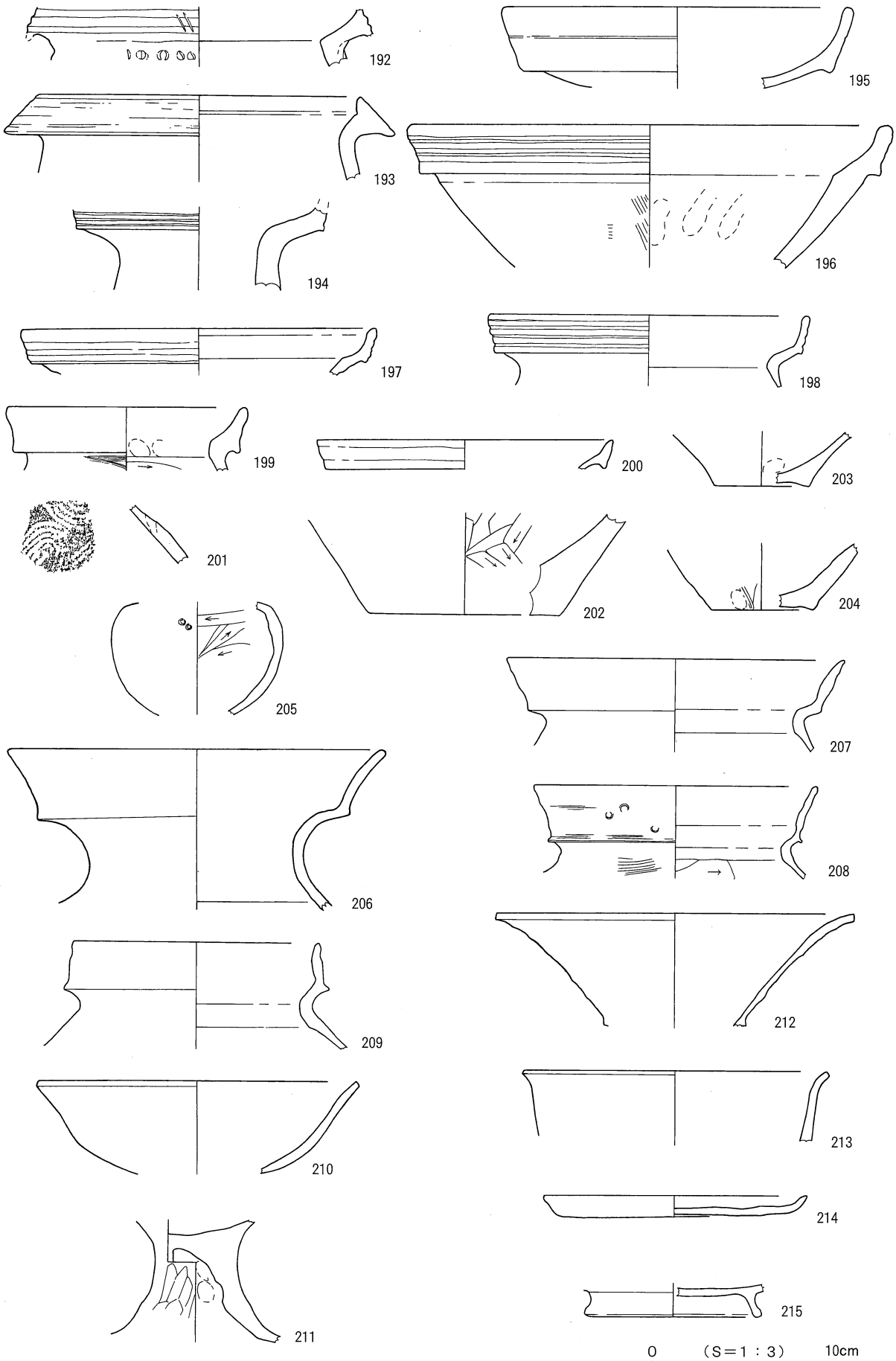
註1) 光永真一他　「足守川加茂Ａ遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告94』岡山県教育委員会　1995
註2) 島崎東他　「足守川加茂Ｂ遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告94』岡山県教育委員会　1995
註3) 井上弘他　「津寺遺跡３」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告104 』岡山県教育委員会　1996
註4) 杉山富雄他　「那珂２」『福岡市埋蔵文化財調査報告書130 』福岡市教育委員会　1990
註5) 楢崎彰一他　「瑞龍寺山古墳群」『岐阜市史』岐阜市　1979
註6) 柳瀬昭彦他　「百間川沢田遺跡４」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告119』岡山県教育委員会　1997

表 11　福市遺跡（大成地区）出土遺物観察表（その他遺物）

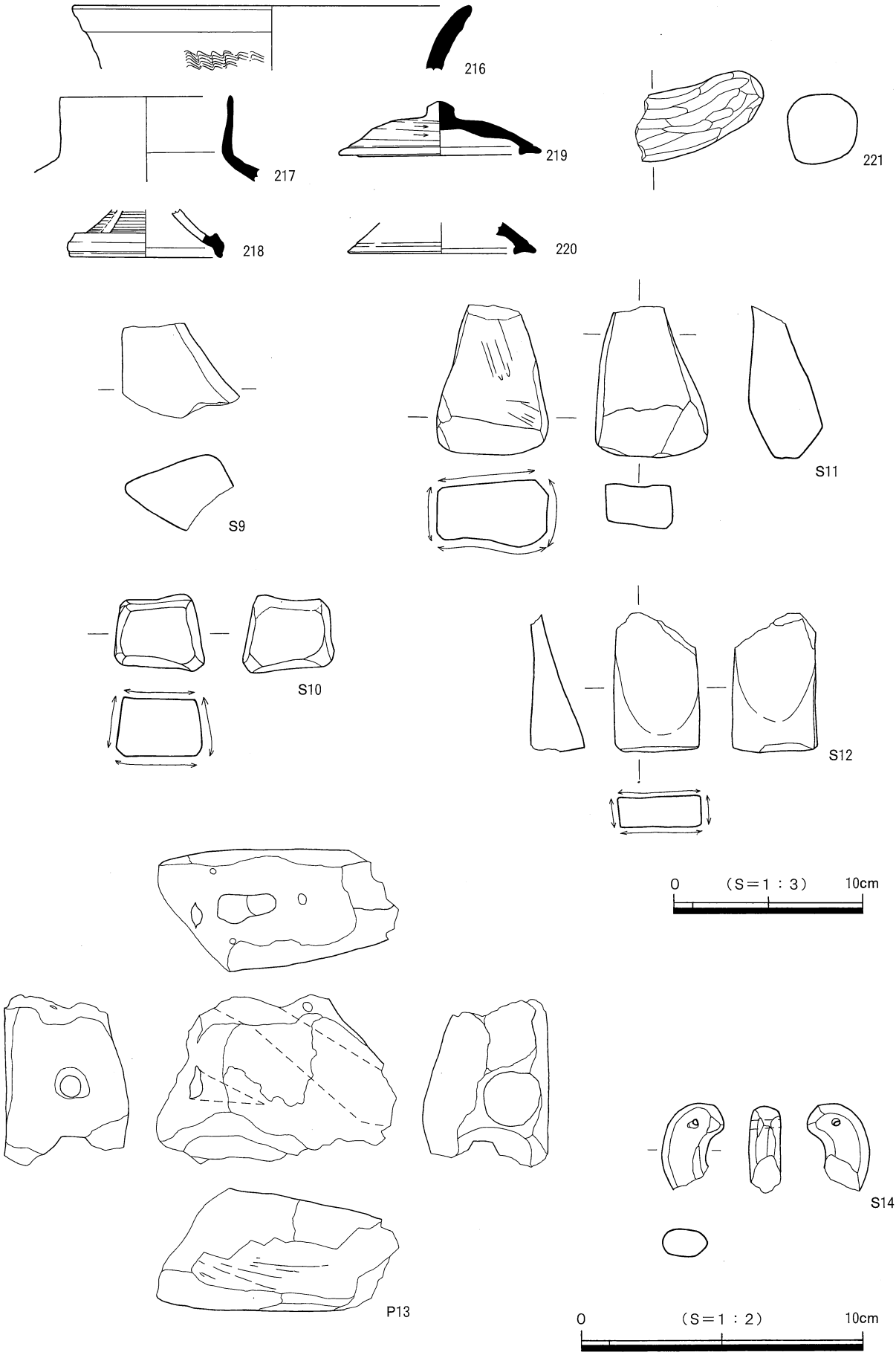
図版番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	焼成	胎土	色調	
Ｐ１	鉄釘？	7.9	1.7	2.0					SI－03
Ｐ２		2.3	0.6			良好	密	灰色	SI－04

表 12　福市遺跡（大成地区）出土遺物観察表（石器）

図版番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	備考
Ｓ１	砥石	6.2	3.2	2.4	64.1		SI－02
Ｓ２	擦り石	6.7	3.3	2.5	59		SI－02
Ｓ３	砥石	14.7	3.8	4.4	508.7		SI－03
Ｓ４	砥石	7.6	4.3	4.9	142		SI－03
Ｓ５	砥石	5.3	4.1	3.8	94.8		SI－05
Ｓ６	擦り石	7.8	4.5	4.8	216.2		SI－05
Ｓ７	石杵	12.5	5.7	7.0	727.9		SI－07
Ｓ８	石鏃	3.4	2.7	0.4	3.1	サヌカイト	SI－07
Ｓ９	砥石	5.0	6.2	4.1	113.6		SI－12
Ｓ10	砥石	4.8	4.3	3.3	105.6		SK－02
Ｓ11	砥石	8.0	5.9	4.0	223.8		SK－01
Ｓ12	砥石	7.4	4.5	2.8	115.9		SK－29
Ｓ13	砥石	4.3	3.1	2.1			SI－03
Ｓ14	勾玉	1.5	0.7	0.5	1.2		SK－



第59図　福市遺跡（大成地区）遺構外出土遺物



第60図　福市遺跡（大成地区）遺構外出土遺物

表13　福市遺跡(大成地区)出土遺物観察表

a：口径　b：器高　c：底径　d：最大径

図版番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎　土	色　調	
1	壷	a：17.9 b：11.2	壷口縁	内外面共調整不明	普通	密 3mm大の砂粒含	淡茶褐色	SI－01
2	甕	a：17.8 b：5.6	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 1.5mm大の砂粒含	褐色	SI－01
3	甕	a：16.7 b：7.5	複合口縁	内)頸部下ケズリ 他内外面共ナデ	良好	密	橙褐色	SI－01
4	甕	a：15.4 b：3.0	「くの字」口縁	内外面共ナデ	軟質	やや粗 1.5mm大の砂粒含	橙褐色	SI－01
5	甕	b：※7.8	4の胴部？	外)ハケ目 内)ケズリ	軟質	やや粗	橙褐色	SI－01
6	甕	a：30.0 b：7.3	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 4mm大の砂粒含	淡褐色	SI－02床
7	甕	a：17.1 b：5.8	複合口縁	内外面共ナデ	軟質	やや粗 1mm大の砂粒含	褐色	SI－02床
8	甕	a：13.8 b：23.9 d：19.8	複合口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密 2mm大の砂粒含	淡褐色	SI－02床
9	甕	a：17.0 b：10.4	退化口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密 1mm大の砂粒含	外)淡褐色 内)暗灰褐色	SI－02床
10	甕	a：9.8 b：5.9	小型甕口縁	外)ナデ 内)調整不明	良好	密 4mm大の砂粒含	淡褐色	SI－02床
11	壷	a：13.8 b：5.7	複合口縁	外)ナデ 内)調整不明	良好	やや粗 1mm大の砂粒含	褐色	SI－02床
12	高坏	a：9.0 b：4.0	高坏坏部	内外面共ナデ	良好	密	橙褐色	SI－02床
13	高坏	b：7.4 c：9.8	高坏坏部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	淡褐色	SI－02床
14	甕	b：2.9 c：6.6	弥生甕底部	内外面共ナデ	良好	密	外)暗褐色 内)淡褐色	SI－02床
15	甕	a：15.2 b：7.0	「くの字」口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 2mm大の砂粒含	暗橙褐色	SI－02
16	高坏	a：10.8 b：3.4	高坏坏部	内外面共調整不明	良好	密 1.5mm大の砂粒含	淡褐色	SI－02
17	高坏	b：11.6 c：9.1	高坏脚部	外)ケズリ・ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 3mm大の砂粒含	淡褐色	SI－02
18	高坏	b：8.3 c：9.4	高坏脚部	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 2mm大の砂粒含	淡褐色	SI－02
19	高坏	b：6.4 c：9.0	高坏脚部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	やや粗 3mm大の砂粒含	淡褐色	SI－02
20	高坏	b：6.1 c：11.0	高坏脚部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 1mm大の砂粒含	橙褐色	SI－02
21	甕	a：17.2 b：3.8	退化口縁	内外面共ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	淡褐色	SI－02
22	甕	a：16.8 b：11.1	退化口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	軟質	やや粗	淡褐色	SI－02
23	甕	a：18.4 b：6.9	「くの字」口縁	内)頸部下ケズリ 他内外面共ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	橙褐色	SI－02
24	甕	a：17.8 b：4.4	「くの字」口縁	内外面共ナデ	良好	密 2mm大の砂粒含	暗灰褐色	SI－02
25	甕	a：14.7 b：5.1	「くの字」口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 4mm大の砂粒含	淡褐色	SI－02
26	甕	a：13.6 b：6.4	「くの字」口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	軟質	粗 1mm大の砂粒含	外)明茶褐色 内)暗茶褐色	SI－02
27	甕	a：9.7 b：18.1 d：16.4	「くの字」口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	普通	密	褐色	SI－02
28	甕	b：15.1 d：16.1	甕胴部	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密 4mm大の砂粒含	淡褐色	SI－02
29	小壷	b：5.7 d：7.4	小型壷胴部	内外面共ナデ	普通	密	褐色	SI－02
30	高坏	a：18.6 b：5.1	高坏坏部	内外面共ナデ	良好	緻密	橙褐色	SI－02
31	高坏	a：16.4 b：5.7	高坏坏部	内外面共調整不明	良好	密 1.5mm大の砂粒含		SI－02
32	高坏	b：7.9 c：12.5	高坏脚部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 1mm大の砂粒含	橙褐色	SI－02
33	高坏	b：8.2 c：9.6	高坏脚部	外)ケズリ・ナデ 内)ケズリ	良好	密 1.5mm大の砂粒含	淡褐色 赤色顔料付着	SI－02
34	てづくね	a：3.4 b：2.0		内外面共ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	暗褐色	SI－02
35	てづくね	a：3.1 b：2.6		内外面共ナデ 内)指頭圧痕	良好	密 1mm大の砂粒含	淡褐色	SI－02
36	甕	a：17.2 b：3.3	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 微砂粒含	灰褐色	SI－03床
37	甕	a：20.4 b：3.4	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	外)暗灰褐色 内)淡灰褐色	SI－03床
38	甕	a：17.8 b：22.0 d：24.7	複合口縁	外)ナデ・ハケ目・波状文 内)ケズリ・ナデ	良好	密	褐色	SI－03床
39	甕	a：10.7 b：5.0	退化口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	淡灰褐色	SI－03床
40	甕	a：16.0 b：7.2	退化口縁	内外面共ナデ	普通	密	淡黄褐色	SI－03床
41	甕	a：16.6 b：5.8	退化口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	外)淡褐色 内)淡灰褐色	SI－03床
42	甕	a：16.0 b：16.7 d：27.3	退化口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ケズリ・ナデ	普通	密	褐色	SI－03床
43	甕	a：12.6 b：5.3	「くの字」口縁	内外面共調整不明	普通	密 2mm大の砂粒含	黒褐色	SI－03床
44	甕	a：15.0 b：13.1	「くの字」口縁	外)ハケ目 内)調整不明	普通	密 2mm大の砂粒含	褐色	SI－03床
45	甕	a：10.2 b：6.5	退化口縁	外)ハケ目後ナデ 内)ケズリ・ナデ	軟質	やや粗 1mm大の砂粒含	外)灰褐色 内)褐色	SI－03床

表14　福市遺跡(大成地区)出土遺物観察表

a：口径　b：器高　c：底径　d：最大径

図版番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎　土	色　調	
46	小壷	a：8.3 b：8.8 d：8.9	小型壷	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ・指押え	普通	密	茶褐色	SI－03床
47	器台	a：17.8 b：5.5	器台の器受部	内外面共ナデ	良好	密 2.5mm大の砂粒含	淡灰褐色	SI－03床
48	甕	a：25.0 b：4.6	「くの字」口縁	内外面共ナデ	良好	密	外)濃灰色 内)褐色	SI－03床
49	壷	a：39.0 b：6.5	大型壷	外)ナデ・刻目 内)ハケ目	良好	密	淡褐色	SI－03
50	壷	a：16.0 b：5.9	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	褐色	SI－03
51	壷	a：15.0 b：6.0	複合口縁	外)ナデ 内)調整不明	普通	密 1mm大の砂粒含	外)淡橙褐色 内)褐色	SI－03
52	甕	a：31.0 b：8.2	大型甕	内外面共ナデ	不良	密 1mm大の砂粒含	淡褐色	SI－03
53	甕	a：19.0 b：5.5	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	淡灰褐色	SI－03
54	甕	a：15.8 b：4.5	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 微砂粒含	淡褐色	SI－03
55	甕	a：17.4 b：4.5	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 2mm大の砂粒含	淡褐色	SI－03
56	甕	a：15.8 b：3.5	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 3mm大の砂粒含	暗灰褐色	SI－03
57	甕	a：15.8 b：3.3	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密	外)暗灰褐色 内)淡褐色	SI－03
58	甕	a：12.6 b：3.5	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	淡灰褐色	SI－03
59	甕	a：11.4 b：3.6	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 微砂粒含	褐色	SI－03
60	甕	a：15.7 b：4.3	退化口縁	内外面共ナデ	良好	やや粗 1.5mm大の砂粒含	外)淡橙褐色 内)淡褐色	SI－03
61	甕	a：15.0 b：3.4	退化口縁	内外面共ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	明褐色	SI－03
62	甕	a：16.0 b：21.0 d：29.5	退化口縁	外)ナデ・ハケ目・刻目 内)ケズリ・ナデ	不良	密 2mm大の砂粒含	褐色	SI－03
63	甕	b：7.8	退化口縁	内外面共調整不明	普通	密	淡黄褐色	SI－03
64	甕	a：16.6 b：3.7	「くの字」口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	軟質	やや粗 1.5mm大の砂粒含	淡灰褐色	SI－03
65	甕	a：15.0 b：6.4	「くの字」口縁	外)ハケ目 内)ハケ目・ケズリ	良好	密	淡褐色	SI－03
66	甕	a：14.8 b：3.6	「くの字」口縁	内外面共ナデ	軟質	やや粗 1mm大の砂粒含	灰褐色	SI－03
67	甕	a：16.5 b：5.2	「くの字」口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	暗褐色	SI－03
68	甕	a：11.0 b：7.4	「くの字」口縁	内外面共調整不明	普通	密	淡褐色	SI－03
69	甕	b：4.2	「くの字」口縁	外)ハケ目 内)ケズリ・ナデ	軟質	やや粗 1.5mm大の砂粒含	灰褐色	SI－03
70	小壷	a：8.6 b：4.4	小型の壷	内外面共ナデ	軟質	やや粗 5mm大の砂粒含	外)暗灰褐色 内)灰褐色	SI－03
71	高坏	b：3.2	高坏坏部	内外面共ナデ	良好	密	赤褐色	SI－03
72	高坏	a：16.9 b：5.3	高坏坏部	外)ナデ 内)調整不明	良好	密 1mm大の砂粒含	淡褐色	SI－03
73	高坏	a：19.2 b：10.4	高坏坏部	内外面共ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	淡赤褐色 坏内面赤色顔料付着	SI－03
74	高坏	a：18.4 b：5.7	高坏坏部	内外面共ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	外)橙褐色 内)暗褐色	SI－03
75	高坏	a：17.6 b：6.0	高坏坏部	内外面共調整不明	良好	密 1mm大の砂粒含	外)橙褐色 内)淡褐色	SI－03
76	高坏	a：17.8 b：6.0	高坏坏部	内外面共調整不明	良好	やや粗 1.5mm大の砂粒含	淡褐色	SI－03
77	高坏	a：17.4 b：4.7	高坏坏部	内外面共ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	淡褐色	SI－03
78	高坏	b：4.7 c：18.2	高坏脚部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	普通	密	淡褐色	SI－03
79	高坏	b：7.1 c：10.4	高坏脚部	外)ナデ・ケズリ 内)ナデ	良好	密 2mm大の砂粒含	淡褐色	SI－03
80	高坏	b：6.4 c：9.6	高坏脚部	外)調整不明 内)ケズリ	良好	密 1mm大の砂粒含	橙褐色	SI－03
81	高坏	b：7.0	高坏脚部	外)ナデ 内)ケズリ	良好	密 1mm大の砂粒含	淡褐色	SI－03
82	高坏	b：3.7	高坏脚部	内外面共ナデ	良好	密 2mm大の砂粒含	橙褐色	SI－03
83	椀	a：11.5 b：6.8		外)ナデ・ハケ目 内)ナデ	良	密	茶色	SI－03
84	甑	幅：3.4 厚み：1.5	甑把手		良好	密	淡褐色	SI－03
85	甕	a：15.0 b：4.1	退化口縁	内外面共ナデ	良好	密	褐色	SI－03
86	甕	a：8.6 b：5.2	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	軟質	やや粗 3mm大の砂粒含	淡灰褐色	SI－03
87	甕	a：18.0 b：4.8	退化口縁	内外面共ナデ	良好	密 3mm大の砂粒含	外)赤褐色 内)茶褐色	SI－03
88	甕	a：15.8 b：4.6	退化口縁	内外面共ナデ	良好	密	暗褐色	SI－03
89	甕	a：15.8 b：3.7	退化口縁	内外面共ナデ	良好	やや粗 1mm大の砂粒含	外)褐色 内)灰褐色	SI－03
90	甕	a：17.2 b：20.0	退化口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ケズリ・ナデ・指押	良好	密 2mm大の砂粒含	褐色	SI－03
91	甕	a：16.2 b：27.0 d：24.5	退化口縁	外)ナデ・ハケ目 内)調整不明	良好	密	褐色	SI－03

表15　福市遺跡(大成地区)出土遺物観察表

a：口径　b：器高　c：底径　d：最大径

図版番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎　土	色　調	
92	甕	a：14.4 b：26.7 d：22.5	退化口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ケズリ・ナデ	普通	密	黄褐色	SI－03
93	甕	a：13.6 b：7.4	退化口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密	褐色	SI－03
94	甕	a：21.0 b：5.7	退化口縁	内外面共ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	褐色	SI－03
95	甕	a：18.0 b：4.5	「くの字」口縁	内外面共ナデ	良好	密	灰褐色	SI－03
96	甕	a：15.6 b：4.9	「くの字」口縁	内外面共調整不明	普通	密	淡褐色	SI－03
97	甕	a：15.6 b：25.0 d：24.6	「くの字」口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ケズリ・ナデ	普通	密 3mm大の砂粒含	褐色	SI－03
98	甕	a：13.5 b：11.0	「くの字」口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ・ハケ目	普通	密	淡乳白褐色	SI－03
99	甕	a：15.4 b：3.3	「くの字」口縁	外)ハケ目後ナデ 内)ハケ目	良好	密 2mm大の砂粒含	暗灰褐色	SI－03
100	甕	a：10.3 b：23.1 d：21.8	「くの字」口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	普通	密	褐色	SI－03
101	甕	a：15.2 b：25.9 d：25.5	「くの字」口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ケズリ・ナデ	普通	密	褐色	SI－03
102	甕	a：10.1 b：15.3 d：15.9	「くの字」口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	普通	密	褐色	SI－03
103	甕	a：15.0 b：3.7	「くの字」口縁	内外面共ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	茶褐色	SI－03
104	小壷	a：9.3 b：9.3 d：9.6	小型壷	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	普通	密	褐色	SI－03
105	小壷	a：5.6 b：7.8 d：7.5	小型壷	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	褐色 外)赤色顔料付着	SI－03
106	小壷	a：8.9 b：3.5	小型壷口縁	内外面共ナデ	軟質	密 1mm大の砂粒含	外)褐色 内)橙褐色	SI－03
107	高坏	a：18.6 b：5.1	高坏坏部	内外面共ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	外)淡褐色 内)褐色	SI－03
108	高坏	a：18.4 b：5.2	高坏坏部	内外面共ナデ	良好	密 3mm大の砂粒含	橙褐色	SI－03
109	高坏	a：15.5 b：5.0	高坏坏部	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	SI－03
110	高坏	b：10.0 c：7.6	高坏脚部	内外面共調整不明	普通	密 3mm大の砂粒含	坏部)橙褐色 脚部)淡橙色	SI－03
111	高坏	b：6.9 c：11.0	高坏脚部	内外面共ナデ	良好	密	赤褐色	SI－03
112	甕	a：19.6 b：1.1	弥生甕口縁	内外面共ナデ共 3条の沈線	軟質	やや粗	暗褐色	SI－04
113	甕	a：18.1 b：5.5	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	外)淡褐色 内)暗灰褐色	SI－04
114	甕	a：15.6 b：5.7	複合口縁	内外面共調整不明	普通	密	褐色	SI－04
115	甕	a：14.6 b：6.3	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 1.5mm大の砂粒含	黄褐色	SI－04
116	壷	a：19.8 b：3.7	弥生壷	内外面共調整不明	軟質	やや粗	淡褐色	SI－05
117	甕	a：30.6 b：4.4	複合口縁	内外面共調整不明	良好	やや粗 1mm大の砂粒含	淡褐色	SI－05
118	器台	a：19.6 b：3.4	器台器受部	内外面共ナデ	軟質	やや粗 1mm大の砂粒含	外)淡褐色 内)褐色	SI－05
119	器台	b：6.8 c：16.0	器台脚部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 1mm大の砂粒含	淡灰褐色	SI－05
120	甕	a：15.8 b：3.9	弥生甕口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 1mm大の砂粒含	淡褐色	SI－06
121	甕	a：16.6 b：4.6	弥生甕口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 1.5mm大の砂粒含	外)橙褐色 内)淡橙褐色	SI－06
122	甕	a：14.8 b：3.0	弥生甕口縁	外)ナデ・9条沈線 内)ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	淡褐色	SI－06
123	甕	b：2.7 c：7.4	弥生底部	外)ナデ 内)ケズリ	良好	密 1mm大の砂粒含	橙褐色	SI－06
124	甕	b：2.6 c：9.6	弥生底部	外)ナデ 内)調整不明	軟質	やや粗	外)淡褐色 内)赤褐色	SI－06
125	器台	b：3.7	器台脚部	外)ナデ 内)ケズリ	良好	密 1mm大の砂粒含	淡褐色	SI－06
126	高坏	b：16.4 c：2.4	高坏脚部	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 1.5mm大の砂粒含	外)淡褐色 内)暗灰褐色	SI－06
127	坏	a：11.8 b：3.4		外)ナデ 内)ケズリ	良好	密 1mm大の砂粒含	淡褐色	SI－06
128	甕	a：17.8 b：5.0	弥生甕口縁	外)ナデ・13条沈線 内)ケズリ・ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含	外)淡褐色 内)淡灰褐色	SI－07床
129	甕	b：※3.8	弥生甕肩部	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	外)淡褐色 内)暗褐色	SI－07床
130	壷	a：18.8 b：33.7 d：26.2	複合口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ケズリ	良好	密	褐色	SI－07床
131	壷	a：16.2 b：18.0 d：25.0	複合口縁	外)ハケ目 内)ケズリ	軟質	やや粗 3.5mm大の砂粒含	淡褐色	SI－07床
132	甕	a：18.4 b：7.7	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 5mm大の砂粒含	淡褐色	SI－07床
133	壷	b：19.5 d：24.6	甕壷胴部	外)ナデ・ハケ目 内)ケズリ	良好	密	赤褐色	SI－07床

表16　福市遺跡(大成地区)　出土遺物観察表

a：口径　b：器高　c：底径　d：最大径

図版番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎　土	色　調	
134	壷	b：17.0 d：24.9	壷頸部～胴部	内外面共調整不明	普通	密	淡黄褐色	SI－07床
135	壷	a：17.7 b：8.3	複合口縁	口縁部)内外面共ナデ 他内外面共調整不明	不良	密	橙色	SI－07床
136	甕	a：20.0 b：3.1	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	淡褐色	SI－07床
137	甕	a：19.0 b：6.8	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 3㎜大の砂粒含	淡褐色	SI－07床
138	甕	a：17.2 b：5.1	複合口縁	内外面共調整不明	普通	密	茶褐色	SI－07床
139	甕	a：16.0 b：3.4	複合口縁	内外面共ナデ	良	密	外)褐色 内)暗褐色	SI－07床
140	甕	a：13.0 b：4.6	複合口縁	外)調整不明 内)ナデ	良	密	淡赤褐色	SI－07床
141	甕	a：14.0 b：5.4	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 1㎜大の砂粒含	淡褐色	SI－07床
142	甕	a：13.4 b：4.3	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	淡赤褐色	SI－07床
143	器台	a：23.4 b：4.5	器台器受部	外)調整不明 内)ナデ	軟質	やや粗 3㎜大の砂粒含	淡褐色	SI－07床
144	高坏	a：22.3 b：16.3 c：8.2		外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	褐色	SI－07床
145	低脚坏	a：21.2 b：5.7	低脚坏坏部	内外面共ナデ	良好	密 砂粒多く含	淡赤褐色	SI－07床
146	甑	a：17.6 b：12.0	甑口縁部	内外面共ナデ	良好	密	赤褐色	SI－07床
147	甑	a：35.0 b：6.6	甑口縁部	内外面共ナデ	良好	密 1㎜大の砂粒含	淡褐色	SI－07床
148	浅鉢	a：19.4 b：4.0	縄文浅鉢	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 1.5㎜大の砂粒含	暗灰褐色	SI－07床
149	甕	a：17.6 b：5.1	弥生甕口縁	外)ナデ・7条沈線 内)ケズリ・ナデ	良好	密 1㎜大の砂粒含	橙褐色	SI－07床
150	甕	a：14.4 b：4.2	弥生甕口縁	外)ナデ・6沈線・貝殻文 内)ケズリ・ナデ	良好	密 3.5㎜大の砂粒含	褐色	SI－07
151	甕	a：16.0 b：5.6	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密	暗褐色	SI－07
152	甕	a：15.0 b：7.3	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密	黄褐色	SI－07
153	甕	a：14.6 b：4.0	複合口縁	内外面共ナデ	良好	密 2㎜大の砂粒含	淡赤褐色	SI－07
154	甕	a：16.0 b：9.5	複合口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密	褐色	SI－07
155	甕	a：14.0 b：5.6	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良好	密 1㎜大の砂粒含	外)褐色 内)灰褐色	SI－07
156	甕	a：16.2 b：3.9	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	淡赤褐色	SI－07
157	甕	a：13.9 b：5.0	複合口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	軟質	やや粗 1㎜大の砂粒含	黄褐色	SI－07
158	甕	a：11.8 b：4.5	複合口縁	内外面共調整不明	良好	密	淡赤褐色	SI－07
159	高坏	a：21.6 b：4.5	高坏坏部	内外面共ナデ	軟質	やや粗 1㎜大の砂粒含	外)灰褐色 内)褐色	SI－07
160	高坏	b：3.1 c：16.3	高坏脚部	内外面共ナデ	軟質	やや粗 2.5㎜大の砂粒含	黄褐色	SI－07
161	高坏	a：13.7 b：7.9 c：9.2		内外面共ナデ	良好	密 3㎜大の砂粒含	淡褐色	SI－07
162	低脚坏	b：3.3 c：4.7	低脚坏脚部	内外面共ナデ	良好	密	淡褐色	SI－07
163	器台	a：20.0 b：5.8	器台器受部	内外面共調整不明	良好	密	褐色	SI－07
164	器台	a：20.0 b：4.9	器台器受部	内外面共ナデ	良好	密	褐色	SI－07
165	器台	a：16.0 b：3.4	器台器受部	外)調整不明 内)ナデ	良好	密	赤褐色	SI－07
166	器台	b：17.0 c：3.3	器台脚部	内外面共ナデ	良好	密	褐色	SI－07
167	器台	b：17.0 c：3.3	器台脚部	内外面共ナデ	良好	密	褐色	SI－07
168	壷	b：4.3	壷頸部 (複合口縁)	外)ナデ 内)ハケ目	良好	密	褐色	SI－07
169	甕	a：13.2 b：5.2	複合口縁	内外面共ナデ	不良	密	外)淡朱褐色 内)淡褐色	SI－07
170	高坏	b：3.2 c：17.0	高坏脚部	内外面共ナデ	良好	密 砂粒多く含	淡赤褐色	SI－07
171	器台	a：19.0 b：3.8	器台器受部	内外面共調整不明	良好	密	褐色	SI－07
172	甑	a：23.2 b：5.4	甑口縁部	内外面共ナデ	軟質	やや粗	淡褐色	SI－08
173	甕	a：20.6 b：1.6	弥生甕口縁	内外面共ナデ 3条の沈線	良好	密 微砂粒含	橙褐色	SI－10床
174	甕	a：17.0 b：10.2	「くの字」口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 3㎜大の砂粒含	淡褐色	SI－10床
175	甕	a：15.8 b：6.5	「くの字」口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 2㎜大の砂粒含	外)橙褐色 内)淡褐色	SI－10床
176	甕	a：16.4 b：4.9	「くの字」口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 2㎜大の砂粒含	淡褐色	SI－10床
177	甕	a：11.6 b：3.8	「くの字」口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	密 0.5㎜大の砂粒含	淡褐色	SI－10床
178	小型壷	a：5.8 b：6.6 d：6.6		外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密 1㎜大の砂粒含	外)淡橙褐色 内)淡褐色	SI－10床

表17　福市遺跡(大成地区)　出土遺物観察表

a：口径　b：器高　c：底径　d：最大径

図版番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎　土	色　調	
179	高坏	a：18.7 b：13.0 c：11.0	完形	外)ナデ 内)ケズリ・ハケ目	良好	密 3㎜大の砂粒含	橙褐色	SI－10床
180	高坏	a：17.8 b：5.2	高坏坏部	内外面共ナデ	良好	密	橙褐色	SI－10床
181	高坏	a：17.6 b：5.9	高坏坏部	内外面共ナデ	良好	密 1㎜大の砂粒含	橙褐色	SI－10床
182	高坏	a：18.8 b：4.1	高坏坏部	内外面共ナデ	良好	密 微砂粒含	淡褐色	SI－10床
183	高坏	a：17.6 b：3.7	高坏坏部	内外面共ナデ	良好	密	橙褐色	SI－10床
184	甕	a：17.0 b：1.4	弥生甕口縁	内外面共ナデ	良好	密 微砂粒含	淡褐色	SI－10
185	甕	a：18.9 b：7.0	退化口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ケズリ・ナデ	良好	密	淡褐色	SI－10
186	甕	a：17.6 b：5.1	退化口縁	外)ナデ 内)ケズリ・ナデ	良好	やや粗	褐色	SI－10
187	甕	a：14.7 b：5.4	「くの字」口縁	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ	良好	密 1.5㎜大の砂粒含	褐色	SI－10
188	高坏	b：3.5 c：12.6	高坏脚部	外)ナデ 内)ハケ目	良好	やや粗 1㎜大の砂粒含	外)暗灰色・淡褐色 内)暗灰色	SI－10
189	高坏	b：2.7 c：10.6	高坏脚部	外)調整不明 内)ケズリ・ナデ	良好	密 1㎜大の砂粒含	橙褐色	SI－10
190	坏	a：11.9 b：4.0		内外面共ナデ	軟質	密 2㎜大の砂粒含	外)橙褐色 内)灰褐色	SI－10
191	甑	a：26.4 b：24.0 c：9.8		内外面共調整不明	普通	密 5㎜大の砂粒含	淡褐色	SI－10
192	壷	b：4.5	弥生壷口縁	外)調整不明 内)ナデ	良	粗 1㎜大の砂粒含	赤褐色	SK－10
193	壷	a：17.0 b：4.5	弥生壷口縁	内外面共ナデ	良	緻密	淡褐色	SK－02
194	甕	b：3.2	弥生甕口縁	外)口縁部沈線・頸部突帯 内)ナデ	良	緻密	褐色	SK－01
195	甕	a：17.8 b：4.3	弥生甕口縁	内外面共ナデ	良好	密 1.5㎜大の砂粒含	橙褐色	SI－09
196	高坏	a：25.0 b：7.7	弥生高坏坏部	外)ナデ・ハケ目 内)ナデ	良	粗 1㎜大の砂粒含	赤褐色	SK－02
197	甕	a：18.6 b：2.5	弥生甕口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良	緻密	暗茶褐色	SK－02
198	甕	a：16.8 b：3.8	弥生甕口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良	やや粗	黒褐色	SK－02
199	甕	a：12.5 b：3.5	弥生甕口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良	緻密	褐色	SK－12
200	甕	a：15.6 b：1.5	弥生甕口縁	内)調整不明 外)ナデ	良	緻密	褐色	
201	甕		甕肩部	外)流水文	良	粗 0.5㎜大の砂粒含	明褐色	SK－02
202	小壷	b：6.0	小壷胴部	外)ナデ 内)ケズリ	良	緻密	褐色	P内
203	甕	b：5.5 c：10.0	弥生甕底部	外)ナデ 内)ケズリ	良	やや粗 7㎜大の砂粒含	茶褐色	SK－02
204	壷	b：3.0 c：5.0	弥生底部	内外面共ナデ	良	緻密	淡褐色	SK－02
205	甕	b：3.6 c：5.3	弥生甕底部	外)ハケ目 内)調整不明	良	粗 1㎜大の砂粒含	外)暗褐色 内)乳褐色	SK－10
206	壷	a：19.4 b：8.7	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	軟質	やや粗 1㎜大の砂粒含	橙褐色	
207	甕	a：17.8 b：4.8	複合口縁	外)頸部下ケズリ 他内外面共調整不明	良	緻密	赤褐色	P－74
208	甕	a：15.0 b：5.0	複合口縁	外)ナデ 内)ナデ・ケズリ	良	緻密	明褐色	SK－17
209	甕	a：13.0 b：5.7	複合口縁	内)調整不明 外)ナデ・ケズリ	良	緻密	淡褐色	SK－17
210	高坏	a：16.8 b：5.0	土師器器台	内外面共ナデ	良	緻密	明褐色	P－32
211	高坏	b：6.5	弥生高坏脚部	外)ミガキ 内)ナデ	良	粗 0.5㎜大の砂粒含	赤褐色	SK－02
212	器台	a：19.0 b：6.0	器台器受部	内外面共調整不明	良	緻密	明褐色	SK－17
213	甑	a：16.0 b：3.8	甑口縁部	内)調整不明 外)ナデ	良	緻密	淡褐色	SK－03
214	盤	a：13.9 b：1.2	土師器盤	内外面共ナデ	良	緻密	明褐色	
215	高台付坏	b：1.8 c：8.8	高台付坏高台部	外)ナデ 内)ナデ・刻み目	良	緻密	茶褐色	SK－17
216	甕	a：21.0 b：3.5	須恵器甕口縁	外)波状文 内)ナデ	良	密	灰褐色	
217	壷	a：9.0 b：4.6	須恵器壷口縁	内外面共ナデ	良好	密	灰色	SK－22
218	高坏	b：2.6 c：8.0	須恵器高坏脚部	外)ナデ・掻き目 内)ナデ	良好	密	淡灰色	
219	蓋	a：8.5 b：2.9 e：1.4	須恵器蓋	外)ケズリ・ナデ 内)ナデ	良好	密 1㎜大の砂粒含	青灰色	SI－11
220	坏蓋	a：7.8 b：1.6	須恵器坏蓋	内外面共ナデ	軟質	密	淡灰色	
221	甑	径：4.0 長さ：7.3	甑把手	ケズリ	良	密	赤褐色	SK－28

V 附　篇

福市遺跡出土の石杵と土器に付着の赤色顔料について

別府大学文学部
教授　本　田　光　子

福市遺跡出土の石杵１点及び土器に付着している赤色物について、その材質と状態を知るために顕微鏡による観察およびＸ線分析を行った。出土赤色顔料についての現在までの知見に寄れば、赤色物は鉱物質の顔料であり、酸化第２鉄Fe203を主成分とするベンガラと、赤色硫化水銀HgSを主成分とする主の２種が用いられている。これ以外に古代の赤色顔料としては、四三酸化鉛を主成分とする鉛丹があるが出土例はまだ確認されていない。

試　料

赤色顔料の付着残存部分は挿図の通りである。全試料とも実体顕微鏡で観察を行い、石杵については状態の良い部分から針先に着く程度の量を採取し検鏡用プレパラートを作成した。Ｘ線分析には全試料ともそのままの状態で赤色顔料付着部分を測定した。

顕微鏡観察

検鏡の目的は、赤色顔料の有無・状態・種類を判断するものである。古代の三種の赤色顔料（朱、ベンガラ、鉛丹）は特に微粒のものが混在していなければ、粒子の形状、色調等の違いから検鏡により経験的に見極めがつく。石杵は、磨面凹部に赤色顔料が残存している他、握部も含めて表面全体の凹部に散在している。赤色顔料はほぼ５μm以下の細かい朱粒子である。土器の赤彩は焼成前塗彩で赤色顔料としてはベンガラであろう。

蛍光Ｘ線分析

赤色顔料の主成分元素の検出を目的として実施したものである。石杵の測定位置は磨面の比較的残存量の多い部分である。土器は、赤色物が比較的残りの良いなるべく平らな部分で内外面を測定した。測定は堀場製作所㈱製ＭＥＳＡ－500を用い、15kV－440μＡ；50秒、50kV－20μＡ；50秒、大気の条件で行った。赤色顔料の主成分元素としては石杵から水銀と鉄、土器からは鉄だけが検出された。この他、マンガン、ストロンチウム、ルビジウムなどの元素が検出されたが、これらはみな主として石杵本体、土器胎土及び付着の土砂に由来するものと考えられる。ただし、鉄は石、土器、土砂部分にも必ず含まれるので、赤色顔料由来のものとの区別は蛍光Ｘ線強度から判断した。(№35、36のｃチャートを示す)

結　果

検鏡及びＸ線分析の結果から各試料に付着した赤色顔料の種類と状態は次のように考えられる。蛍光Ｘ線分析で水銀、検鏡で朱が認められたものは朱、蛍光Ｘ線分析で鉄のみ、検鏡でベンガラが認められたものはベンガラである。石杵は、形状と赤色顔料の種類から朱専用の棒状石杵である。土器は、いわゆる丹塗土器である。

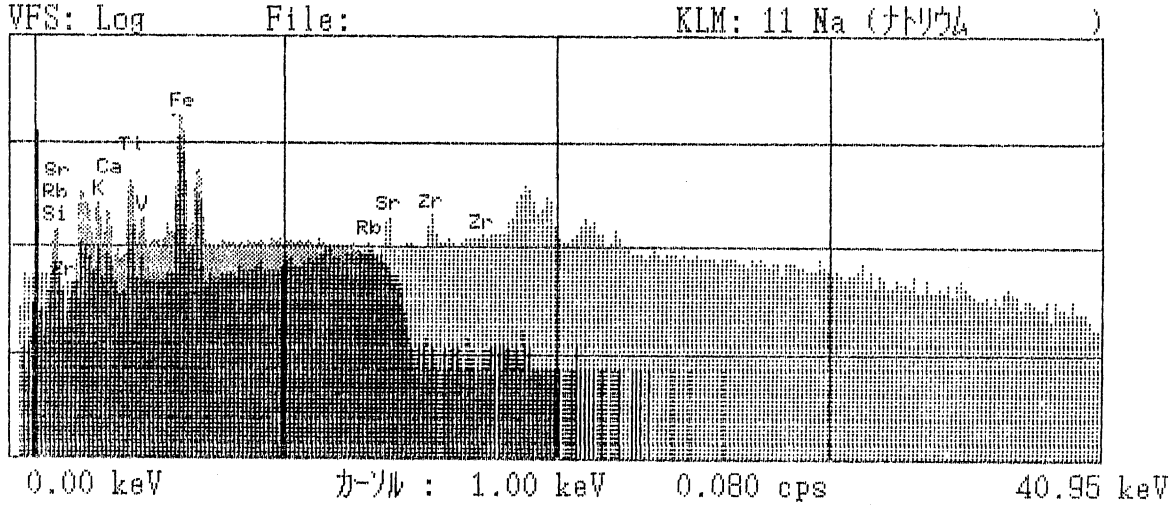
HORIBA　MESA-500　定量結果　　'99/10/27 19:54:12

コメント：fkonsk02 No.35

成分	濃度(wt%)	標準偏差	強度(cps/μA)
14 Si けい素	54.62	2.05	0.041
26 Fe 鉄	31.16	1.42	16.357
22 Ti チタン	5.40	0.40	1.051
19 K カリウム	5.01	0.37	0.102
20 Ca カルシウム	2.69	0.22	0.080
38 Sr ストロンチウム	0.50	0.05	1.102
40 Zr ジルコニウム	0.38	0.17	1.006
23 V バナジウム	0.12	0.05	0.036
37 Rb ルビジウム	0.12	0.04	0.238

HORIBA　MESA-500　スペクトル　　'99/10/27 19:54:26

コメント：fkonsk02 No.35



測定条件

	#1	#2
日付	'99/10/27	'99/10/27
時刻	19:51:31	19:51:31
電圧	15 kV	50 kV
電流	500 μA	40 μA
時間	50 秒	50 秒
DT%	17 %	22 %
試料セル	なし	なし
試料室	大気	大気

定性結果

記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
14 Si	けい素	○			
19 K	カリウム	?			
20 Ca	カルシウム	○			
22 Ti	チタン	○			
23 V	バナジウム	?			
26 Fe	鉄	○			
37 Rb	ルビジウム	?			
38 Sr	ストロンチウム	○			
40 Zr	ジルコニウム	?			

HORIBA　MESA-500　定量結果　　'99/10/27 19:04:45

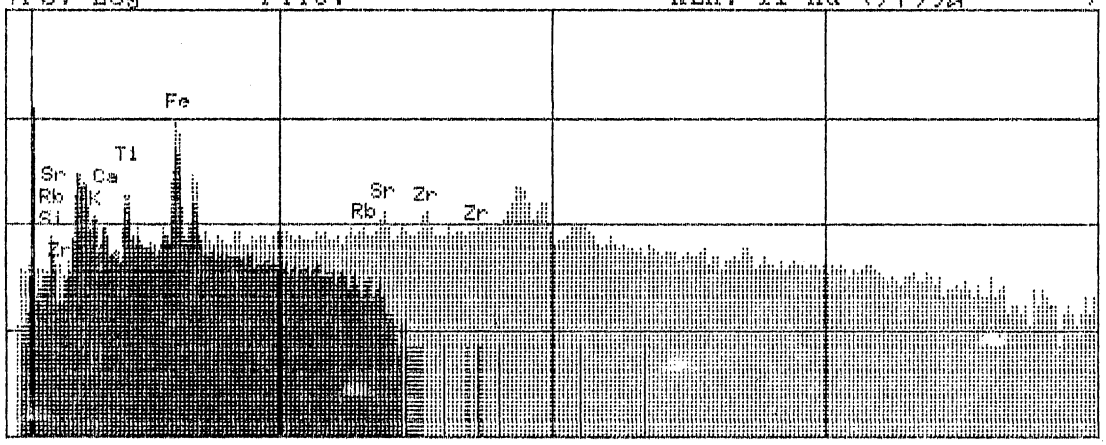
コメント：fkonsk02 No.35

成分	濃度(wt%)	標準偏差	強度(cps/μA)
14 Si けい素	61.95	3.96	0.010
26 Fe 鉄	22.16	2.29	2.426
19 K カリウム	6.61	1.23	0.027
22 Ti チタン	5.82	0.67	0.216
20 Ca カルシウム	3.11	0.64	0.018
38 Sr ストロンチウム	0.19	0.03	0.097
40 Zr ジルコニウム	0.11	0.02	0.069
37 Rb ルビジウム	0.06	0.02	0.030

HORIBA　MESA-500　スペクトル　　'99/10/27 19:05:10

コメント：fkonsk02 No.35

VFS: Log　　File:　　KLM: 11 Na (ナトリウム　　)



0.00 keV　　カーソル：1.00 keV　0.100 cps　　40.95 keV

測定条件

	# 1	# 2
日付	'99/10/27	'99/10/27
時刻	18:59:52	18:59:52
電圧	15 kV	50 kV
電流	500 μA	240 μA
時間	50 秒	50 秒
DT%	6 %	16 %
試料セル	なし	なし
試料室	大気	大気

定性結果

記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
14 Si	けい素	○			
19 K	カリウム	?			
20 Ca	カルシウム	?			
22 Ti	チタン	?			
26 Fe	鉄	○			
37 Rb	ルビジウム	?			
38 Sr	ストロンチウム	○			
40 Zr	ジルコニウム	?			

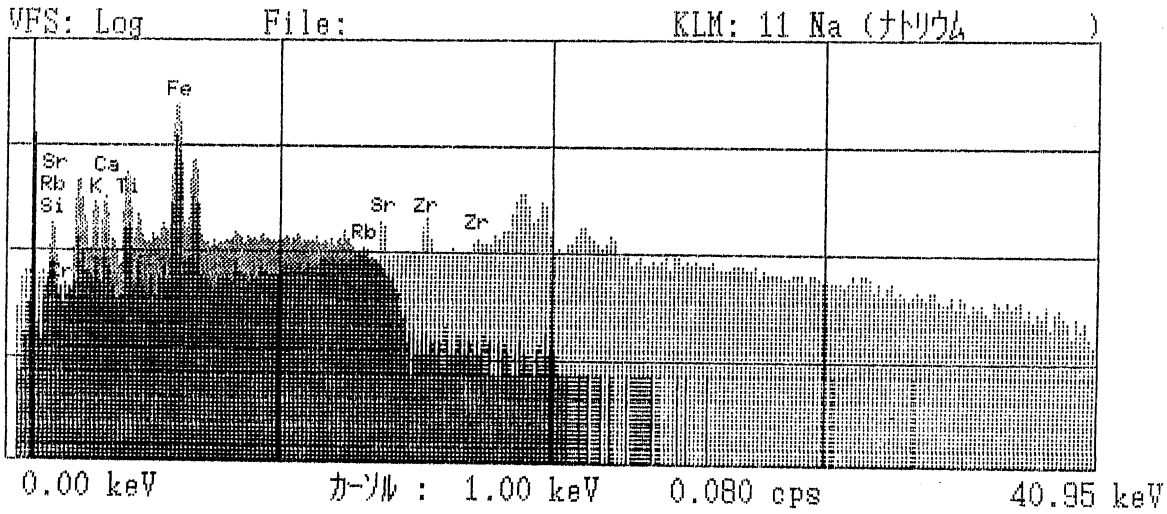
HORIBA　MESA-500　定量結果　　'99/10/27 18:33:09

コメント：fkonsk02 No.36

成分	濃度(wt%)	標準偏差	強度(cps/μA)
14 Si けい素	48.12	2.26	0.054
26 Fe 鉄	37.46	1.65	30.236
22 Ti チタン	5.16	0.39	1.624
19 K カリウム	4.41	0.30	0.147
20 Ca カルシウム	3.58	0.23	0.172
38 Sr ストロンチウム	0.60	0.06	1.872
40 Zr ジルコニウム	0.51	0.14	1.927
37 Rb ルビジウム	0.16	0.05	0.443

HORIBA　MESA-500　スペクトル　　'99/10/27 18:33:27

コメント：fkonsk02 No.36



測定条件

	# 1	# 2
日付	'99/10/27	'99/10/27
時刻	18:27:59	18:27:59
電圧	15 kV	50 kV
電流	420 μA	24 μA
時間	50 秒	50 秒
DT%	23 %	22 %
試料セル	なし	なし
試料室	大気	大気

定性結果

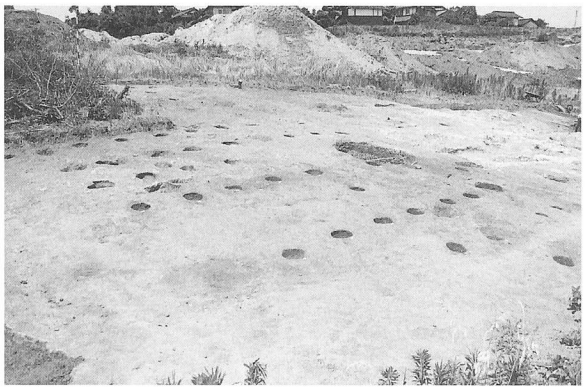
記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
14 Si	けい素	○			
19 K	カリウム	?			
20 Ca	カルシウム	○			
22 Ti	チタン	○			
26 Fe	鉄	○			
37 Rb	ルビジウム	?			
38 Sr	ストロンチウム	○			
40 Zr	ジルコニウム	?			

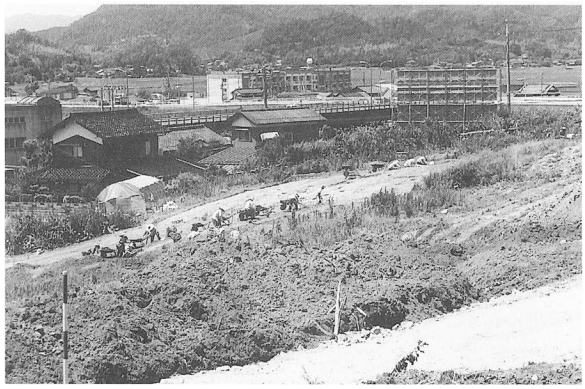
図　　版

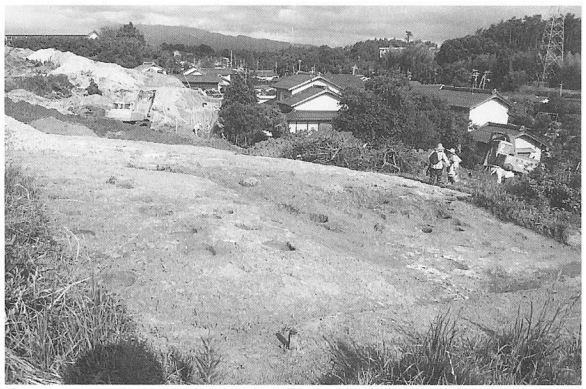
図版1（青木稲場遺跡）

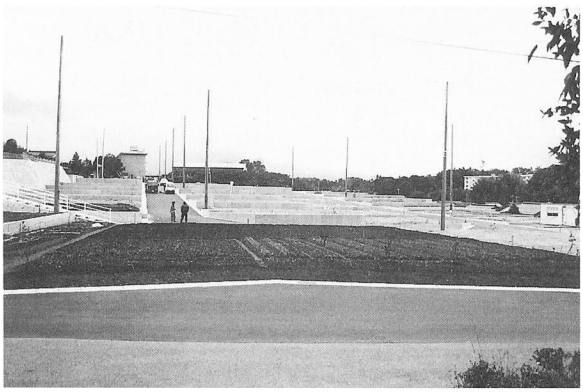
調査前風景	調査前風景（近景）
SI－02完掘（南より）	SI－02完掘（東より）
SI－03完掘	SI－03遺物出土状況
SI－03遺物出土状況	

図版2（青木稲場遺跡）



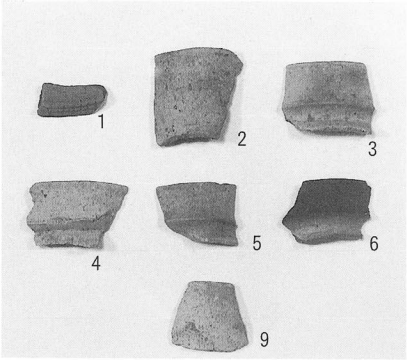


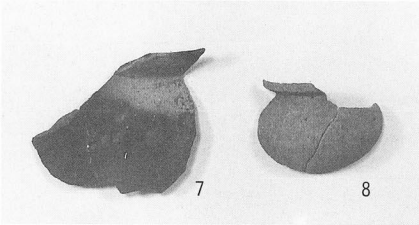


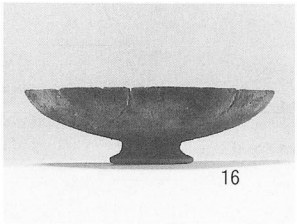


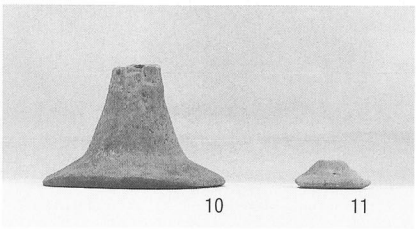
作業風景（西から）	A－２区ピット状列
遺物包含層完掘（北から）	遺物包含層完掘（南から）
作業風景（福市遺跡より）	調査終了後風景
調査終了後状況	

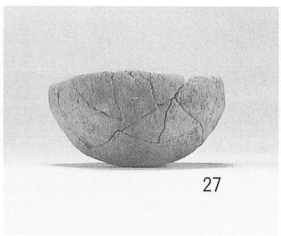
図版3（青木稲場遺跡）

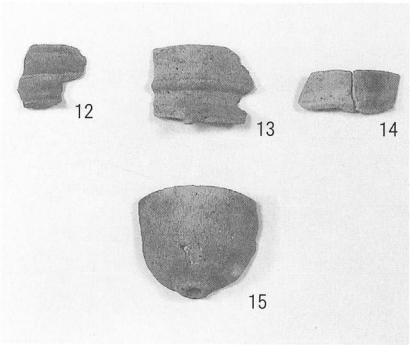

1
2
3
4
5
6
9

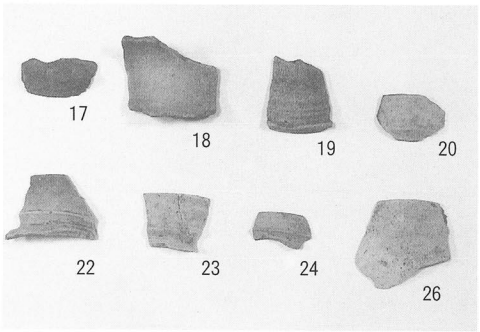

7
8

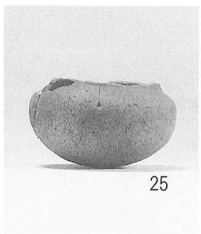

16

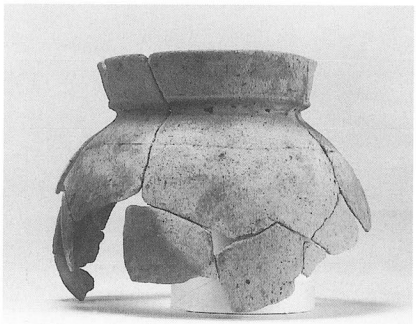

10
11

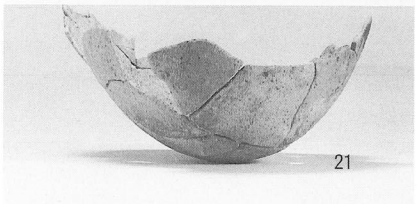

27

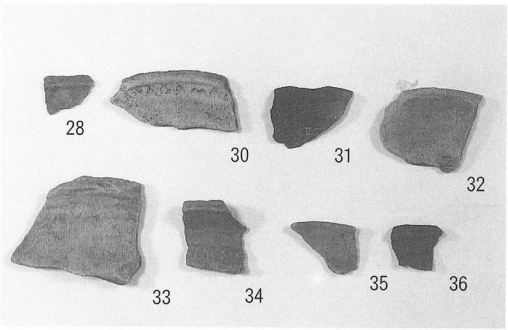

12
13
14
15


17
18
19
20
22
23
24
26


25

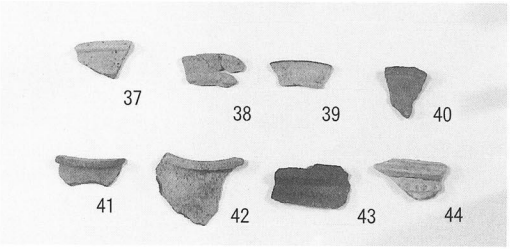



21


28
30
31
32
33
34
35
36

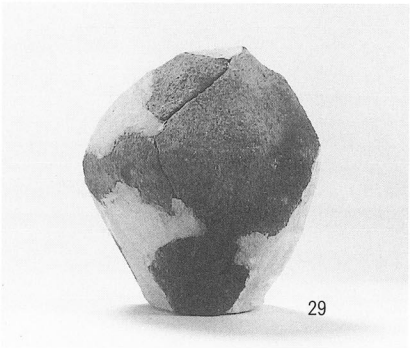
52

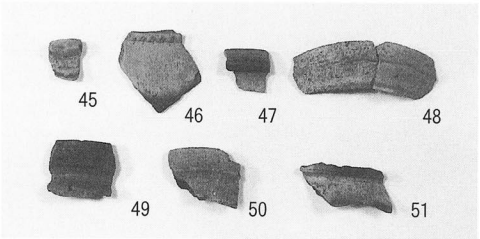
53


37
38
39
40
41
42
43
44

54

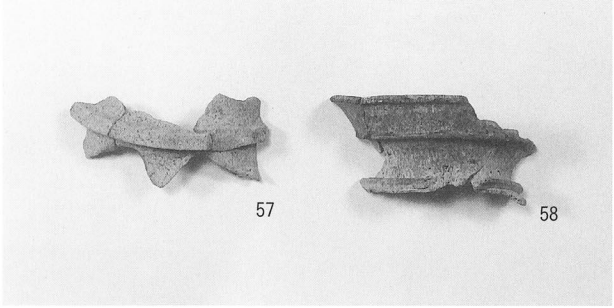
55

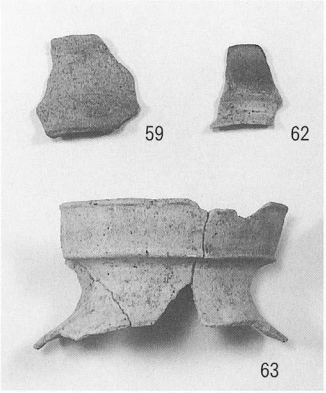

29

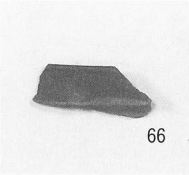

45
46
47
48
49
50
51

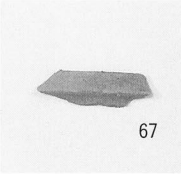
56

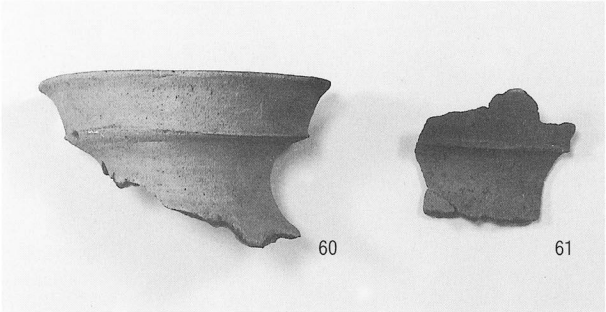
図版4（青木稲場遺跡）

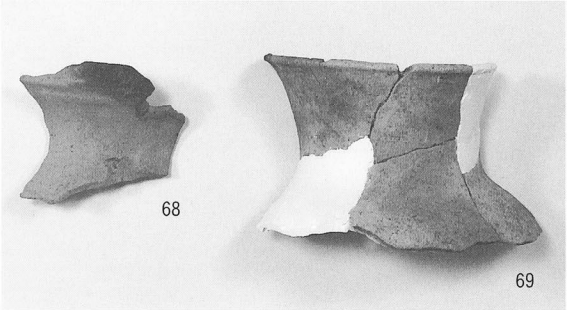

57
58

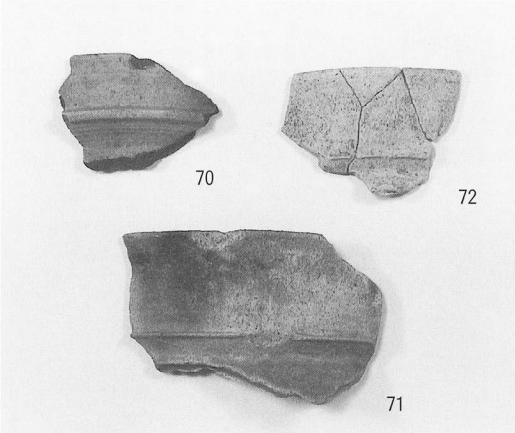

59
62
63

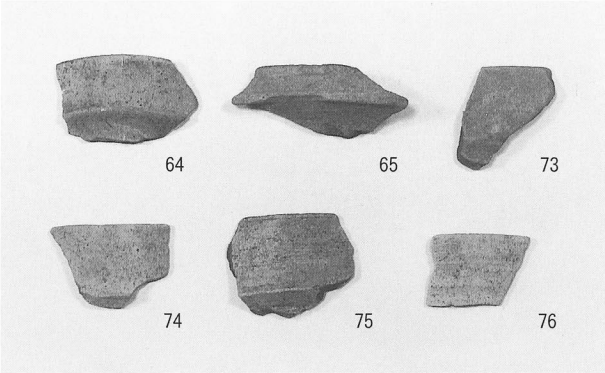

66

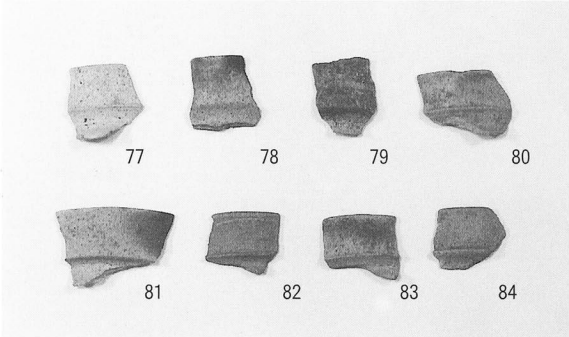

67

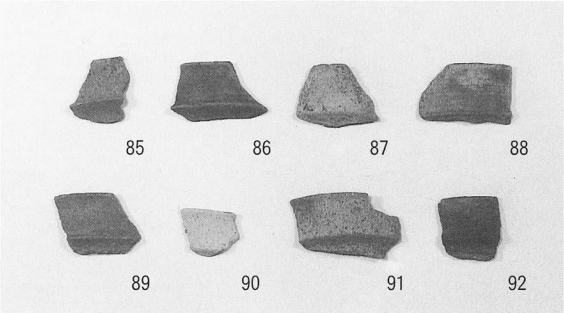

60
61

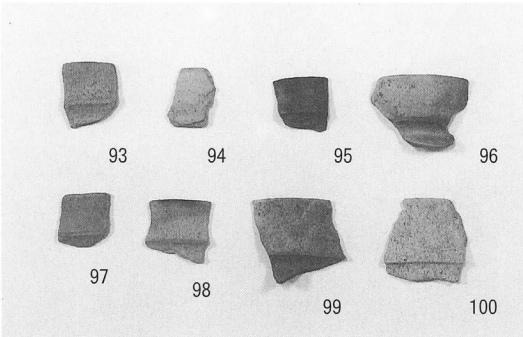

68
69

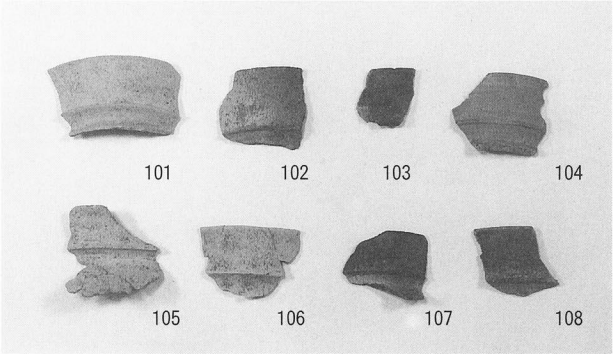

70
72
71

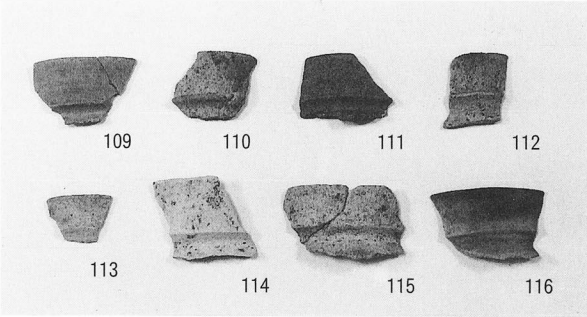

64
65
73
74
75
76

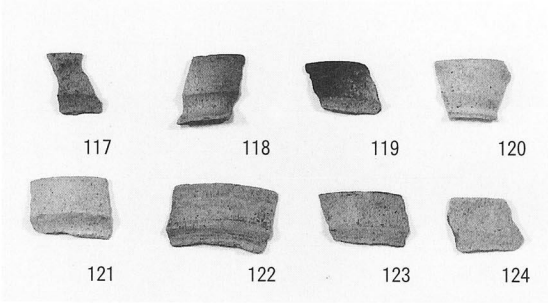

77
78
79
80
81
82
83
84

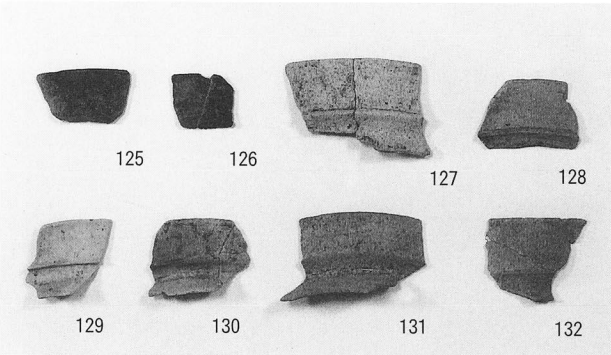

85
86
87
88
89
90
91
92

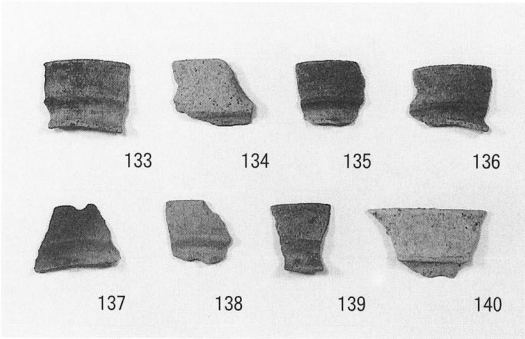

93
94
95
96
97
98
99
100

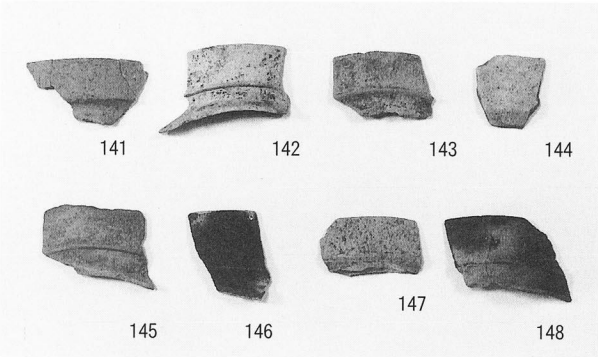

101
102
103
104
105
106
107
108

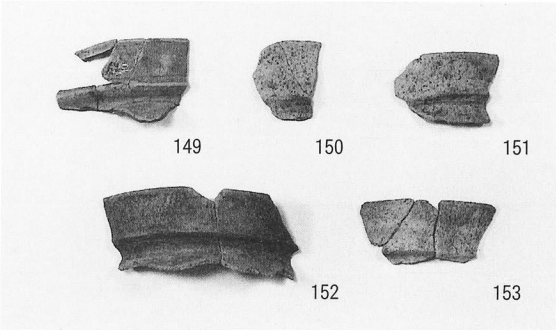

109
110
111
112
113
114
115
116

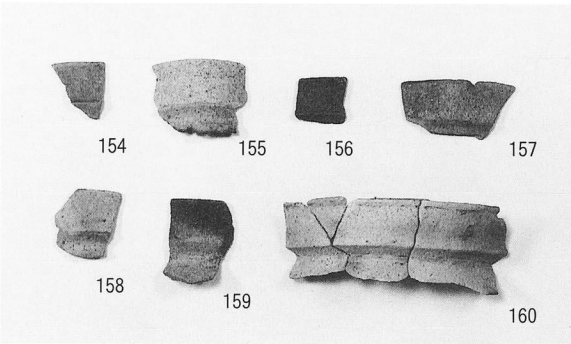

117
118
119
120
121
122
123
124

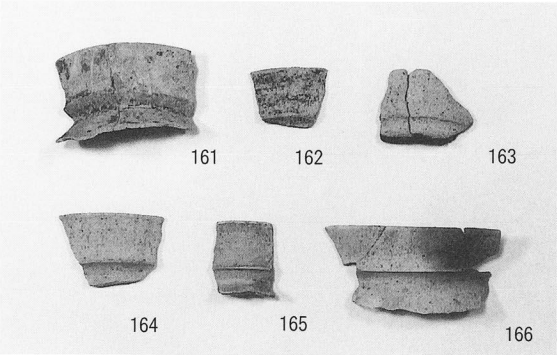

125
126
127
128
129
130
131
132

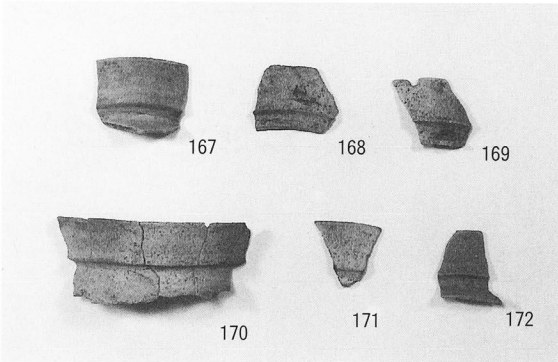

133
134
135
136
137
138
139
140

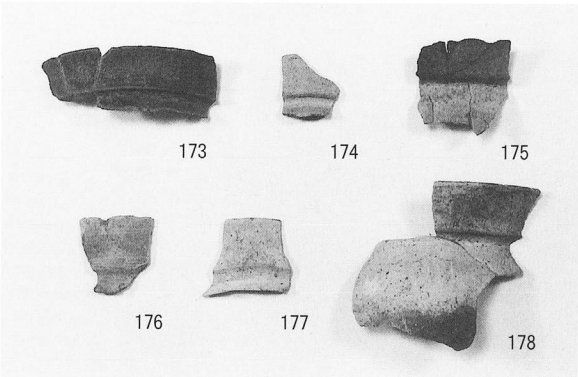

141
142
143
144
145
146
147
148


149
150
151
152
153

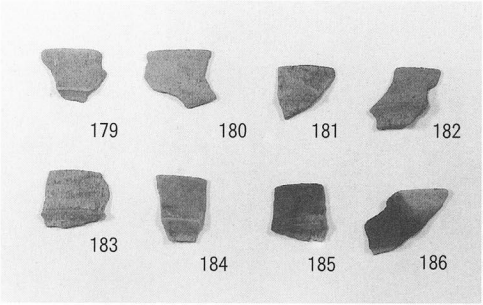

154
155
156
157
158
159
160

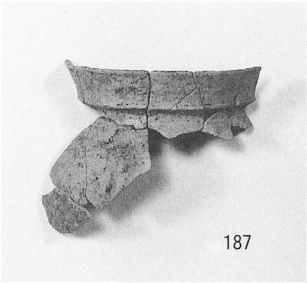

161
162
163
164
165
166


167
168
169
170
171
172

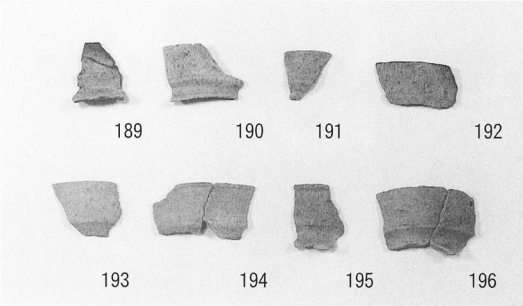

173
174
175
176
177
178

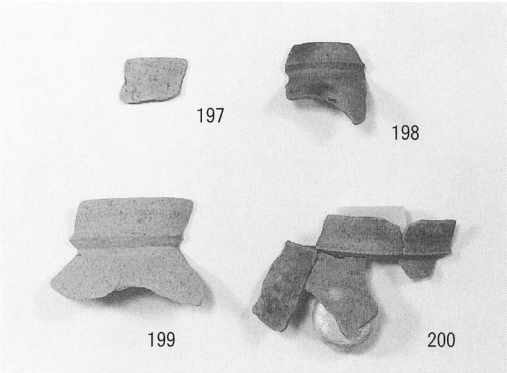
図版6（青木稲場遺跡）

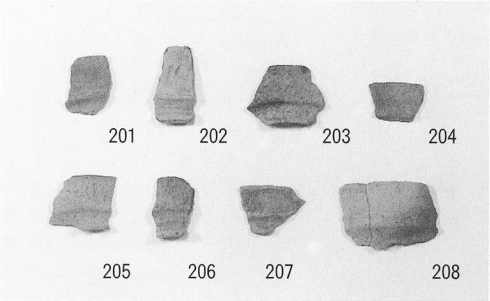

179
180
181
182
183
184
185
186

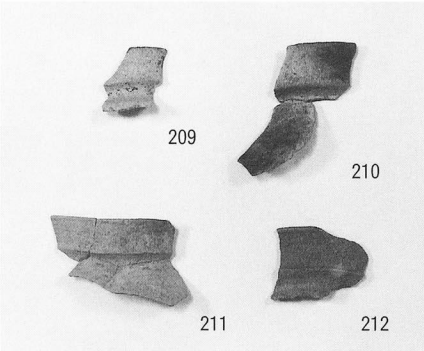

187

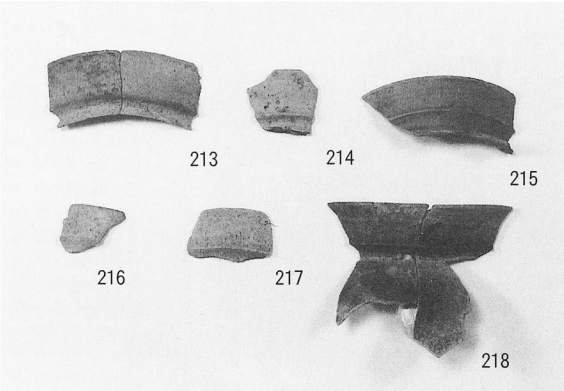
188

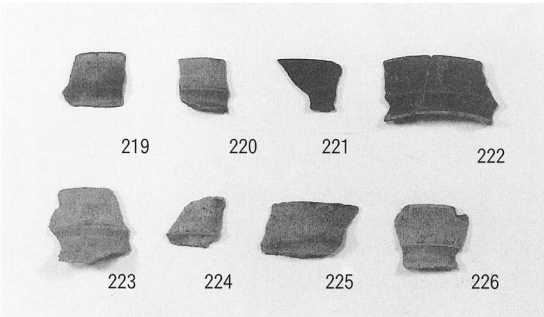

189
190
191
192
193
194
195
196

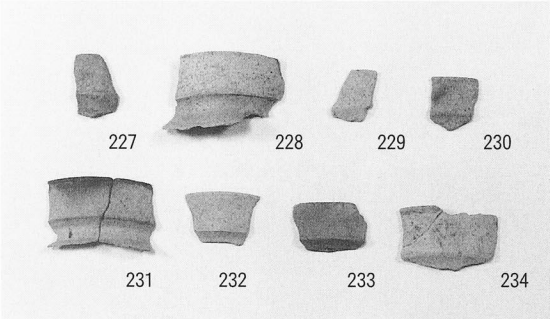

197
198
199
200

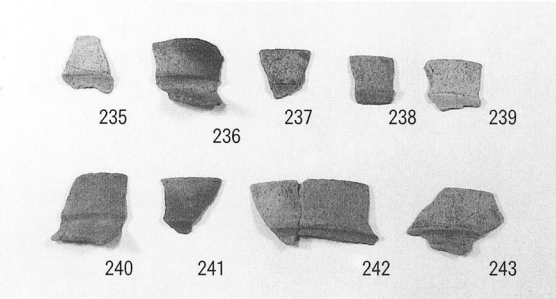

201
202
203
204
205
206
207
208

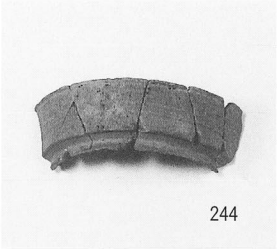

209
210
211
212

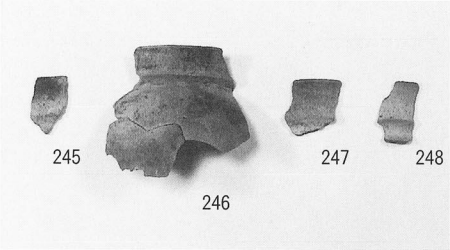

213
214
215
216
217
218

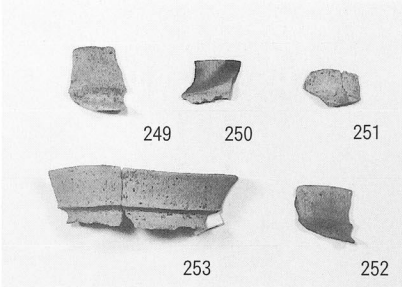

219
220
221
222
223
224
225
226

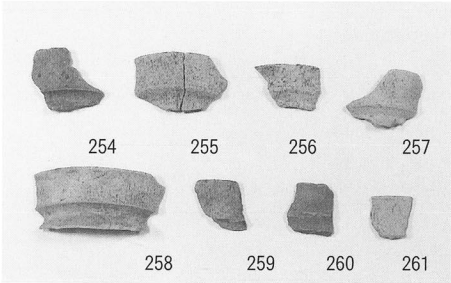

227
228
229
230
231
232
233
234

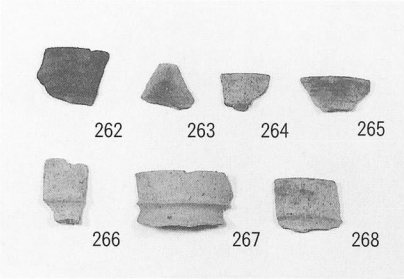

235
236
237
238
239
240
241
242
243

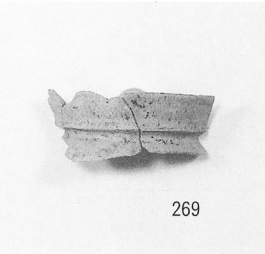

244

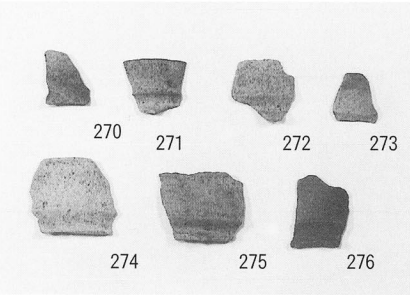

245
246
247
248

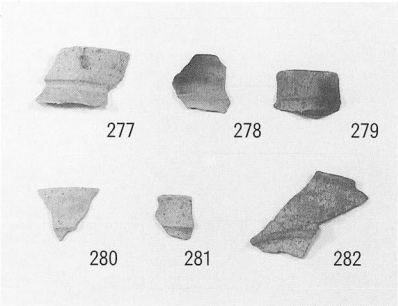

249
250
251
253
252

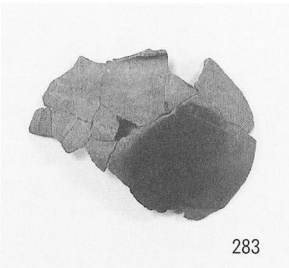

254
255
256
257
258
259
260
261

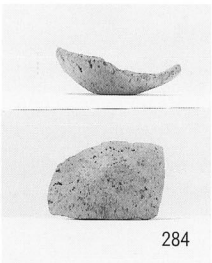

262
263
264
265
266
267
268

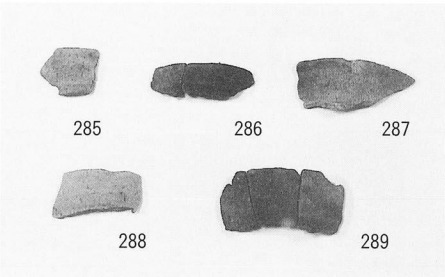

269

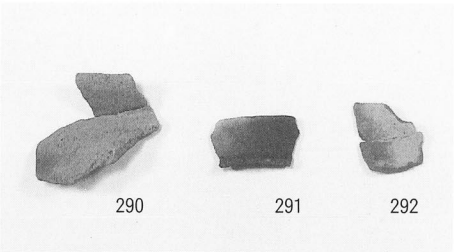

270
271
272
273
274
275
276

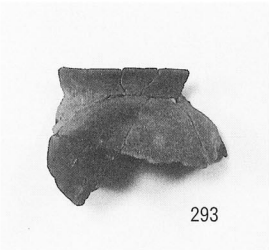

277
278
279
280
281
282

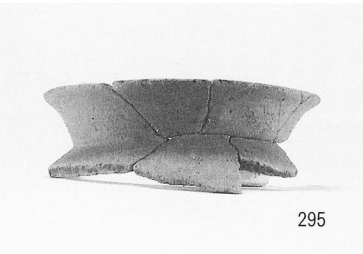

283

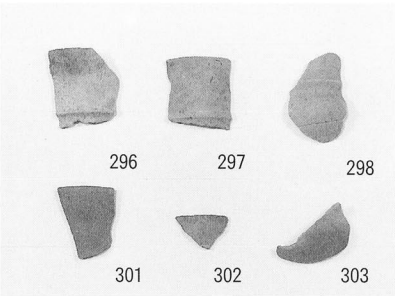

284

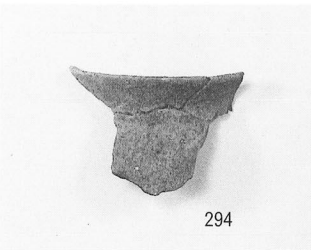

285
286
287
288
289

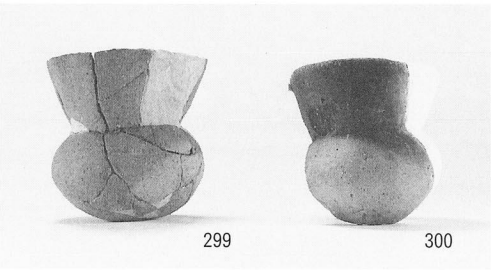

290
291
292

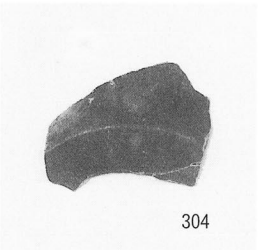

293


295

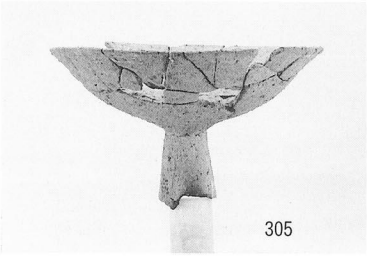

296
297
298
301
302
303

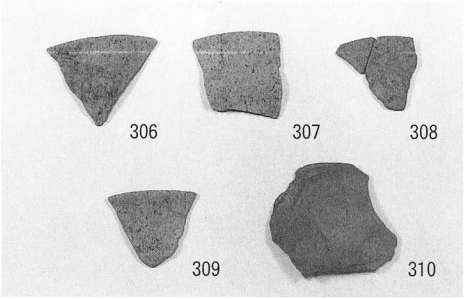

294

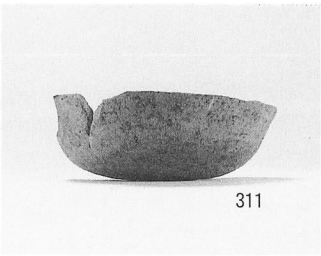

299
300

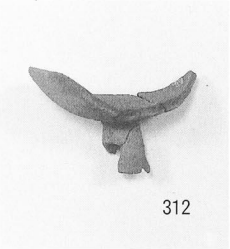

304

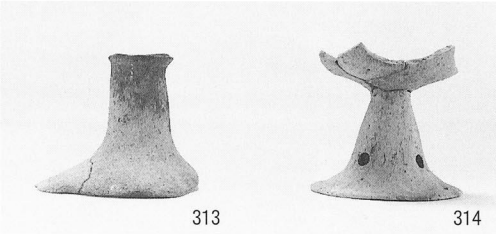
図版8（青木稲場遺跡）


305


306
307
308
309
310

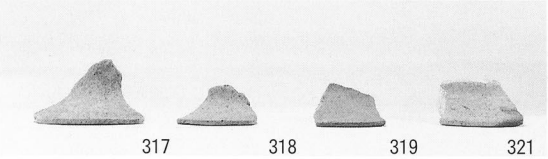

311

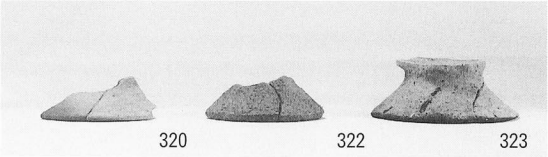

312

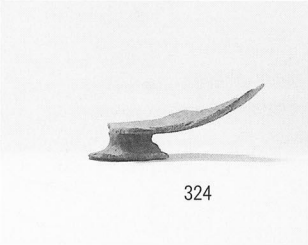

313
314

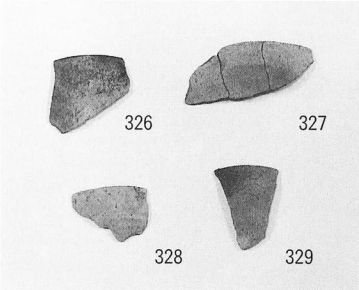
315

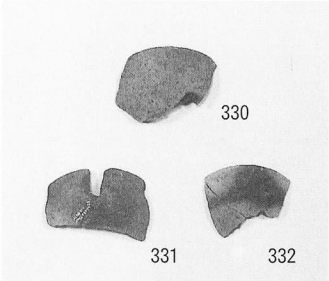
316

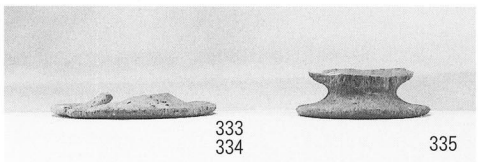

317
318
319
321

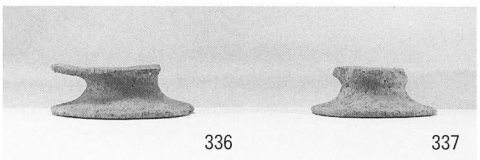

320
322
323

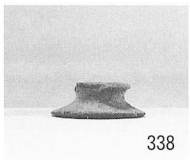

324

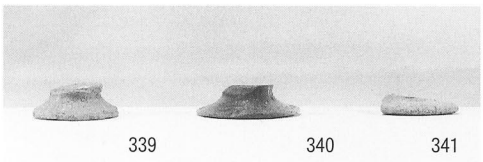

326
327
328
329

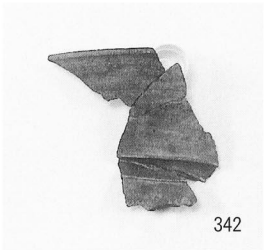

330
331
332

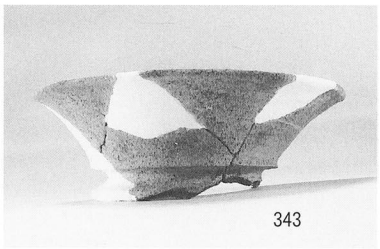

333
334
335

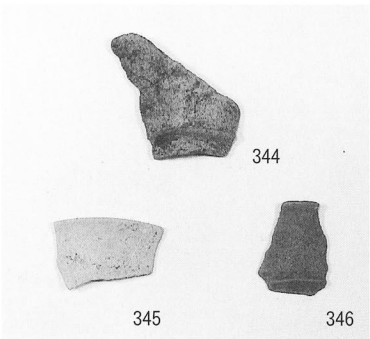

336
337

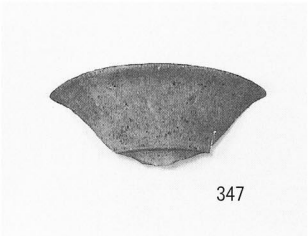

338

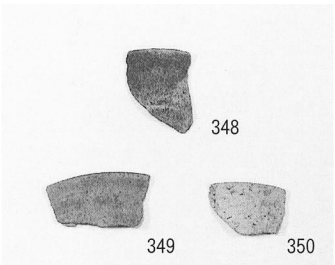

339
340
341

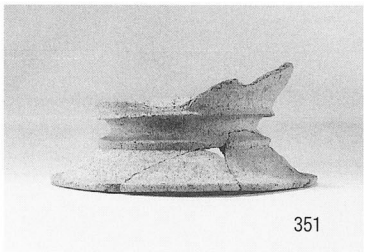

342

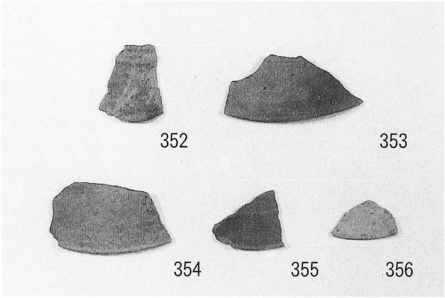

343

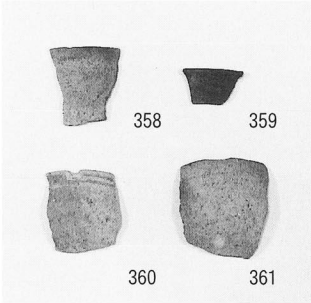

344
345
346

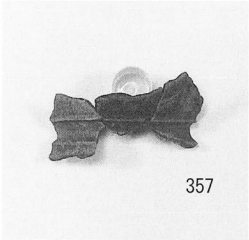

347

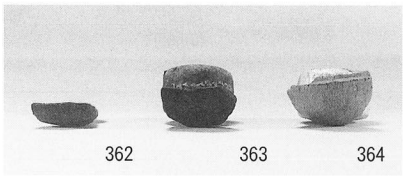

348
349
350

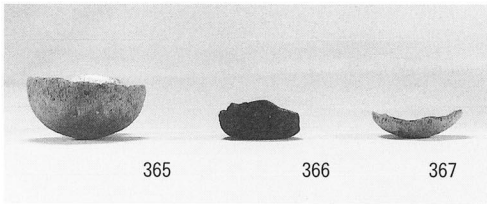

351

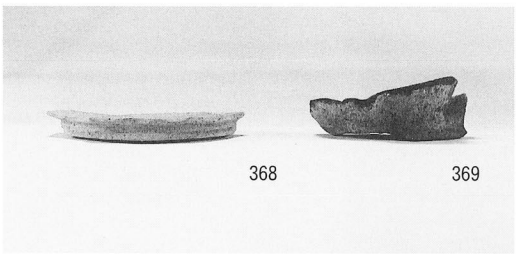

352
353
354
355
356

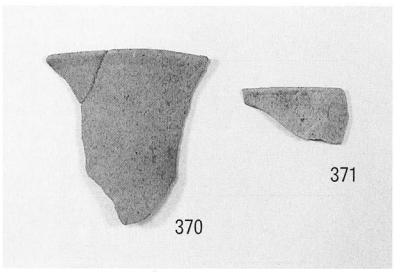

358
359
360
361

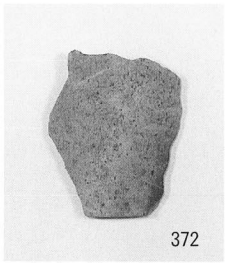

357

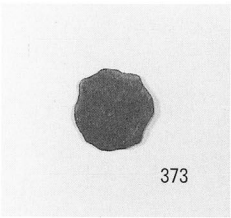

362
363
364


365
366
367

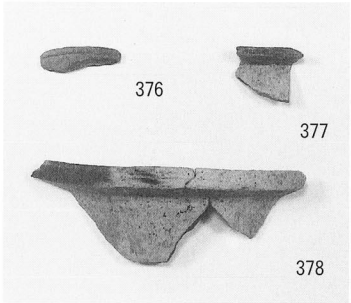

368
369


371
370

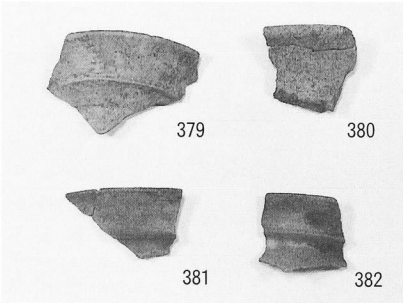

372

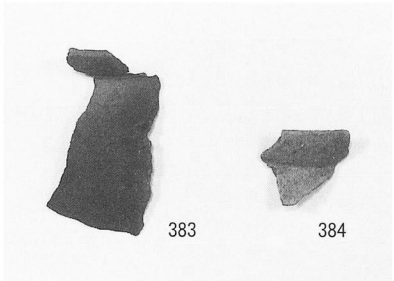

373

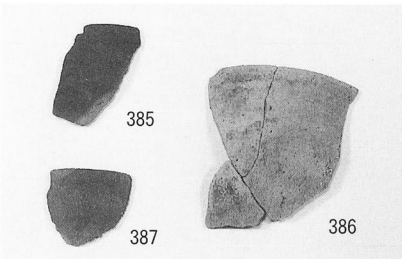
374

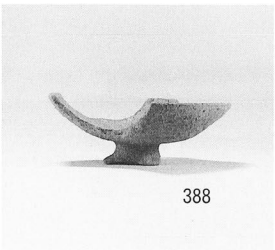

376
377
378

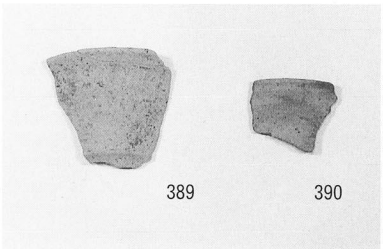
375


379
380
381
382

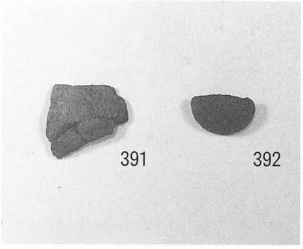

383
384

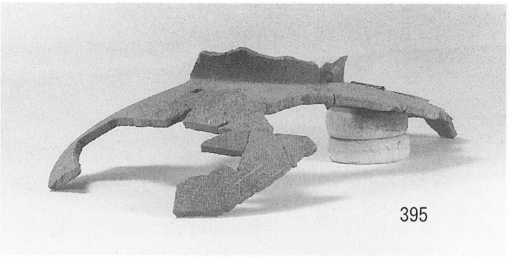

385
387
386

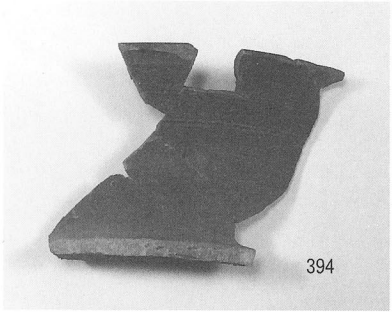

388

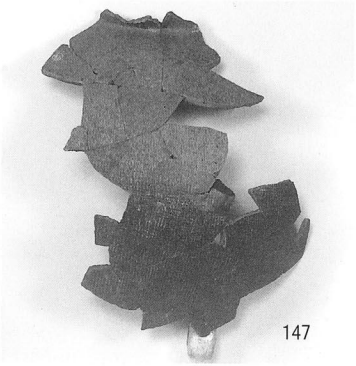

389
390

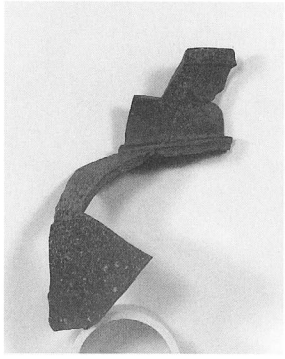
図版10（青木稲場遺跡）

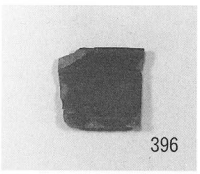


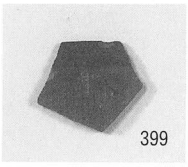




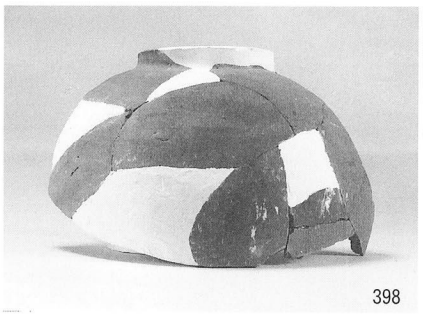


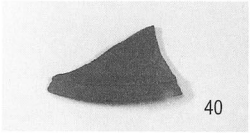


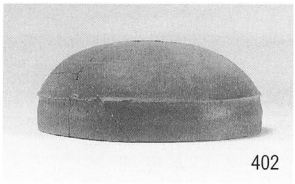


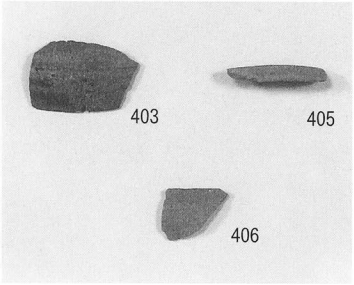


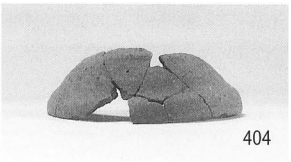
148

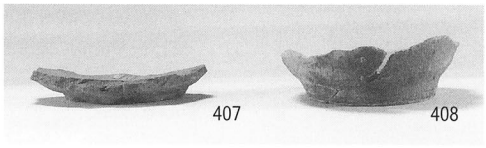


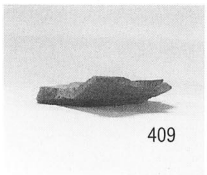


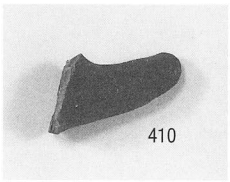


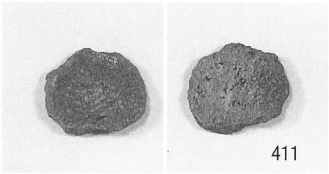


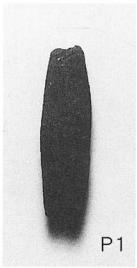


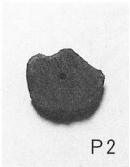


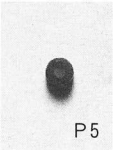


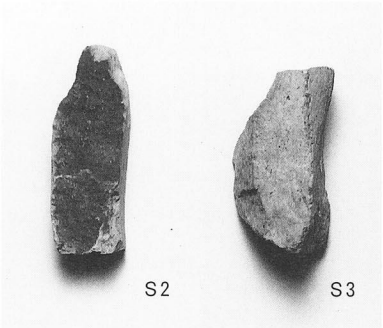


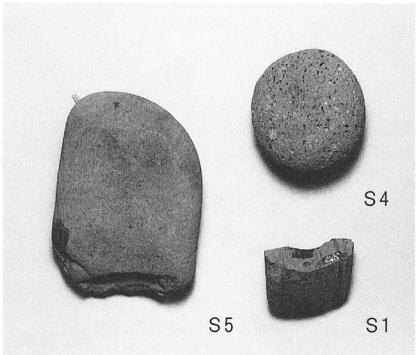


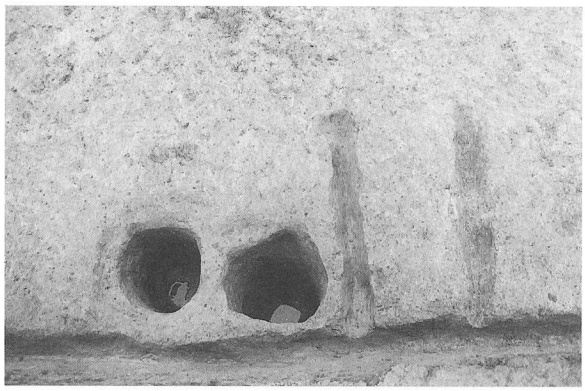


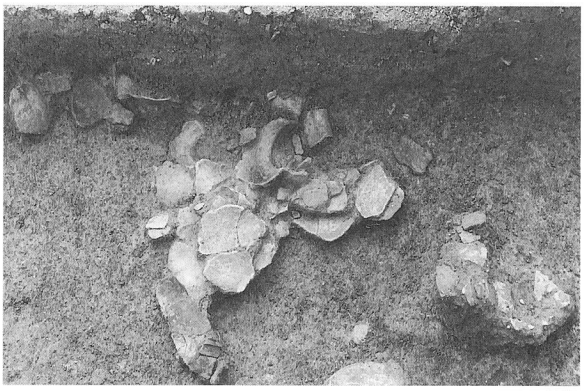












調査前風景	調査前風景（伐採後）
SI－01、02完掘	SI－02特殊ピット
SI－03完掘	SI－03特殊ピット
SI－03遺物出土状況	

図版12（福市遺跡　大成地区）

SI－04完掘

SI－05完掘

SI－06完掘

作業風景（東から）

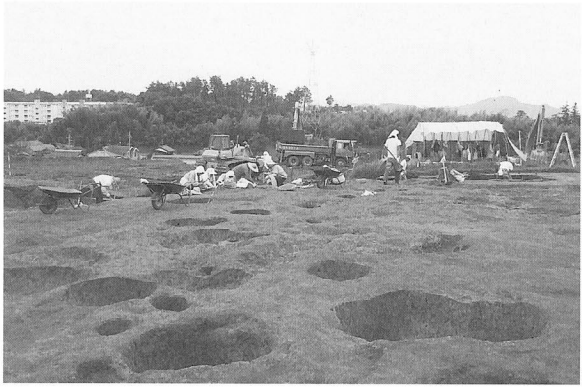
SI－07床面検出状況

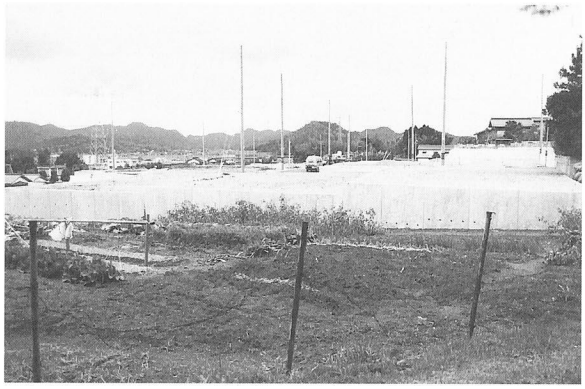
SI－07遺物出土状況

SI－07特殊ピット

SI－07完掘

図版13（福市遺跡　大成地区）

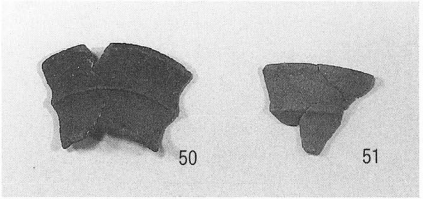


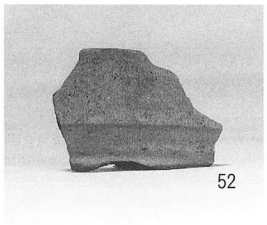


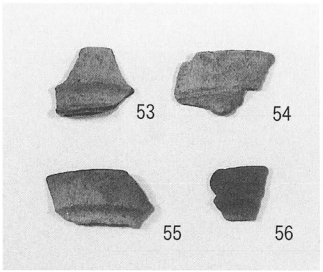
作業風景	SI－08完掘
SI－10、12完掘	SK－01、02
SK－01完掘	SK－02完掘
調査終了状況	

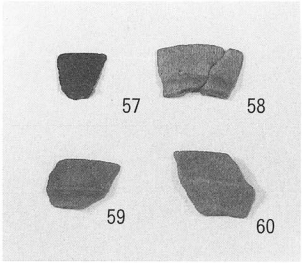
図版14（福市遺跡　大成地区）

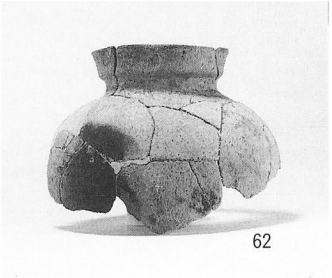
図版15（福市遺跡　大成地区）

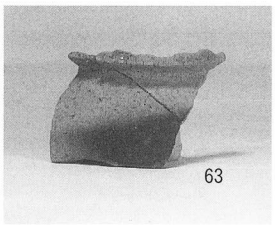


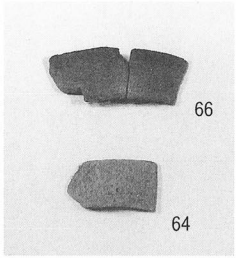


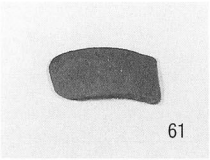


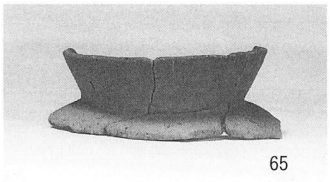


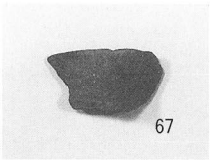


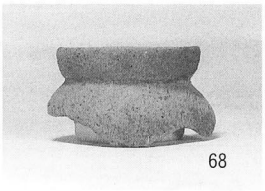


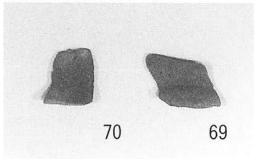


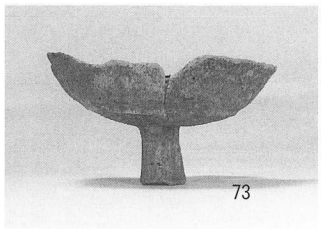


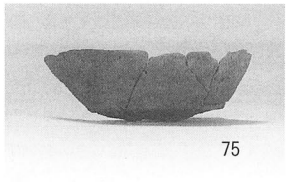


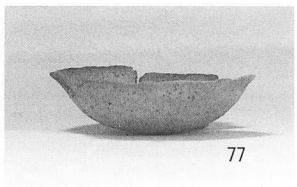


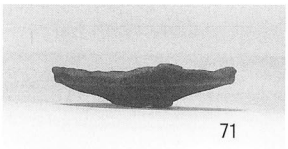


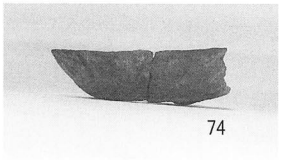


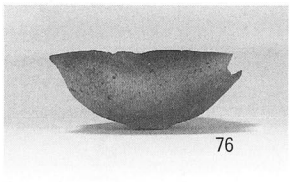


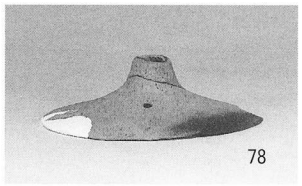


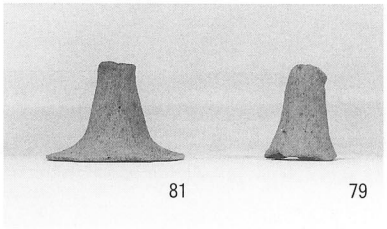


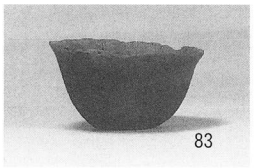


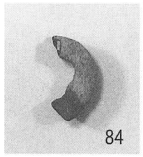


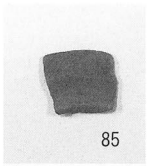


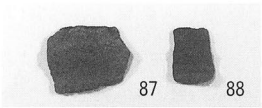


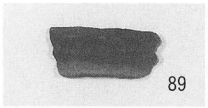


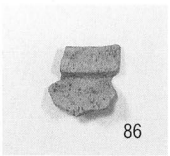


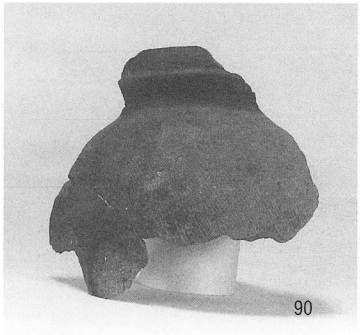


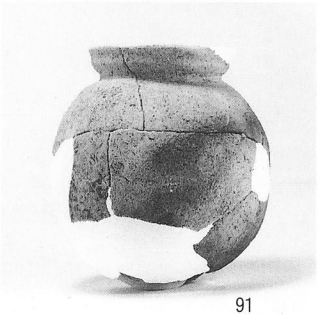


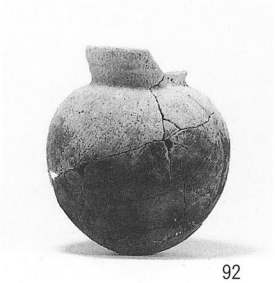




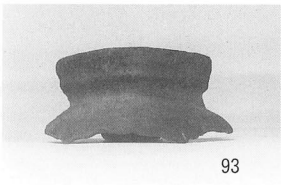


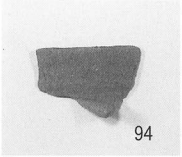


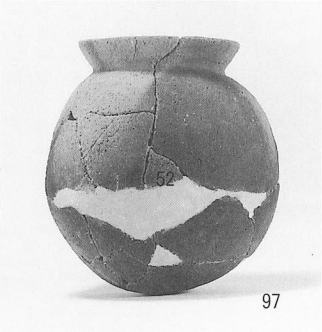




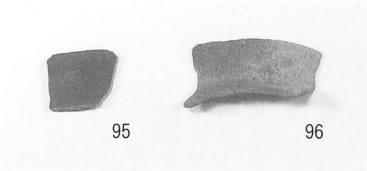
図版16（福市遺跡　大成地区）

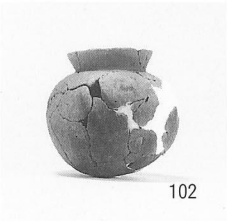

93

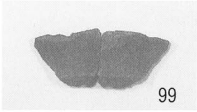

94

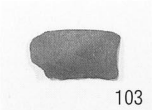

97

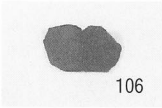
98


95 96


102

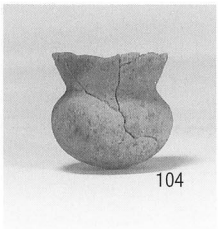

99

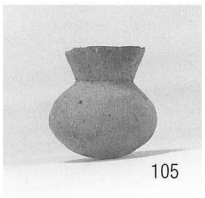

103


106

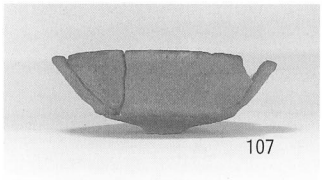
100

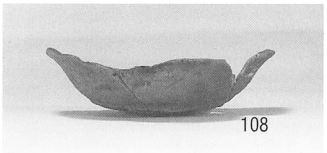
101


104


105

118

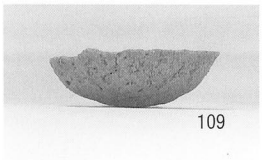

107

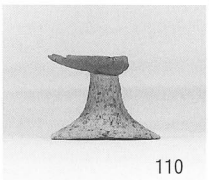

108

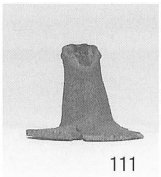
112

130

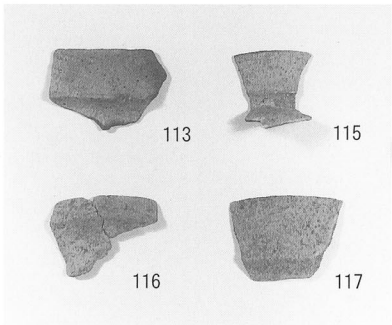
120

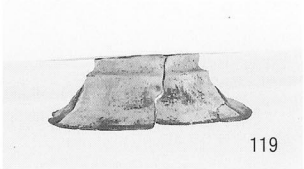

109


110

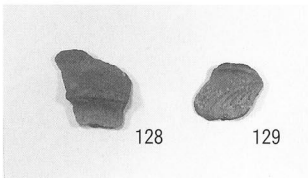

111

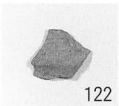
121

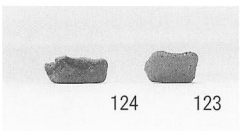

113 115 116 117

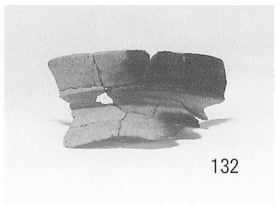

119

131

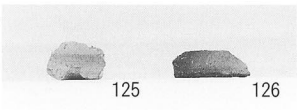

128 129


122


124 123

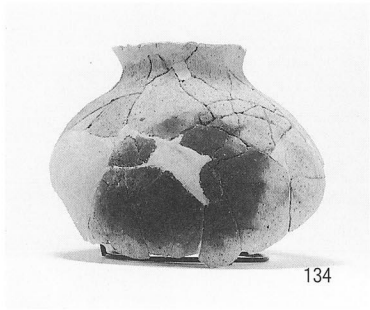

132

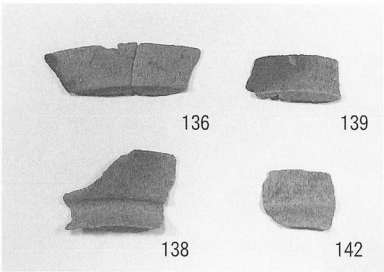
133

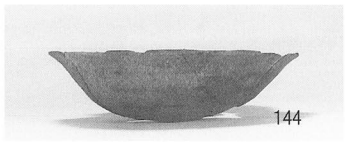

125 126

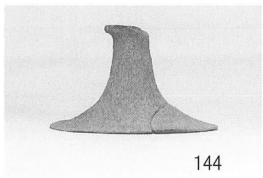
127

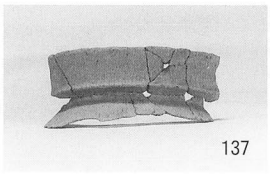
図版17（福市遺跡　大成地区）

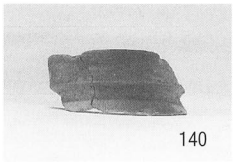

134

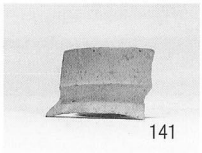

136 139 138 142

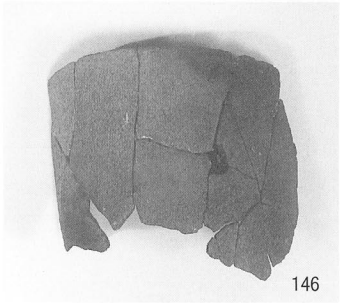

144

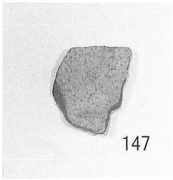

144

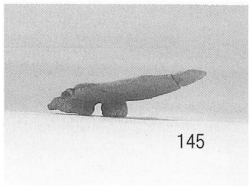

137

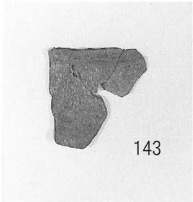

140

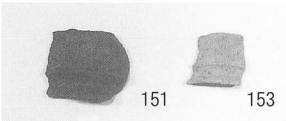

141

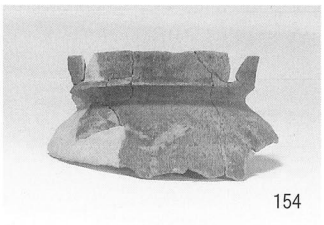

146

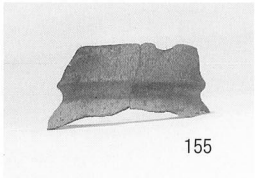

147

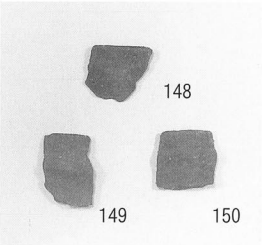

145

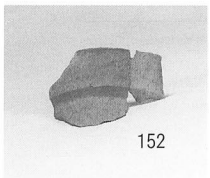

143

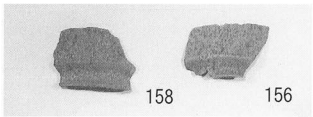

151 153

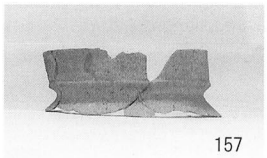

154

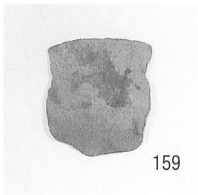

155

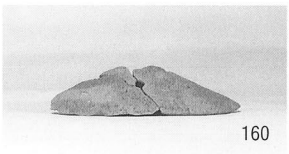

148 149 150

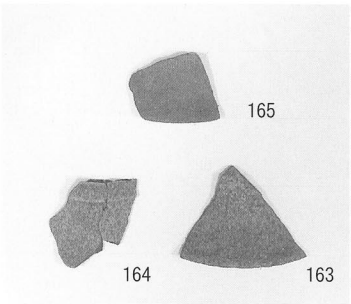

152

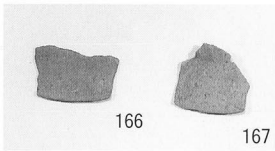

158 156


157

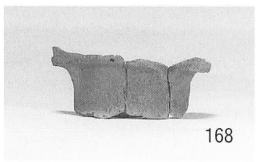

159

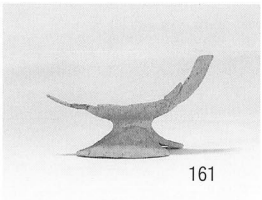

160

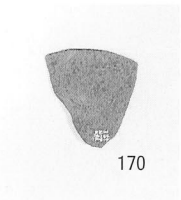

165 164 163

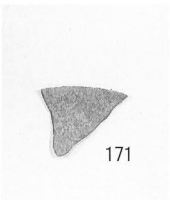

166 167

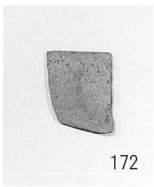
162


168


161

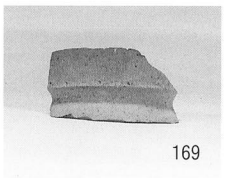

170

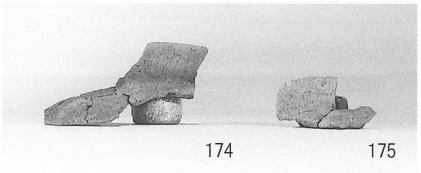

171

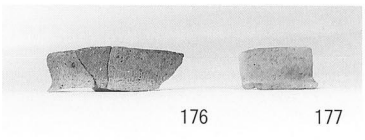

172

173

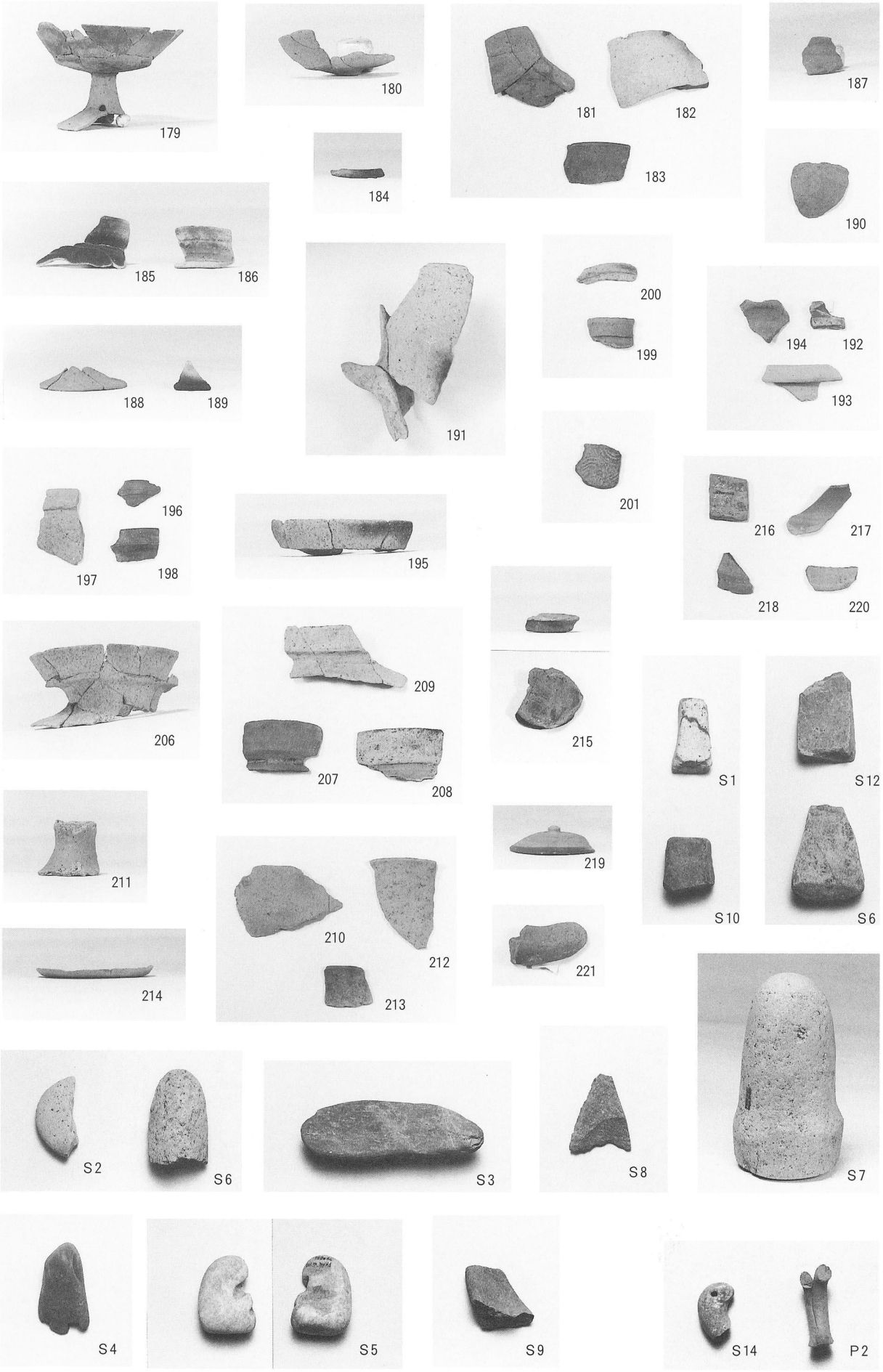
178


169


174 175


176 177

図版18（福市遺跡　大成地区）



報告書抄録

ふりがな	あおきいなばいせき・ふくいちいせき（おおなりちく）
書名	青木稲場遺跡・福市遺跡（大成地区）
副書名	
巻次	
シリーズ名	（財）米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	35
編集者名	平木裕子
編集機関	財団法人　米子市教育文化事業団　埋蔵文化財調査室
所在地	〒683－0822　鳥取県米子市中町20　TEL（0859）22－7209
発行年月日	西暦　2000年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
青木稲場遺跡	米子市兼久（よなごしかねひさ） 393－1	31202		35度 23分 87秒	133度 22分 10秒	19990601～ 19990709	400㎡	宅地造成
福市遺跡	米子市福市（よなごしふくいち） 403－1	31202		35度 23分 90秒	133度 22分 05秒	19990708～ 19990902	1,600㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
青木稲場遺跡	集落跡 遺物包含層	古墳時代中期	竪穴住居跡	弥生土器・土師器・須恵器・韓式土器・石製品・玉類	
福市遺跡 （大成地区）	集落跡	弥生時代後期 ～ 古墳時代中期	竪穴住居跡	弥生土器・土師器・須恵器・石製品・玉類	

（財）米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書35

青木稲場遺跡
福市遺跡（大成地区）

２０００年３月

編集・発行　財団法人米子市教育文化事業団

〒683－0822　鳥取県米子市中町２０

印　　刷　（有）米子プリント社